
遊戯王デュエリストクイーンズ

イルフレーム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王デュエリストクイーンズ

【Nコード】

N0396H

【作者名】

イルフレーム

【あらすじ】

混沌の世界で天井遊奈と彼女の仲間達が女性の尊厳のためにデュエルで男性デュエリスト戦う、女性デュエリスト達の女のたたかい！尚、【第9話からは、オフィシャルカードも出ます！】『小説家になろう秘密基地の新イラストコーナーにこの小説のキャラクターイラストを載せています。良ければ見てください。』【ただ今、一話、二話をリニューアルしました。三話も近い内にリニューアルいたします。】

第0話 遊奈の過去と今の世界（前書き）

初めましてイルフレームと言います。このクイーンズわ基本的にオリジナルカード、女性キャラクターがメインです。でも皆さんが遊戯王のこのキャラクター出して 言えばちゃんとしていますから。安心してください。それと面白いと思たらお便りください。それでわこれから、ヨロシクお願いします

第0話 遊奈の過去と今の世界

混沌の時代、暗闇の空の下少女は言った。

女は男寄り下の下等な存在何かじゃない、女は男に支配 されるために 存在するんじゃない、私はそんな事の為に生きているんじゃない。

今度は私自身が奪い取ってやる、存在を、命を、 生きる資格と権利を、必ず。

彼女の名前は 天井遊奈あまいゆうなこの混沌の世界に生きる、犠牲者である。彼女は幼少の頃に闇のデュエルで負けた、実の両親により人身売買を請け負う商人に売られた、過去がある。結局その後彼女の両親はその商人の手によって殺害され、その後死体から臓器を奪い取られて商品にされた後死体を焼かれたのだ。

その事を彼女は数年後、売られた所から逃げ出した時に知ることとなる。

今のこの世界は遊戯十代がダーク・ネスを、倒した 後の時代、ダーク・ネスが倒れた事に寄り、その力が解放され、全てのデュエリストが闇の力を手にした。それに伴いデュエリストに寄る破壊と略奪が繰り広げられた。

その犠牲になったのは、デュエルの力持たない一般人や女性や力の弱いデュエリストたちであった。警察も軍隊も戦たが闇の力の前では手も足も出なかった。

そして世界は力の強い強者が支配する混沌時代になった。

弱い者は強者に従い媚びるしかなかった、そして女たちも男の奴隷として物として生きるしかなかった。そしてその数年後、彼女、天井遊奈は立ち上がった。必ずこの手で 男たちを倒す。

そして思い知らしてやる。

女が男寄り優れている事を必ず。待っている。こうして天井遊奈の過酷なデュエルがここからはじまた。

第1話 お使い遊奈と女の子（前書き）

すいませんまだ、デュエルしません でも次しますから、話しだけでも楽しんでください

第1話 お使い遊奈と女の子

暗い夜道を目付きが鋭い顔立の良い、茶色い髪の少女が一人言を言いながら歩いている！

「全く今の社会は腐り切っている！

デュエリスト達は力に任せて壊しては奪うだけ、奪われる者達はただ黙って奪われるのを見ているだけで、自分達では何もしないで、ただ、世の中が悪いと下を向いて言うだけだ！

そして、他の者は、自分達に被害が及ばない要に見て見ぬ不利。ただ、そうするだけだ！

なのにそれでも、こんな腐った世界でも、ただ日々を無駄に過ごして。

世界が自分達の都合の良い様になりますように、自分が幸せに幸福になりますにと努力も何もしないで！ただ自分達の利己的な都合を祈るだけだ！

そして、女達もただ黙って強者に従うだけで何もしない！

これをクズと言わなければなんだ！！

腐っているこの世界は腐ってる！！ いや寧ろ腐ってるのは、世界の方じゃなく人間達その者だ！！

それでも、人間達には救いが残っている。それは、この私がこの世界に存在している事だ！

だから、私が必ず、この世界を支配するデュエリスト達を、この手で葬り去ってこの世界を手に入れてやる！」

彼女の名前は天井遊奈、こう見えて頭が良い17歳の美少女だが、性格と口が悪いそれでも、デュエルの腕は一流に近いので、この様な大言も彼女の中では言えて当たり前前の言葉なのだ！

その彼女の使うデッキは様々物に寄生する、パラサイトモンスターで組まれた、パラサイトコントロールデッキだ！

このデッキで今まで一度してデュエルで負けた事がない！だからこそ、彼女はデュエルに関して、自分自身の力を何よりも、誰よりも高く評価していた！

「それに仕手も、クルナの奴、こんな時間に人にお使いさせる、何て何に考えてるの欲しいカードがあるなら自分で買いにいけ」

「ハアア、早く帰ろ」

クルナ問わ遊奈の数少ない親友で、性格と口の悪い遊奈の少ない理解者で合って遊奈が頭が上がらない数少ない人物だ！

遊奈は途中、人気のない裏道を歩いていると横から誰かが、息お切らせながら近づいてくる事に気付いた。

「誰だ、子供？」

そこには中学生ぐらいの女子が息を切らして立っていた！

「ハアハア助けて、助けてよ、そこのお姉ちゃん！」

「助けて、て言われてもねえ。お姉さん人を助けられるほど、お金無いからバイバイ！」

「そんな冷たい事、言わないで助けてよ！　お願い助けて、……
きゃあああー！」

女の子は背後から三人組の男の一人りに髪の毛お捕まれて、痛みと共に驚き、慌て二目いた！

「手間かけやがて！」

その隣でもう一人のヤクザが、怒り顔で口を開いた！

「暴れんなよ、次は殺すぞ！　でそっちの姉ちゃん、アンタコイツの知り合いか？」

突然無関係の自分がヤクザに目を付けられた、事に驚きと共に怒りを感じた遊奈は冷たい表情で言った！

「私には全く関係ない！」

ただの赤の他人だ！　殺すなり犯すなり好きにしろ。だから、私に
よるな！」

「ひどいひどいよ！　それでも人間か、この人でなし！　ねえ、
お願いだから助けてよ！」

「関係ないって言ってるだろ！」

「悪いがそうはいかねー、一緒に来て貰うぜ！」

「馬鹿が私は金も無いし、家族もいない。だから、お前達が望む
大金などないぞ！」

遊奈は少し必死な表情で、そう言ったが。

二人のヤクザは取り合う筈もなかった。

「其なら都合が言いじゃないか」

「そうそう、アンタ美人で背丈も長いしスタイルも良いから客かなり撮れるぜ！」

「ふざけるな私に触れて見る二度と女を、抱けない体にしてやるぞ！ 覚悟して置け！」

「益々気にいたぜ。そんな訳で、来てもらうぜ嫌ならデュエルで何とかしてみな！」

「なら望み道理に血祭りに上げてやる」

「え、マジでやるの。
先生先生出番ですよ！」

「なに」

呼ばれて後ろから三人目の、黒いマントの男がきた。

「姉ちゃん気が強いのは結構だがな、身の程を知らないと行けねぜ。たぶり教えやるよ！」

はたして遊奈は勝てるのか？

次回に続く

第1話 お使い遊奈と女の子（後書き）

次からちゃんとデュエルしますから、皆さん飽きずに待っていてください

第2話 パラサイトデッキ

混沌の時代、デュエリスト達は自分の欲望を満たす為に今も醜い争いを、繰り広げていた。

「行くぜ姉ちゃん」

デュエル

デュエルが始まると同時に互いにデュエルディスク起動させて、五枚をドロウする。

互いのライフポイントは8000で、デュエルをスタートする。

「姉ちゃん、先攻はやるよ」

黒マントの用心棒は遊奈を甘く見ており、その油断から遊奈に先攻を譲る。

「なら遠慮なく」

遊奈はそれを素直に受けとめて、自身のターンを開始する。

遊奈は体重を左り側にかけて右手で左胸の隣側にある。左手のデスクに手を伸ばしカードを強く引く。

「私のターン、ドロー！」

遊奈が引たカードはモンスターカードのシヴァのカードだった。

【シヴァ レベル4 アンデット族 攻撃力1000 守備力800
地属性 オリジナル 効果】

「このカードが戦闘で破壊された時このカードを破壊したモンスターの守備力がこのカードの攻撃力よりも低い時、そのカードを自分の場に移しこのカードを装備する。装備モンスターの攻撃力と守備力をこのカードの数値上げる。
装備したこのカードが破壊された時、装備モンスターを持ち主のデッキの上に置く。」

「いいカードが来た。」

私はシヴァを攻撃表示で召喚」

遊奈が召喚したシヴァの外見は。ヤギと人が融合した様な、ひ弱な姿で。手足が細長く腐った匂いのする化け物の姿だった。

「更に私はカードを二枚伏せてターンエンド」

その様子を見ていた女の子は

「お姉ちゃん頑張つて、絶対に負けないでよ。お願いだからね！」

それを聞いた遊奈は女の子の方を振り向き、その鋭い眼光を向ける。

「勝手な事言うな！ 誰のせいだと思ってる」

「うう、こ、怖い。……（ちい、あの女下手に出ていれば、付け上がりやがって。あとで殺すか！）」

遊奈からの予想外の威圧感に、女の子は恐怖し恐れを成した。

だが、それは表面上で、だけだった！

彼女は内に常人では、計り知れない殺意を秘めている。だが、それはまだ表には出ない。

そして、遊奈のターンが終わり、黒マントの用心棒にターンが移る。

「俺のターンドロ、フンなかなかの引だぜ。俺はこのカードを攻撃表示で召喚するぜ、姉ちゃん！」

【無敵の魔騎士サタン レベル4 戦士族 オリジナル 闇属性
攻撃力1800 守備力1300】

『効果このカードは魔法とトラップカードの効果では破壊されない。戦闘でモンスターを倒す度にこのカードの攻撃力100アップする。』

「いくぜ、姉ちゃん！ 無敵の魔騎士サタンでシヴァに攻撃。カオスソード」

黒い鎧兜を着けた悪魔が魔が魔がしい光りを放つ、その手には鮮やかで重々し剣を持ち。腐ったヤギと人の化け物にその剣を降った。その時、

「トラップ発動強制軽量化」

【通常トラップ オリジナル】

『相手モンスターの攻撃時に発動する。そのモンスターの守備力を発動ターンの間0にする。その後デッキから2捨てる。』

「馬鹿がサタンは魔法、トラップでは破壊されないぜ。無駄無駄！」

「馬鹿は貴様だ。このトラップには直接的破壊効果は無い。だが、貴様の様な中年二ト同然の悪党にはこれで十分だ」

遊奈のその抽象を聞いた黒マンツの用心棒は。

「ちい、きれいな顔に似合わず、口が悪いな姉ちゃん。……そんなんじゃない、男にモテないぜ」

黒マンツの用心棒は皮肉をこめてそう言ったが。遊奈の捉え方は違

った様だ。

「それはどうも。お誉めに預かり光荣だわ」

「どうやら遊奈自身は余り男性と交流関係を、持ちたくない様だ。

「ちい、（何て自分勝手な女だ。）姉ちゃん誉めてないぜ」

黒マントの皮肉を無視して遊奈は自分のカードの発動を進める。

「それじゃ、改めて強制軽量化の効果発動するわよ。このカードはサタンの守備力を0にする。そしてコストでデッキから2枚捨てる」
捨てたカードの内容は以下の通り。

【パラサイト・リバーズ レベル3 昆虫 雷属性 オリジナル
攻撃力500 守備力 300 効果】

『このカードが墓地にある時相手がカードのセットに成功した時、このカードをゲームから除外して、そのカードの発動権利をえる（ただしそのカードを確認出来ない）』

遊奈がコストで捨てた、パラサイト・リバーズの枚数は2枚。

そして、遊奈は軽く鼻で笑うと、堂々とした態度で、戦闘の幕を開ける。

「バトル！」

シヴァはサタンの剣によって無惨に切りさかれる。

それにより遊奈自身にも少なからずのダメージが走る。

「くろう」

遊奈は右手を頭に左手を胸に当てて、耐える様にして受けた。

これにより、遊奈のライフは8000から7200に減少を見せる。

「シヴァの効果発動。その効果により、シヴァを倒したサタンを私の場に移す。そしてシヴァをサタンの装備カードとしてサタンに装備する。」

これにより、その攻撃 守備力をサタンの攻撃力に加え、更にサタンの効果で更に1000ポイントアップ。

合計は攻撃力2900 守備力 2100になる」

「なに、馬鹿なこれでは俺は負ける。……） 駄目だ、負ければあの姉ちゃんは闇の力で間違いない俺を殺す！ 何とかしないとけないぜ）」

黒マントは手札から2枚のカードを伏せる。

「（仕方ないこの二枚の攻撃無効トラップで、防ぐしかない。）俺はカードを二枚伏せてターンエン」

その瞬間遊奈が割り込みをかける。

「待った、この瞬間墓地のパラサイト・リーバス効果発動。相手がカードのセットに成功した時、墓地のこのカードを除外してセットカードの発動の権利を得る」

「なに、そんな事が」

「パラサイト・リーバス2枚を除外して、お前のセットカードの発動権利を得る。ただしカードの確認は出来ないが」

そして、黒マントのターンエンドは受理されて、遊奈のターンに移行する。

「私のターンドロー！」

遊奈は左手のディスクを 顔の目の前に寄せてくると鋭い眼光を黒マントに向けて、そのまま相手を威圧してドロウする。

「来たか！」

遊奈がドロウしたカードは彼女のデッキで最強の力を持つカードだった。

【パラサイト・キング・セカンド レベル8 オリジナル 闇属性

昆虫族 攻撃力 3000 守備力2500 効果】

『相手の場のセットカード二枚を指定する。指定したカード二枚を破壊してこのカードを特殊召喚する。』

二枚の内どちらか1枚でもオーブンした場合自分は3000ダメージを受ける。そしてこのカードを相手の場に特殊召喚する。

このカード意外の自分の場のカード全て破壊して、このターンもう一度攻撃する事が出来る。』

「手札よりパラサイト・キング・セカンドの効果発動。相手の場のセットカード二枚を墓地に送り、このカードを特殊召喚する」

遊奈が指定したカードは黒マントが先程伏せた起死回生のリバーズカードだった。

そして、遊奈の場に羽の生えた巨大な寄生虫が姿を表し黒マントのリバーズカードを食い散らかす！

「シヴァサタンでお前にダイレクトアタック。攻撃力オスソード」

シヴァが取り付いたサタンは遊奈の命じるままに自分自身の主を、その刃の矛先で斬りかかる。

「くううう、 たがが、ライフが8000からになったただけだ。 5
100。ま、まだ、大丈夫だ！」

その様子を見た遊奈は軽く微笑むと、更なる追撃をかける。

「更にキング・セカンド で攻撃！ ファーストインパクト」

巨大な寄生虫がその口から強力な光を放つ。その光は熱線となって、黒マントを貫く。

「ぐうああー！」

黒マント痛みに苦しみを見せて足をふらつかせる。

黒マントのライフは今の攻撃で2100に減少を見せている。そこに遊奈の容赦無い止めの追撃が加えられる。

「フン、これでとどめだ！ キング・セカンドの効果発動。このカード意外の全ての自分のカードを破壊してもう一度攻撃出来る」

再び強力な寄生虫がその口から強力な光の熱線を放つ。

「行けキング・セカンド攻撃セカンド・インパクト」

再び熱線が黒マントの用心棒の体を貫く。

そして、ライフは0となり、男は悲鳴と共に倒れる。

「ぐうあああー！」

次回に続く

第3話、遊奈の新しい家族（前書き）

皆様からの、ご指摘を受けて、少し読み安くしました、また何か不備が有りましたら、ぜひともご指摘ください、今後ともお見捨てなく。

第3話、遊奈の新しい家族

(遊奈) 「とどめ、キング・セカンドで、攻撃セカンド・インパクト。」

遊奈は、手を相手に向けて、そう言った。

相手のライフは、2100 対する、キング・セカンドは

攻撃力3000、 攻撃が当て、相手のライフ 0。(

黒マント) 「 ぐうああ。」

相手は、悶え苦しみ、倒れた。

今の世界は、ダークネスが、倒れた事により、闇の力が、解放され、全てのデュエリストが、闇の力を手入れた事により、各地で闇のデュエルによる、犠牲者が、 続発し、負ければ死の、暗黒のデュエル時代に突入した世界だ。

(遊奈) 「 死んだか、馬鹿な奴だ、私に戦いを挑むからそうゆう事になる。」

(女の子) 「 やった、お姉ちゃんが勝った。」

(ヤクザA ・ B) 「せえ先生が負けた、このままじゃー、俺達も殺される、に 逃げるー。」

2人は逃げて行った。

(女の子) 「ふう、助かった、ありがとうお姉ちゃん」

女の子は、微笑みそう言った。

(遊奈) 「 うるさい誰のせいだ。」

遊奈は少し怒った顔で言った。

(女の子) 「まあまあ、そう言わずに、お願い許して、お姉様、次いでに私行く所無いから、お姉様と 一緒に行つて良いよね、駄目?」

(遊奈) 「呆れた、もう勝手にしろ。」

(女の子) 「やったー、ありがとう。」

「でも私し、ふかふかのベッドじゃないと眠れないし、ごはんは毎日ハンバーグとオムライスが良いな。」

女の子は図々しく言った。

(遊奈) 「ハア、もう好きにして、所でアンタ名前は。」

(女の子) 「夢弓、人道夢弓」

「しんどう・ゆめみ」だよ、お姉ちゃんは。」

(遊奈) 「私は天井遊奈だ、よろしくね、夢弓、それから私の事は遊奈で良いからな。」

(夢弓) 「うん、よろしくね遊奈ちゃん。でも案外優しいね、私手きり恐い人かと思ってたから。」

(遊奈) 「いきなりあれ、だとね。」

(夢弓) 「あはは…ごめん」

(遊奈) 「もう良いから、それよりも何で案な奴らに、親に売られたのか？」

(夢弓) 「うん…そんな所、でも仕方ないよ、お父さんもお母さんも弱いから仕方ないよ、全部弱いから私が弱いからこんな目にそれ今時私見たいな子珍しくないよ。」

(遊奈) 「そうね。」

(夢弓) 「うん、そうだよ」

これ以上二人はこの話をしなかった。

(遊奈) 「行こうか夢弓。」

(夢弓) 「うん。」

二人はそう言うと言いき出した。しばらく歩くと、
人気のない住宅街に出た、そのまま進むと大きな屋敷の門の前に着いた。

(遊奈) 「着いた、ここよ」

(夢弓) 「え、ここなの、でも凄く大きいよ、いいな私も一度で良
いからこんなお屋敷に住んでみたいな。」

(遊奈) 「心配しなくても、好きだけ住めるわよ。」

(夢弓) 「え、本当なのそれ？ 嘘でないよね。」

夢弓は目と口を大きく開いてそう言った。

(遊奈) 「大丈夫、嘘じゃないから、美雪、美雪、私よ遊奈よ開
けて。」

インターホンを押してそう呼ぶと、門が開いて、屋敷からメイドの
服の女性が、こっちに向かって歩いてくる。

(美雪) 「お帰りなさいませ、遊奈様。そう言って彼女は頭を下
げた。」

(遊奈) 「もう、やめてよ美雪、私達の仲でしょ。」

(美雪) 「ごめん、でもこれ仕事だから良いでしょ。」

(遊奈) 「良い分けないでしょ、でもまあ許してあげる、それよ
りこれアンタのご主人様に頼まれた物よ。」

遊奈は、ポケットのカードを美雪に手渡した。

(美雪) 「はい、ご苦労様、所でその後ろの人は誰ですか？」

(遊奈) 「ああ彼女は、人道夢弓で、言っつてその色々あって、そ
れでクルナに話がしたいの。」

(美雪) 「分かりました、それなら私がお嬢様を呼んできます、
あつ申し遅れました、私は宮坂・美雪」

「みやさか・みゆき」です、よろしくお願ひしますね、夢弓さん。

(夢弓) 「あ、はい、人道夢弓ですよろしくお願ひします美雪さ
」

ん。」

(美雪) 「はい、所で夢弓さんは何歳ですか。」

(夢弓) 「はい、14です。」

(美雪) 「そうですか若いですね、私は18歳です、ちなみに遊奈さんは17歳です、私よりも1年下です、なのに私よりも偉そうでしょ。」

(夢弓) 「うん、かなりね」

(遊奈) 「うるさい余計なお世話よ、無駄口叩いてないで、早く行きなさい。」

遊奈は少し怒りながら、美雪の肩を掴んで、強引に押し上げた。

(美雪) 「痛いですよ、遊奈さん。」

(遊奈) 「うるさい、アンタが悪いんですよ。」
少し困った顔をした、美雪に、遊奈はキツイ罵声を浴びせた。

(美雪) 「もう、分かりましたから、痛いのやめてください。」

(遊奈) 「分かれば良いんだ。遊奈は、肩の手をどけてそう言った。」

(美雪) 「本当に暴力女なんだから、そう言って美雪は先に、
屋敷の中に入って行った。」

(遊奈) 「さあ、私達も行くはよ。」

(夢弓) 「うん、分かった行こう、遊奈ちゃん。」

そう言って二人は屋敷の中に入って行った。

屋敷の中は明るく部屋数も多い、二人は広い屋敷の中を進むと、
広間に着いた、するとそこには、背丈の高い、金髪の胸の大きい、

青い瞳の女性が待っていた。

(クルナ)「お帰り待ってたはご苦労様、ごめんね態々遠い所まで行かせて大変だったでしょ、でもダイエツトになったから別に良いか、それでカードは持って来て暮れたの？」

彼女は淡々と話すと、手出して、カードを要求した。

(遊奈)「良くはないはよ、を蔭で、ひどい目に会ったはよ、でも別に良いは、これ渡すは。そう言いながら、遊奈はカードを渡した」

(クルナ)「ありがとう、本当に助かるは、でも二言、余計よ。彼女は目を細目にして、不気現そうに、そう言った。」

(クルナ)「所で後ろの、身長の低い、赤い髪の可愛らしい女の子は、誰なの？」

(遊奈)「彼女の名前は、人道夢弓、実は……。」
遊奈は、先程の夢弓との出来事を全て話した。

(クルナ)「それは大変だったはね、分かったは、夢弓ちゃん自分の家だと思って、好きなだけここに住んで良いからね、遠慮しないでねしたら怒るはよ、言いわね。」

(夢弓)「はあ、はい、ありがとうございます。」
夢弓は、泣きながら言った。

(クルナ)「泣く事ないのに、でもその変わり家の仕事は、して貰うはよ、もちろん給料も出すから、大きな顔して良いんだから泣かないで。」

(夢弓)「はい、はい、ありがとうございます。夢弓は更に大粒の涙を出して、頭を下げた。」

(クルナ)「別に良いのよ、そんなに泣かなくて、この家には他に

文句ばかり、言ってる恩知らずの口が悪い、性格ブスが、住んでい
るから、気遣いなんてしなくて良いのよ。」

(夢弓)「はい。」

夢弓は、ようやく泣き止んで、頭を下げた。

(クルナ)「そう言えば、まだ自己紹介してなかったはね、私は、
神無月・クルナ」
「かならずき」

「この屋敷の主よ、今は訳合って、美雪と遊奈と三人でこの屋敷に
住んでいたけど、今日から夢弓あなたも、私達の家族よ、これから
よろしく、お願いね夢弓」

クルナは笑顔でそう言った。

(夢弓)「はい、こちらこそ、お願いします、クルナさん。」

夢弓も再び瞼を濡らして、そう答えた。

(クルナ)「美雪、聞いた通りよ、夢弓を部屋に案内してあげて、
それと何か食べる物も用意してあげて。」

(美雪)「分かりました、

夢弓さん、こちらに来てください。」

(夢弓)「はい。」

二人は部屋に向かった。

(クルナ)「所で遊奈明日、アンタにやってもらいたい仕事がある
んだけど。」

(遊奈)「その前にアンタさっき、私の事性格ブスとか口が悪い
とか恥知らずとか、言ったよね。」

遊奈は目を引きずり、指をならして、威圧している。

(クルナ)「そ、それは言葉の綾よ、本気で言ったはけ、無いでしょ、ね許してよ、お願い。」

クルナは、必見で謝っている。

(遊奈)「分かったから、それで何をすれば良いの。」

(クルナ)「行ってきて欲しい所があるの、そこにいる、ある人物の抹殺をして貰いたいの。」

第3話、遊奈の新しい家族（後書き）

すいません、デュエル無くて、次の話しは、すると思いますから期待しててください。

第4話 美雪出陣暗殺の除去デッキ（前書き）

今まで読みずらくして、 すいませんでした、今日から書き方
変えました、少しわ良くなってると思います。だから期待してくだ
さい。それから今日から、あとかきに次回予告のせました。よかた
らそっちも見てください。

第4話 美雪出陣暗殺の除去デッキ

「遊奈アンタに抹殺して貰いたい男の名前は、クロムス・ベルブ、このあたりの人身売買を取り仕切っている男よ。」
「クルナは遊奈に男の写真を渡した。」

「分かったはで、誰からの依頼なの？」
「そんなの決まってるじゃない、この男に家族や恋人を、奪われ売られた人達よ」

クルナは紅茶を啜りながらそう言った。

「それだけじゃない、でしょクルナ？」

「それだけよ、他に誰がいるの。」

「多分その男から人身を買って、売っている企業や商人からでしょう。」
「」

クルナは啜っていた紅茶を、テーブルに置いて、遊奈に聞いた。

「どうしてそう思うの。」

「それは彼等にとってその男が生きていると、都合が悪いからでしょう。」
「」

遊奈は話しを続けた。

「恐らく上級貴族に黙って、勝手に人身売買の制限人数以上を売っていたのが、ばれて証拠を押さえられる前に始末する事に、したと思うは。」
「」

この時代、闇の力を使ったデュエルが法律であり、勝った者が正義で、勝てば何をしてもいい、つまり負けた者が全て悪い弱肉強食のデュエル時代である。

だがそんな時代でも、法律を管理支配する者はいた、それがデュエル貴族だ。

貴族には三つのクラスが存在する、一番したが通常貴族で主に上のクラスの貴族の命令を受けて、配管の手下を使って命令を事項する事が、通常貴族の目的である。

二番目が上級貴族で、法律の立案と管理が目的で、主に逆らう者と法律を破る

者を弾圧粛正して、教育と管理するのが目的である。

そして最後のクラスが高級貴族で、三つの貴族の中で最も闇の力が強く地位と権力も高い、他の貴族を支配する存在で、平民を自分達の奴隷だと思っっている。

そしてその中の上級貴族が決めた法律で、闇のデュエルによる人身売買は必ず上級貴族に申請して、彼等に許可を取り、人数制限を確認してからしないとイケない。

それを破った者は即死刑にされる。

「そうよその通りよ、やっぱり気がついたわね！」

クルナは微笑みそう言った。

「当然よこれぐらい、でもどうして隠してたの！まさか私が貴族側の依頼だと 依頼を受けないと思っっていたの？」

「まあね、だって、遊奈アンタ貴族嫌いでしょ！それに本当に人身売買の被害者からも依頼があったから良いでしょ。」
クルナはふてぶてしく笑顔で言った。

「でも嘘は嘘よ、嘘つき。」

「でも私半分しか嘘言って無いしそんなに悪く無いでしょ、それに夢弓をヤクザに売ったのは多分この男よ。」

「だから私としては遊奈アンタに、新しい妹の為に姉として、一肌脱いで欲しいのよ。」

クルナは遊奈に頭を下げている。

「分かった依頼を受けるは、何しろ妹の為だからね。」

「そう言ってくれてありがとう、なら明日の朝すぐに美雪と二人で行って来てちょうだい。」

「いいけどまだ、夢弓を家族にしてくれた訳を聞いてない、教えてくれる。」

遊奈は真剣な瞳でクルナに問い質した。

それに対しクルナは、再び紅茶を啜った後、遊奈以上の真剣な瞳で言った。

「知ってるでしょ遊奈、私がアンタ以上に貴族が嫌いだって事、案な奴ら全員死ねばいいのよ。」

少し恐い顔で、怒りながらそう言った。

「だから貴族の悪行による犠牲者を、助けたいそれだけよ。」

「それにアンタだって人の事言えないでしょ、どうして夢弓を助けてここに連れてきたの？」

クルナは逆に遊奈に問い質した、遊奈は少し困った顔で答えた。

「それは単に仕方なく、そうしただけよ。」

「それは嘘よアンタまさか、まだ昔の事気にしてるの。」

「違うそうじゃない。」

「違う、だからアンタ夢弓に昔の自分の姿を重ねたのよ。」

否定する遊奈にクルナは、彼女が自分の心の傷と同じ、心の傷が夢弓に付かない為に、夢弓を助けここに連れてきた事を指摘した。

そしてクルナは更に話し続けた。

「だからアンタは夢弓を、本当の妹と思って守りなさい、それでアンタの心も少しは晴れるは、いいもつこの話しはこれで終わり良いわね。」

「うん、分かった」

少し強引に話しを終わらせたクルナに、遊奈は軽く返事をして頷いた。

そして二人は眠りについた

翌朝 遊奈は美雪と共に依頼の合った、男の所に向かった。

「着きましたよ遊奈さん。」

二人は依頼目的の、相手のビルの前にいる。

「ここにクロムス・ベルブ

デュエルで、人身を売る人間のクズがいるの美雪？」

「ええ、その筈です、さぁ行きましよう遊奈さん。」

二人はビルの中に入って行った。

「依頼者側の配慮で目標の部屋まで、問題無く入れる筈です。」

その言葉のとうり何の問題も無く、部屋の前までたどり着いた、二人はドアを開けて中に入って行った。

「誰だ、女！なぜ女がいる、そうか新しい商品か、オイ近くに来て顔を良く見せる。」

どうやら、クロムス・ベルブは二人を、人身売買の商品だと思っているようだ。

「美しい、こっちの白い服の女は顔立ちが良く胸もデカイ、その上スタイルも良い、それに比べてそっちのメイド服の女は、顔は悪くないが、貧乳で見るところも何も無いただの小娘だ」

（白い服が遊奈で、メイド服が美雪）

「それでも観賞用に使えるか、痛め付けて死んだ後にオブジェとして死体を、ケースに入れて飾り物にするのも面白いな。」

クロムス・ベルブは美雪を完全に人間扱いしていない、当然 美雪の怒りは完全に限界点に来ていた。

「さあ、お前達服を脱げ味見してやる。」

クロムスは笑みを浮かべながらニヤニヤした顔で言った！　だが、この瞬間、美雪の怒りが限界点を超えた！

「お断りします私達は、貴方のオモチャになりに来た訳じゃありません。」

美雪は笑顔で言ったが、腸が煮えくり返っていて、笑顔が引きずっていた。

「何だと、どうゆう事だ！」

クロムスは笑みを浮かべていた表情を、少し引き摺りながら軽く怒鳴った！

「私達は貴方の雇い主からの依頼で、貴方を始末しに来ました、覚悟してください。」

美雪は笑顔で言った後に、デュエルディスクを起動させて相手に向けた。

「な、何だと奴ら俺を裏切ったのか何故だ？」

「馬鹿が調子に乗って、派手にやり過ぎたからだ！」

遊奈がそう言った後に、クロムス・ベルブは観念した顔でデュエルディスクを腕に付けて、デュエルの体勢に入った。

「良いだろそのデュエル受けてやる、ただし俺が勝ったらお前達の体を貰う良いな。」

「それは貴方が勝つたらの話しです！
遊奈さんここは私に任せてください。」

「分かった、頼んだわ美雪」

デュエル

互いに五枚ドローして手札にした、ライフは互いに 8000。

「俺のターンドロー、俺は闇商人ザビエルを召喚、攻撃表示。」

闇商人ザビエル レベル4 闇属性 悪魔族

攻撃力1000

守備力500

このカードの召喚に成功した時、手札だ二枚を捨てる、その後デッキから闇属性 モンスター一枚を手札に加える。このカードが戦闘で破壊された、次の自分ターンに通常召喚を二回まで行える。

「俺はザビエルの効果発動俺の手札二枚を捨てる、そしてデッキから闇属性モンスター一枚を手札に加える、俺はこのカード暗黒魔天使ゼルエルを手札に加える、ターンエンド」

「私のターンドロー 私はこのカードを召喚攻撃表示」

地獄のナイトアサシン

レベル4 闇属性 悪魔族

攻撃力1400 守備力800

効果

このカードの召喚時、相手の場にモンスターが一体しか存在しない時、相手のそのカードを破壊して相手に500のダメージを与える。このカードが相手に戦闘ダメージを与えた時このカードを持ち主の手札に戻す。

「私は地獄のナイトアサシンの効果発動、相手のモンスターが一体の時、それを破壊して手札に500のダメージを与えます。」

ナイトアサシンの効果で、ザビエルは破壊された、これによりクロムスのライフ7500。

「更にこの瞬間、手札の地獄のカマキリ効果発動です、このカードは自分がカード効果で相手モンスターを破壊した時、手札から特殊召喚します、そしてデッキから1枚ドローできます。」

「ドロー私は地獄のナイトアサシんで貴方を攻撃ヘルブレイク。」

「くっ、くそー」

ナイトアサシンの攻撃がクロムスに決まった、クロムスライフ6100。

「この瞬間ナイトアサシンの効果発動です、相手に戦闘ダメージを与えた時手札に戻ります。」

「更に私は地獄のカマキリで攻撃します、攻撃力は600です。」

地獄のカマキリの攻撃も、クロムスに当たりライフ
5500

「そしてこの瞬間地獄のカマキリも効果で、手札に戻ります、私は
カードを二枚伏せてターンエンドです」

次回に続く

第4話 美雪出陣暗殺の除去デッキ（後書き）

次回予告

美雪はクロムス・ベル

ブとのデュエルの中、勇戦して徐々に、クロムスを追い詰める。

そして追い詰められたクロムスは、ついに切り札を出して美雪に襲いかかる。そんな中は一人の少女が遊奈の前に、立ちはだかる。

次回デュエリストクイーンズ第5話 宿命のライバル お楽しみに
（クルナ）より

第5話宿命のライバル（前書き）

更新遅れてすいません。 だいたい一週間ぐらいで更新します。
それと良ければ皆さんお便りくれませんか？質問でも、何でいいん
でお願いします。

第5話宿命のライバル

美雪とクロムス・ベルブのデュエルは、互いに1ターンが過ぎ、美雪が勇戦していた。美雪の場にモンスターはなく、リバーカードが二枚あるだけだ。

対するクロムス・ベルブは同じく場にモンスターはなく、リバーカードもない状況で、ライフポイントも 5500と、8000の美雪に対し先制された形になった。

だが 手札の数は美雪が五枚、対するクロムスの手札はこのターンのドローで同じ五枚になる、手札の数ではまだ互角だった。

「くう、俺のターンドロー、ネクロマンサードドラゴンを召喚攻撃表示。」

ネクロマンサードドラゴン

レベル4 闇属性 ドラゴン族 攻撃力1450 守備力800

オリジナル 効果

このカードが効果で、破壊された時、自分の墓地から攻撃力1000以下の闇属性モンスター1体を特殊召喚する。

「いくぞ俺はネクロマンサードドラゴンでダイレクト・アタック」

黒い霧に包まれたドクロを手に持った、ドラゴンが美雪に襲いかかる。

「くられ、そして俺の前にひれ伏して女として許しを越え。」

「慎んでお断りします。トラップ発動です、ナイトメア・ハンド、このカードでそのモンスターを破壊します。」

ナイトメア・ハンド オリジナル 通常トラップ 効果

相手のモンスターが攻撃した時、そのモンスターを破壊して、攻撃力の半分のダメージを相手に与える。

「この効果でそのモンスターを破壊して、攻撃力の半分のダメージを与えます」

ネクロマンサードラゴンは黒い光の刃によって切り裂かれた。そしてその刃は勢いに乗り後ろにいたクロムスに襲いかかった。

そしてクロムスのライフが4775に減少した。

「なにつ、この貧乳女目必ずこのデュエルで、貴様を手に入れて、毎日傷みと快樂で調教してやる。そして最後には貴様を殺し、その首を切り落とし、その後加工してオブジェにしてやる。そして次はそっちの美しい女を、貴様の首の目の前で毎日快樂で調教してやる、楽しみにしてるんだな。」

「最低ですね、男としても人間としても。」

美雪は冷めた目で、クロムスを見つめて、たんたんとした口調でそう言った。

そしてそれを後ろで見ていた、遊奈もその言葉に同調した。

「全くどうして男って生き物には、こんなクズが多いんだ。」

「仕方ないですよ、遊奈さん 男の人は潜在的に女の人にコンプレックスを、持っているからですから。」

「つまり生理的仕方ない訳か。」

「そうですね、だから私達女は彼ら不憫な男の人達を、理性で導いてあげないと駄目なんです。」

この美雪と遊奈の会話に対して、クロムスは怒りと共に反論した。

「黙れ、メス豚者、貴様ら女は男を体を使って喜ばせて快樂で幸福にさせる、そのために存在する事を許されるのだ、それが女だ。」

「サイテー」

美雪と遊奈は冷めた目で、二人同時にそう言った。

こう言われてはクロムスとしてはデュエルを続行するしかなかった。

「くう、俺はこの瞬間墓地のネクロマンサードラゴンの効果発動、破壊された時墓地の攻撃力1000以下の闇属性モンスター1体を特殊召喚する、俺は墓地の闇商人ハキエルを特殊召喚。」

闇商人ハキエル 闇属性

レベル3 悪魔族 オリジナル 効果

攻撃力1000

守備力500

召喚・特殊召喚に成功した時、相手のデッキの上から1枚墓地に送る、このカードが場から破壊された時、このカードを除外して、墓地の闇商人と名のついた
モンスター1体を特殊召喚する事ができる。

「そのカードは先程のザビエルの効果で墓地に送ったカードですね？」

「そうだ、そしてハキエルの効果で貴様のデッキから1枚墓地に送ってもらおう。」

「分かりました」

美雪はデッキから1枚捨てた、捨てたカードは。

バック・フラッシュ・ファイヤー 通常魔法 オリジナル効果

相手のレベル3以下のモンスター1体を破壊する。墓地のこのカードを除外して相手のレベル3以下のモンスター1体を破壊する。

「ハキエルで貴様にダイレクト・アタック」

黒いコート商人が美雪に襲いかかる。

「お断りします、トラップ発動です。」

高性能時間差・トラップ
通常トラップ オリジナル効果

自分の場にこのカード1枚だけの場合、相手のモンスター1体を破壊して、攻撃力分のダメージを与える、その後手札からトラップカード1枚を、伏せる事ができる、そのカードはこのターンに発動できる。

「この効果で貴方のハキエルを破壊して、攻撃力分のダメージを与えます。」

ハキエルは爆発した、そしてその爆風がクロムスに直撃した。

そしてクロムスのライフは3775に減少した。

「更に私はこの効果で、手札からトラップ1枚を場に伏せます、私は再び高性能時間差・トラップを伏せます。」

「くそつまたか、ならば俺はハキエルの効果発動、破壊されたこのカードを除外して墓地の商人1体特殊召喚する。」

「俺は墓地から二枚目の闇商人ハキエルを特殊召喚、そして効果発動再び貴様のデッキを破壊する。」

「構いませんよ。」

美雪は再びデッキから1枚捨てた。
墓地に送られたカードは再び、バック・フラッシュ・ファイヤーだった。

「もう一度ハキエルでダイレクト・アタックだ」

「ならば私は再び、高性能時間差・トラップを発動します。」

ハキエルは再び爆発して、その爆風も再びクロムスに直撃した。これによりクロムスのライフは2775に減少した。

「くう、そしてこの瞬間再びハキエルの効果発動、このカードを除外して、墓地から闇商人ザビエルを特殊召喚する。」

「私もこの瞬間、手札からモンスター効果発動です。私は地獄のカマキリを守備表示で特殊召喚します。」

地獄のカマキリ 土属性
レベル3 昆虫族 攻撃力
600 守備力500 効果

自分がカードの効果で、相手モンスターを、破壊した時、手札からこのカードを特殊召喚できる、この効果で特殊召喚に成功した時、デッキから1枚ドローする。このカードが相手に、戦闘ダメージを与えた時、このカードを持ち主の手札に戻す。

「そして、私は1枚ドローします。」

「ならば俺はザビエルで、地獄のカマキリを攻撃。」

黒いコートを着た怪しげな、ハゲ頭の男が巨大なカマキリを殴り倒した。

「俺はカードを三枚伏せてターンエンド。」

ターンが美雪に移り美雪は右手のディスクを自分の目線まで持つて来て、クロムスを威圧するように、ドローする。

「私のターンドロー 私は

地獄のナイトアサシンを召喚します。」

地獄のナイトアサシン 闇属性 レベル4 悪魔族

攻撃力 1400 守備力800

効果

このカードの召喚に成功した時、相手の場にモンスターが1体だけの場合、そのカードを破壊して相手に、500のダメージ与える。
このカードが相手に戦闘ダメージを与えた時、このカードを持ち主の手札に戻す。

「この効果でザビエルを破壊して貴方に500ダメージを与えます。」

黒い禍々しい光を放つ騎士の黒い光によって、ザビエルは消滅した。そしてクロムスのライフは2275に減少した。

「フン、この瞬間トラップ発動、闇商人のネットワーク。」

自分の闇商人と名のつくモンスターが相手の効果で破壊された時、

自分の除外されている、闇商人と名のつくモンスターを2体まで特殊召喚する。」

「この効果で俺は除外されている、ハキエル2体を特殊召喚、当然その効果で貴様のデッキを二枚破壊する」
美雪のデッキから更に二枚が捨てられた。

「私は墓地のバツク・フラッシュ・ファイヤーを2枚除外して効果発動、相手の場のレベル3以下のモンスター1体を破壊します。この効果でレベル3のハキエル2体を破壊します。」

光の熱線がハキエルを、焼きつくし消滅させた。

「更に私はこの瞬間、手札から地獄のカマキリを2体特殊召喚して、2枚ドローします。」

「俺もこの瞬間ハキエルの効果でこのカードを除外して、再びザビエルを特殊召喚する。」

「更にトラップ発動ローン返済」

通常トラップ オリジナル 効果

相手の場のモンスターの数まで、ドローして引いた数と同じ数の自分のドローフェイズを、スキップする。

「この効果で俺は貴様の場のモンスターの数と同じだけ、ドローして同じ分のドローフェイズをスキップする。」

「私のモンスターは今3体」

「そうだ、よって俺は3枚ドローする。」

クロムスの手札は今4枚になった。対して美雪の手札も同じ4枚またしても手札の数は互角だった。

「しぶといですね、それなら地獄のナイトアサシンで、ザビエルを攻撃します、

ヘルブレイク。」

黒い光を放つ騎士が、ザビエルを切り裂いた。

これによりクロムスのライフは1875まで減少した。

「クツソ、俺はこの瞬間トラップ発動、闇商人魂このカードは戦闘で破壊された、闇商人と名のつくモンスターを特殊召喚する事ができる。俺は破壊されたザビエルを復活させる。」

闇商人ザビエル 闇属性

悪魔族 攻撃力1000 守備力500 効果

このカードの召喚に成功した時、手札二枚を墓地に捨てる、デッキから闇属性モンスター1体を、手札に加える。このカードが戦闘で破壊された、次のターン自分は通常召喚を二回できる。

「ナイトアサシンが戦闘ダメージを与えた事により、効果発動このカードを私の手札に戻します。」

そしてカードを1枚伏せてターンエンドです。」

「俺のターンいくぞ、俺はこのターン二度の通常召喚ができる、まず1体目 嵐を防ぐ者を召喚攻撃表示。」

嵐を防ぐ者 土属性 レベル2 攻撃力500 守備力300
効果オリジナル

相手が自分の場にあるカードを、手札またはデッキに戻す、効果を発動した時、墓地のこのカードを除外して、その効果を無効にして破壊する。

「そしてザビエルと嵐を防ぐ者、この二大を生け贄に捧げ、暗黒魔天使ゼルエルを召喚攻撃表示。」

暗黒魔天使ゼルエル 闇属性 レベル8 天使族 攻撃力3000
守備力3000 オリジナル 効果

このカードは特殊召喚できない、このカードは効果で破壊されず、コントロールを変更できない。このカードが、守備表示モンスターを攻撃した時に攻撃力が守備力を越えていれば、その数値だけ相手に戦闘ダメージを与える、そしてこのカードが戦闘ダメージを与えた時、相手の手札1枚を墓地に送る、このカードは相手のモンスター全てに攻撃できる。

「そのカードは最初のターンにザビエルの効果で、手札に加えたカードですね」

「そつだ、コイツは貴様の好きな破壊効果を無効にできる、更にコントロールも変更できず、相手モンスター全てに攻撃できる。」
「どうだ、これで貴様のデッキは無力化したぞ、カードを1枚伏せて、ゼルエルで貴様の非力なカマキリに攻撃エンジェル・ナイトメア。」

全身から黒い光を放ち、まるで機械で作られたような、美しい体をした天使が、

背中に生える黒い翼を羽ばたかせて空を舞う、そしてその全身から放たれた、美しい黒い光が美雪のカマキリに襲いかかる。

「この攻撃を喰らう訳にはいきません、トラップ発動です地獄の民の裁き。」

地獄の民の裁き 通常トラップ オリジナル 効果

相手モンスターが攻撃した時、自分の場にいる地獄と名のついた、モンスター2体以上を全て持ち主の手札に戻して発動する。相手の攻撃表示モンスター全てを破壊して、ターンを終了させる。

「破壊は無理でもこの効果で貴方のターンを強制終了させます。」

「ちえ、女らしい姑息な手だな」

「私のターンドロー 私は力の魔術師を召喚、更にマジックカード エナジー・フォース発動」

「トラップ発動 力の壁 このカードゼルエルに装備する。」

永続トラップ 効果

発動後自分のモンスターに装備する、装備したモンスターは二倍以上の攻撃力のモンスターにしか、戦闘で破壊されず、ダメージも受けない。

「これでゼルエルは無敵、何をしても無駄だ。」

「それはどうでしょうか」

エナジー・フォースは自分のライフを半分にして、その数値分モンスターの攻撃力を上げるカードです。私はライフを半分にして、力の魔術師の攻撃力に加算します。

黒い光が美雪の身体から命を奪って美雪のモンスターに力を与える。

「力の魔術師の攻撃力は」

1000でもこのカードは効果で、攻撃力の上昇数値を二倍します、つまり私のライフ4000を二倍して8000分の追加攻撃力を得る。そしてその攻撃力は9000」

「きゅ9000馬鹿な」

「力の魔術師でゼルエルに攻撃です、パワー・エナジー・フォース」

命の力を帯びた魔術師が、命の光を放ちゼルエルはそれを全身にあびて内部から消滅した。そしてクロムスライフ0

「ぐああえあー」

クロムスは声にならない声で、叫び倒れた。

美雪はデュエルに勝利した。そして後ろで見ていた遊奈が美雪に駆け寄った。

「遊奈さん終わりましたよ。」

「流石ね美雪。エナジー・フォース以外ノーダメージなんだから。」

「それは相手が弱いからですよ。」
美雪は少し顔赤して答えた。

「またまた、謙遜しなくてもいいわよ。」

「本当に相手が弱かった、だけですって。それよりも早くここを出しましょうよ。」

「それもそうね、帰ろうか」

遊奈と美雪はクロムスのビルをから出ようとした、だがビルの中和泡立たしく、先程とは違って打って変わっていた。そしてビルの入り口に、外見が美しく、遊奈同様にスタイルが良くその上バストも遊奈同様に、100センチを有に越えている、顔立ちも遊奈と同様に美しくまさに女神と言わなければならない。

「お前達が、非力な平民に雇われて、クロムス・ベルブを始末した始末屋か？」

「誰だ、なぜ私達を知っている？」

「それは本来この私が奴を始末するはずだったからだ。もっともお前達も例外では無いがな。」

遊奈と美雪は啞然とした顔で、沈黙した。

「私の名はセレーナフォンガイエス。お前達平民を支配管理する、高級貴族だ。」

「今からお前達、平民のメス豚どもをこの私自ら肅正したやる、事にした光栄に思え、そしてメス豚らしくあがいて私を楽しませろ。」
次回に続く

第5話宿命のライバル（後書き）

次回予告

クロムスを倒した遊

奈達は、彼の支配者であった、高級貴族のセレーナに命を狙われて、デュエルを仕掛けられる。そのデュエルを受けた遊奈は、必要に平民を見下し弾圧するセレーナに対し、徐々に怒りを表して反攻する。だが圧倒的な強さを誇るセレーナの貴族デッキの前に徐々に、追い込まれ傷付いていく。

果たして遊奈は勝利出来るのか？

次回デュエリストクイーンズ 第6話 貴族と平民と。お楽しみ

第6話貴族と平民と（前書き）

更新遅くなって、すいません。これからは早ければ3日に一回更新するようにします。それと少し前に一話から三話まで少し修正しました。それとプロローグも名前を0話に変更して、遊奈の過去も少し追加してます。良ければそちらも読んでください。

第6話貴族と平民と

クロムス・ベルブを倒した遊奈達の前に突然、謎の美少女が現れる。彼女の名はセレーナ・フォン・ガイエス。彼女は平民を闇のデユエルで弾圧している貴族の一人で、その中でも他の貴族達を管理支配している高級貴族の中でも随一の實力を持つ、ガイエス家の現在の当主である。

その彼女がここに来たのは、自分の法を破って不当に人身売買をしていた、クロムスとその彼を始末しに来た、殺し屋を処刑するためであった。

「さあ、平民のメス者覚悟はいいか。どちらから先にこの私から死を与えられる名誉がほしい？」

セレーナは完全に遊奈達を見下し、まるで虫を踏み潰す様な顔で言った。その発言に対し遊奈は。

「そんな物はいらぬ、死ぬのはお前だ。」

その後すぐに遊奈はデユエルディスクを起動させた。

「貴様、今平民のメス豚の分際でこの私に死を与えろと言ったのか？」

「そうだ、お前達貴族の様な人間のクズは人間として生きてるだけで、いい加減に冒涇だ。」

「ほおー、平民のメス豚の癖に、まともな人の言葉をペラペラと話せるとはな、更には人間と同じ知恵間で、物っているとは思わなか

ったぞ。珍獣を見るとはこう言うことか、なかなかいい気分だな、自分以下のメスを貶すとはオス達が夢中になるのもわかる。」

セレーナは完全に遊奈を人間とは思っていない。

「キサマア、今何て言った！私はメス豚でもなければ珍獣でもない。私は天井遊奈、名前のある立派な人間だ。」

遊奈は怒りを表して反論した、最後には感情を持って自分がこの世界で生きる資格のある人間である事を視聴した。

「違う、お前はただのメス豚だ人間では無い。人の証とは優れた血だ。血液には人間の全てがある、すなわち人間の力とは血統の力だ」セレーナは冷酷な表情で話しを続けた。

「だからこそ優れた血統を持たない、お前達平民のメス豚者と同種の平民のオス豚者は、我々優れた血統を持つ貴族と違い、全てに置いて非力で無力だ。そしてそんな劣悪な遺伝子同士が交わる事により更なる劣悪な遺伝子が生まれる、そうだその遺伝子から生まれたのがお前達で更にその劣悪な遺伝子を生み出すのも、お前達平民のメス豚者だ。それに比べ我ら貴族は優れた順応な血統を持つ、だからこそ我々選ばれた存在の貴族がお前達平民を管理しなければならぬのだ。」

セレーナの血統はデータであって、優れたプログラムを持つ者はそれを持たない者を劣悪なデータとして処理して管理する。つまり一握りの天才にとって凡人は存在するだけで世界に対して有害であり、生きてるだけで罪なのだから、天才には世界の為に凡人を自分達の思いど通りに管理支配できる、正当な資格と権利がある。と言った発言に対して遊奈は怒りを表して反論した。

「だからどうした！確かにお前の言った様に平民は無力だ、だからそれは血統の遺伝による能力の弱さじゃない。ただ運氣に身を任せて何も考えず、本来自分のすべき努力を他人に任せて自分達は自分の好き勝手なことをしているだけで誰も何もしない。そんな平民達の生きる事への姿勢が、自分達の努力によるノウハウと知識の蓄積を邪魔している。」

「だが、だからと言ってお前達貴族が平民達を不当に支配して、奪っていいことにはならない？それでは貴族も平民と同じだ。少なくとも人間として墮落しているのだから。」

遊奈は怒りを表しながらも落ち着いた表情と口調で話しを更に続けた。

「そしてこれだけは言っておく、平民の全てが無能で墮落している訳じゃない、そして貴族も全てが優れている訳じゃない。だから人はどんな身分でも経験と発想力次第で、いくらでも成長していけるんだ。」

「だから私達は人間だ！お前達貴族に支配される言われはない。ましてや人間としての存在を否定される、権利も資格もお前達には無い！無いんだ。」

遊奈は自分の思いの丈を話し終わると、少し満足した様な表情で口を閉じた。

そこにすかさず、セレーナの笑いによる罵声が始まった。

「フツアハハハハ。それを弱者の事故正当化と言うのだ。だからお前達は駄目なんだ、そんな少数の才能など大多数の無能の中では存在しないも同然だ。」

「そしてその少数の才能自体もそれを持っていると思いついでいる者の自己過信でしか無い。だからお前達平民は我々貴族の家畜と仕手しか存在する価値がないのだ。」

セレーナはまるで犬を見ているかのような目付きで遊奈達を完全に見下して言った。それに対しての遊奈の反応は同然激烈を極めた。

「何だと！キサマ、もう一度言ってみろ！」

「フン、何度でも言ってみろ、お前達平民は我々貴族の栄養源ではない。他に何かがある？」

「心がある、心があるから、私達はどこまでも強くなれる、どんなに辛い傷み苦しみ、だって耐えられる。」

「心があるから私は今まで生きてこれた。心の力があつたから、私は私として生きていられる。これは私の証、この証だけは、私の心の光だけは誰にも否定させない。」

今まで強気で反論していた遊奈だが、この時はどこか寂しくまるで少女のような表情をしていた。

「それは強さじゃない、弱さだ。もし本当にお前達平民の心にその様な力があれば今の世界の支配者はお前達平民のはずだ。そしてもしお前平民が支配者になっていけば、今頃、欲望と快楽を欲しい真間に行っているのはお前平民のはずだ、だが現実には欲望の真間に奪われ続けているのはお前達平民の方だ。」

「つまり、お前の言う心の力とは詰まる所、ただの忍耐でしかない。そしてそれはお前達平民のメス達が奪われる立場だからこそ忍耐が必要だったのだ。つまりお前達の忍耐は、我々貴族によって与えられた力で、同時にそれはお前達の奴隷の証出もあるのだ。」

「違う、私達は奴隷なんかじゃない！」

「フン、貴様は先程からメス豚らしく、口で吠えるだけだな！どうやら平民には発言ではなく、実力で否定する発想がないようだな。」
この発言に対し遊奈は

「なら、私の力でどちらが正しいか、証明してやる。」

そう言った遊奈を、後ろにいた美雪が引き止めた。

「危険です、やめてください遊奈さん。」

美雪は遊戯の右腕を掴み、少し焦った顔で言った。

「なに言ってるの美雪、ここまで言われた、状況で逃げられる訳な

いでしょ。それに私は貴族が嫌いなんだ、それなのに貴族から逃げ
る何て死んでも嫌だ。」

遊奈は美雪の言葉に対し首を横に激しく降って拒否した。そして美
雪の腕を強引に振り払い、そのままデュエルの体勢に入った。

「遊奈さん…（あの人は本当に危険何です。早く何とかしないと遊
奈さんが殺される。）ここはお嬢様をお願いするしか手はありません
ね。」

美雪は急いで携帯でクルナの屋敷に電話した。

「お嬢様、私です実は今大変な事に、セレーナ・フォン・ガイエス
公爵が・・・そうなんですだから今すぐに来てください。」

遊奈とセレーナはロビーの中心に立ちデュエルディスクを構えた

デュエル

互いに五枚ドロワーして手札にした。

「平民のメス豚、先手はお前にくれてやる。」

「くっ、その余裕を後悔させてやる。私のターンドロワー。」

遊奈はディスクを胸の前に持ってきて、デッキに右手を乗せてカー
ドを引いた。

「私はシヴァを召喚攻撃表示。」

【シヴァ 土属性 レベル4 アンデット族 攻撃力1000 守備力800 効果】

『このカードが戦闘で破壊された時、このカードを破壊したモンスターの守備力がこのカードの攻撃力よりも低い時そのカードを自分の場に移してこのカードを装備する、装備モンスターの攻撃力と守備力は装備カードの数値分上がる。』

装備したこのカードが破壊された時、装備モンスターを持ち主のデッキの上に置く。』

「更にカードを二枚伏せてターンエンド。」

遊奈が伏せた、二枚の内一枚は以前の黒マントの男との戦いで使った、シヴァとのコンボで相手モンスターを奪う強制軽量化このカードで遊奈は次のターンセレーナのモンスターを奪い、そのカードと自分の次の召喚カードで総攻撃するつもりだ。

「私のターンだドローするぞ、平民のメス豚。」

セレーナはカードを引いたがこの発言に対し遊奈は当然ながら反論した。

「豚じゃない、その言い方をやめろ。」

「フン、実力でやめさせるのではなかったのか？」

「くう、今だけは許してやる。だが、覚悟して置けよ。」

「フン、お前に出来ればの話だ。いくぞ私はフォン・ナイトを召喚攻撃表示。」

【フォン・ナイト 土属性 レベル4 戦士族 攻撃力
1900 守備力1500 効果】

「このカードは貴族またはフォンと名のつくモンスター以外のモンスター効果を受けない。このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、攻撃力が守備力を越えていれば、その数値だけ 相手に戦闘ダメージを与える、この時与えた戦闘ダメージと同じ数値のライフを回復する。」

「フォン・ナイトでメス豚の下僕に攻撃。」

「よし、ここでトラップを使って。」

その瞬間後ろにいる美雪が叫んだ。

「駄目です遊奈さん、フォンまたは貴族と名のつくモンスターはそれ以外の名前のモンスター効果を受け付けません。」

美雪のこの発言に対し遊奈は驚きを隠せなかった。

「そっそんな！これでは（強制軽量化が使えない。）なら仕方ない
トラップ発動

パラサイト・シールド。」

【パラサイト・シールド 永続トラップ 効果】

『1ターンに一度だけデッキから、パラサイトと名のつくモンスターを墓地に送り自分が受ける戦闘ダメージを0にできる。』

「この効果で私はデッキからパラサイト・リバーズを墓地に送り、戦闘ダメージを0にする。」

光輝く銀の鎧を纏った誇り高い騎士が、ヤギの頭をした人型の化け物を切り裂いた。そして貫通した刃が遊奈に襲いかかり、デッキから姿を出した全身に電気を帯びた巨大ムカデが身代わりになった。

「フン、メス豚の分際で小賢しい事を私はカードを一枚伏せてターンエンド。」

「待った、この瞬間墓地のパラサイト・リバーズの効果発動。」

【パラサイト・リバーズ 雷属性昆虫族 レベル3 攻撃力500 守備力300 効果】

『相手がカードのセットに成功した時、墓地のこのカードを除外して、そのカードの発動権利を得る。(ただしカードの確認はできない)』

「この効果で、今セットしたカードの発動の権利を私ができる。」

「くっ、本当に小賢しい真似を。」

そして遊奈にターンが移る。

「私のターンドロー 私は
モンスターをセットしてターンエンド。」

「私のターンだ、ドロワー、貴族ドラゴンを召喚。」

【貴族ドラゴン 火属性

レベル3 ドラゴン族 攻撃力1500 守備力1000 効果】

『このカードは貴族またはフォンと名のつくモンスター以外のモンスター効果を受けない。自分の場の貴族またはフォンと名のつくモンスターが相手モンスターを戦闘で破壊した時、相手に500のダメージを与える。このカードが破壊された時、火竜トークン火属性ドラゴン族 レベル2 攻撃力1000 守備力500 を特殊召喚する。』

「フォン・ナイトでメス豚の裏モンスターに攻撃。」

フォン・ナイトが裏表示になっている二枚目のパラサイト・リバーズを、切り裂いた瞬間遊奈が叫んだ。

「この瞬間パラサイト・シールドの効果で、デッキから三枚目のパラサイト・リバー스를墓地に送り、フォン・ナイトの貫通ダメージを0にする。」

「だが、貴族ドラゴンの効果でメス豚お前に500のダメージを与える。」

「なにつ。」

全身赤色のドラゴンが口から放った、火の玉が遊奈の体に直撃した。これにより遊奈のライフは7500に減少した。

遊奈は先ほど一撃を食らっても、なんとか立っていたがそこにセレーナの容赦ない攻撃が続く。

「更に貴族ドラゴンでメス豚にダイレクト・アタック。」

「赤いドラゴンが火炎放射をした、それが遊奈に直撃して、遊奈はふきとんだ。これにより遊奈のライフは6000まで減少した。」

「くそつ」

「そして私はカードを一枚伏せてターンエンド。」

「この瞬間墓地のパラサイト・リバースの効果で、このカード除外してそのカードの発動の権利を得る。」

「（なぜあいつは分かっているのにリバーズカードをふせた？罨を仕掛けたのか。）私のターンドロこのカードは」

遊奈が引いたカードは、パラサイト・キング・セカンドだった。

「これを出せば逆転できる、だか失敗したら私は負ける、どうすれば。」

果たして遊奈はこのカードを出すのか？次回に続く。

第6話貴族と平民と（後書き）

次回予告 遊奈セレーナにデュエルの主導権を握られ苦しい状況に追い込まれる。そんな中セレーナは貴族同士を融合して強力な融合モンスターを召喚する。そのモンスターの圧倒的な力の前に遊奈は手も足も出ずに、一方的に追い詰められて絶体絶命となるが。

遊奈は起死回生を狙ってある、カードを発動するが。 次回デュエリストクイーンズ第7話パラサイト・エフエクト。お楽しみに。

第7話 パラサイト・エフェクト（前書き）

すいません。前回の更新で早ければ3日で更新するて自分で言ったのに、結局7日か以上かかりました。 すいません。次からは、なるべく早く更新します。 これからもよろしくお願いいたします。

第7話 パラサイト・エフェクト

遊奈とセレーナのデュエルは互いに2ターンを終えてライフはセレーナが8000

遊奈が6000、と僅に遊奈が負けている。そして場の状況はセレーナがモンスター2体とリバースカードが二枚ある、対する遊奈はモンスターがゼロでリバースカードが一枚と永続トラップが一枚あるだけだ。

そして遊奈のターン、このターンのドローで遊奈の手札が四枚になる、それに対しセレーナの手札は三枚と手札の数では遊奈はまだ負けてない。

「私のターンドロー、このカードは。」

遊奈が引いたカードは。

【パラサイト・キング・セカンド 闇属性 レベル8 昆虫族 攻撃力3000 守備力2500 効果 オリジナル】

「相手の場のモンスター以外のセットカード二枚を指定する、指定したカードを破壊してこのカードを特殊召喚する。二枚の内一枚でもオープンした場合自分は3000のダメージを受ける、そしてこのカードを相手の場に特殊召喚する。」

このカード以外の自分の場のカード全てを破壊して、このターンも一度だけ攻撃できる。」

「このカードを出せば、この一方的な状況を打開できる、だが、もし失敗したら私は負ける。でもここは出すしか道はない。」

遊奈が迷う訳は前のターンにセレーナが伏せたセットカードがセレーナの仕掛けた罠かも知れない懸念があったからだ。

「どうした平民のメス豚！お前がターンを進めないのなら私のターンにするぞ！良いのか？」

「いい分けないだろ、私は
お前のセットカード二枚を破壊して、手札からパラサイト・キング・セカンドを特殊召喚する。」

遊奈の手札から無数の触手が現れてセレーナの場のセットカードに取り付き、カードから養分を奪い取って行った。そしてカードは姿を消し、その後遊奈の手札だから巨大な羽の生えた寄生虫が現れた。

「ほおー、平民に仕手はなかなかのカードを持っている様だが、メス豚のお前にはお似合いの下品なモンスターだな。」

セレーナは遊奈を鼻で笑って馬鹿にした、それに対しての遊奈の反応は。

「うるさい、ならその下品なモンスターに自分の体を傷付けられる傷みを教えてやる。」

「面白いやつて見る！ただしお前の様な平民のメス豚に出来るの
らな！」

その言葉の後に遊奈はセレーナのモンスターに右手を向けた。

「キング・セカンドでフォン・ナイトを攻撃ファースト・インパ
クト。」

遊奈の巨大な蛾の様な空を飛ぶ寄生虫が口から青い光線を放ちセ
レーナの場のフォン・ナイトを焼き尽くした。

「くっ、貴様平民のメス豚の分際で貴族であるこの私に傷を負わせ
る問わ、貴様万死に値するぞ。」

今の攻撃でセレーナのライフは無傷の8000から6900に減少
した。

「そんな物恐くない、更に私はキング・セカンドの効果で私の場の
このカード以外の全てのカードを破壊してキング・セカンドはこの
ターンもう一度攻撃する事ができる。」

キング・セカンドの触手が遊奈の場のカードから養分を奪い取って
カードは消滅した、そして再びキング・セカンドは動き出した。

「私は再起動したパラサイト・キング・セカンドで貴族ドラゴンに
攻撃、セカンド・インパクト。」

再び動き出したキング・セカンドの青い光線によってセレーナの貴
族ドラゴンは葬り去られた。これによりセレーナのライフは540
0まで減少した。

そしてこの瞬間、貴族ドラゴンの効果が発動した。

【貴族ドラゴン 火属性

レベル3 ドラゴン族

攻撃力1500 守備力1000 効果 オリジナル

「このカードは貴族またはフォンと名のつくモンスター以外のモンスター効果を受けない。自分の場の貴族またはフォンと名のつくモンスターが相手モンスターを戦闘で破壊した時、相手に500のダメージを与える。このカードが破壊された時、火竜トークン 火属性レベル2 ドラゴン族
攻撃力1000 守備力500
を特殊召喚する。」

これによりセレーナの場に貴族ドラゴンより一回り小さい火竜のトークンが召喚された。

「フン、メス豚目必死にあがいてるじゃないか！非力で無力なメスが圧倒的強者の前で意気がり強がって最後には哀れにも自分自身の軽卒な行動に後悔して内のめされる！そして我々強者に取って弱者のその姿を見る事が何よりも楽しみな事なのだ。」

セレーナは冷徹な表情でそう言って遊奈を見下したが！遊奈はそれに対してやや無難な表情で言葉を介した。

「残念だけど、今回そうなるのは自称強者の貴様の方だ！私はモンスターをセットしてターンエンド。」

このターンで遊奈の手札は二枚になった、そしてセレーナのターンに移る。

「メス豚、私のターンだ、ドローするぞ、私は手札からマジックカード犠牲による利益を発動する。」

【犠牲による利益 通常マジック オリジナル 効果】

『手札から貴族またはフォンと名のつくモンスターを墓地に送る、その後二枚ドローする。』

「この効果で私は手札から貴族の錬金術師を墓地に送り二枚ドローする。」

セレーナはデッキから二枚引いた後に笑みを浮かべた、そして叫んだ。

「この瞬間墓地にある犠牲による転生の効果発動。」

【犠牲による転生 通常トラップ オリジナル 効果】

『発動した時自分の手札一枚を墓地に送り、このカードを破壊する。墓地にあるこのカードを除外して自分の墓地にある 貴族またはフォンと名のつくレベル5以外のモンスター1体を特殊召喚する。』

「この効果でこのカードを除外して墓地の貴族の錬金術師を特殊召喚する。」

【貴族の錬金術師 土属性レベル5 魔法使い族 攻撃力2000
守備力1500 オリジナル 効果】

「このカードは貴族またはフォンと名のつくモンスター以外のモンスター効果を受けない。1ターンに一度だけ、手札または場の貴族またはフォンと名のつくモンスター2体以上を、貴族融合を使った事にして、融合召喚する事ができる。

このカードが戦闘で破壊された時、デッキから貴族融合、一枚を手札に加える事ができる。」

セレーナの場にガイコツのお面を着けて黒い服を着ている古文書を手を持った、男が現れた。

「そして、効果発動1ターンに一度、貴族融合無しで融合召喚をする事ができる。私は手札の貴族ドラゴンとサザンアイズ・フォン・ブラックを融合して、サザンアイズ・フォン・ブラックドラゴンを特殊召喚する。」

赤い竜と三つ目の黒い魔神が融合して、三つの目が付いた、全身黒色の巨大なドラゴンが姿を表した。

【サザンアイズ・フォン・ブラックドラゴン 闇属性
レベル8 ドラゴン族 融合 攻撃力3000 守備力2800
オリジナル 効果】

「貴族ドラゴン×サザンアイズ・フォン・ブラック、このカードは上記のカードを貴族融合で融合した場合のみ、特殊召

喚する事ができる。

このカードが戦闘で破壊したモンスターの効果は無効になる、そして、そのカードを自分の場に特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚された、モンスターは攻撃できず効果も使えない。

このカードが場にいる時、相手はドロートしたカードを公開しなければならぬ。自分のスタンバイフェイズに一度だけ相手のセットされた、カード一枚を指定してそのカードを確認して、そのカードをこのターンの間発動出来なくする。』

「フッフ、どうだ、私の美しいサザンアイズ・フォン・ブラックドラゴンの姿は！」

礼を言うぞ、メス豚、お前が前のターンに私がセットした、犠牲による転生を破壊して暮れた、おかげで今のこの状況があるのだ！」

「くそつ、やはり畏だったのか！」

遊奈は自分の軽卒な行動を後悔したが、同時に安心もしていた。何故なら遊奈の手札には二枚目のシヴァが有るからだ。

例えばキング・セカンドが破壊されて奪われても、この二枚目のシヴァを使って、簡単に取り返せると考えていたのだから。

そして、セレーナは動く！

「更に私は火竜トークンを生け贄に捧げて、フォン・マイスター・ドラゴンを召喚する。」

【フォン・ガイア・ドラゴン 土属性 レベル5 ドラゴン族 攻撃力2500 守備力1000 オリジナル 効果】

『このカードは貴族またはフォンと名のつくモンスター以外のモンスター効果を受けない。』

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、デッキまたは墓地からフィールド魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

このカードが破壊された時、デッキまたは墓地からフィールド魔法カード1枚を手札に加える事ができる。このカードが戦闘ダメージを与えた時、フィールド魔法カードを破壊する事ができる。』

セレーナの場合に緑色の巨大なドラゴンが召喚された。

「そして、効果発動、私はデッキから貴族の聖地を手札に加える。」

セレーナがカードを手札に加えた時、後ろで見ていた美雪が遊奈に向かって叫んだ。

「だ、駄目です！遊奈さんこのままでは貴方は負けます、そして、セレーナさんに殺されます！」

「な、なに言ってるの美雪！私が…死…ぬ？」

遊奈は美雪の突然の死ぬと言う発言に対し動揺を隠せなかった。

そして、そんな、遊奈に対しかさずセレーナが追い討ちをかける！

「そうだ、お前は死ぬのだ！この私の手によってな！

それにしても、その女、なかなか見る目が有るな、どうだ、私の人形になるつもりは無いか？少しは可愛がつてやるぞ！」

「お断りします！」

「フン、なら先にこの平民のメス豚から、たつぷりと可愛がつてやる！」

私はフィールド魔法貴族の聖地を発動する！」

【貴族の聖地 フィールド魔法 オリジナル 効果】

『自分の場にいる、貴族またはフォンと名のつくモンスターの攻撃力は500上がる。このカードが場にある時、互いにモンスターのコントロールを変更出来なくなる。』

自分の場の貴族またはフォンと名のつくモンスターが戦闘で相手モンスターを破壊した時、相手のデッキを一枚墓地に送り、その後、自分のデッキから一枚ドローする。

このカードが効果で破壊された時、デッキから2枚ドローする。』

「これにより私の貴族達は全て攻撃力が500上がる。サザンアイズ・フォン・ブラックドラゴンでキング・セカンドを攻撃、ナイト・メアフレイルム。」

サザンアイズ・ブラックドラゴンの火炎放射によってパラサイト・キング・セカンドは焼き尽くされた！これにより遊奈のライフは5500に減少した！

そして、破壊されたキング・セカンドはセレーナの場に特殊召喚された。

そして、遊奈のデッキから一枚破壊され、セレーナは一枚ドローした。

「くそつ、キング・セカンドが奪われた！」

「更に私は貴族の錬金術師でメス豚の裏になつている下僕に攻撃。」
遊奈の裏守備モンスターは破壊され、遊奈のデッキから一枚破壊された、そして、セレーナー一枚ドロウした。

「この瞬間破壊された、パラサイト・ネクサスの効果発動。」

【パラサイト・ネクサス 土属性 レベル2 昆虫族 攻撃力500 守備力300 オリジナル 効果】

「このカードが戦闘で破壊された時、自分の墓地から永続魔法、または永続トラップ、一枚を選択して、発動する事が出来る。」

墓地のこのカードを除外して、相手の場にある永続魔法または永続トラップ一枚のコントロールを得る。」

「この効果により私の墓地からパラサイト・シールドを再び発動する！」

【パラサイト・シールド
永続トラップ オリジナル効果】

「1ターンに一度だけ、デッキから、パラサイトと名のつくモンスターを1枚墓地に送り、自分のこのターンに受ける戦闘ダメージをゼロに出来る。」

「フン、ならばガイア・ドラゴンでメス豚にダイレクトアタック。」

「パラサイト・シールドの効果によりデッキからパラサイト・イヴ

を墓地に送り、戦闘ダメージをゼロにする！」

「私はカードを一枚伏せてターンエンド。」

「私のターンドロ。」

「そして、この瞬間サザンアイズの効果により、お前がドロしたカードを確認する。」

「くっ、仕方ない。」

遊奈はドロした、三枚目のシヴァをセレーナに見せた。

「私はモンスターを一枚セツトしてターンエンド。」

「私のターンドロ！私は貴族の錬金術師でお前の裏守備の下僕に攻撃。」

遊奈の裏モンスターは破壊されてデッキから一枚破壊された、そして、セレーナは一枚ドロした。

「更にサザンアイズとガイアでお前にダイレクトアタック。」

「パラサイト・シールドで サザンアイズの攻撃を無効にする！」

「だが、ガイアの攻撃は受けて貰うぞ！」

「くう。」

ガイア・ドラゴンの突進攻撃によって、遊奈は吹き飛んだ、そして、痛みながらも立ち上がった。

この攻撃によって遊奈のライフは2500に減少した！

「そして、カード一枚伏せてターンエンド、お前のターンだ、メス豚！」

「くう、このままでは私は本当に死ぬ！（死ぬのか？この私が！嫌だ、死にたくない、まだアイツにあの男に復讐して無いのに、絶対に絶対に死にたくない！死ぬモノか！例え私の血と肉が無くなっても、奴のあの女の血と肉を食らって私の命にしてやる！」

遊奈は地面を見ながらボソボソとした声で話始めた！その姿は今までの遊奈とは思えない程別人の姿だった！

「私は負けない…私は死なない…私は殺されない…私は生き残る…
私は…私は…お前を…」

「どうした、平民のメス豚！絶望して乱心でもしたのか？」

「私はお前を…お前を…殺…して…やる！……フウハハハ…そうさ、
私は…私は…お前を、お前を殺してやるー！」

私のターンドロ！私が引いたカードはこれだ！パラサイト・エフェクト、そして、私はこの三体目のシヴァを召喚する！

更に私は今引いた、このパラサイト・エフェクトを発動する！フウハハハ！待っている、今からお前はこのカードによって、いや私自身この手によって、葬り去られる事になるのだから！フフウツハハハ！」

果たして遊奈は勝てるのか？そして、遊奈に何が起こったのか！次回に続く

第7話 パラサイト・エフェクト（後書き）

次回予告 突然の精神異常により、遊奈は理性を失い別人と化す。そして、遊奈はパラサイト・モンスターと自分自身を融合させて、自分自身をモンスターとしてセレーナに襲いかかる！そんな中、遊奈は今まで問わ違った、自分自身を犠牲にする戦術によってセレーナを追い詰める。そして、ついにセレーナも本気を出して新たな貴族を召喚して遊奈に牙を向ける。

次回デュエリス

トクイーンズ第8話パラサイト・モンスター お楽しみに。

第8話 パラサイト・モンスター（前書き）

皆様いつもデュリストクイーンズを読んでくださってありがとうございます。
ざいます。突然ですが！今度から次回予告以外にも、おまけの
コーナーをやるうと思ひます。そうゆう訳で皆様からおまけコーナ
ーのアイデアを募集します。大変めんどくさいと思ひますが！ど
うぞ、よろしくお願ひ致します。他にも皆様からのご指摘、ご質問、
心からお待ちしています。

第8話 パラサイト・モンスター

遊奈とセレーナのデュエルは圧倒的なセレーナの貴族デッキによって、ゲームを支配していた。

セレーナの場のカードは

モンスターが4体、リバースカードが二枚、フィールド魔法が一枚ある、対して遊奈の状況は、場のカードはモンスターが1体、リバースカードはゼロで永續トラップが一枚有るだけだ！

そして、ライフはセレーナが5400 / 遊奈が2500 と遊奈が圧倒的に不利な状況で合った。

更にこの状況下で遊奈は自身の生命の危機により自我を失って精神異常状態に陥る。

その事によって遊奈は別人と化してセレーナに襲いかかる。現在セレーナの手札は三枚、対する遊奈は二枚、そして、遊奈は鋭い眼孔でセレーナをやみつけながら魔法カードを発動した。

「フッフ、魔法カード発動パラサイト・エフェクト。」

このカードで…嫌…私自身の手によってお前はこの世から消えさる事になる！ハハッハ。」

遊奈が明らかな異常状態で発売した、パラサイト・エフェクトは確かにこの一方的な状況を打開出来る、カードだった。

【パラサイト・エフェクト通常マジック オリジナル効果】

「自分の場 / 手札 / 墓地からそれぞれ一枚シヴァと名のつくモンスターを除外してデッキまたは手札からパラサイト・キング・シヴァ / パラサイト・シヴァ・クイーンのどちらか1体を特殊召喚する。」

そして、その後自分は除外した、シヴァの攻撃力分のライフを回復する。』

「フツハハハ、この効果により私の…手札…墓地…場の三方所からシヴァを除外して、パラサイト・シヴァ・クイーンを特殊召喚する。

遊奈の手札はゼロになった、そして、デッキから巨大なシヴァのメス型が召喚された。

そして、その巨大なシヴァが！遊奈の体を自らの体に取り込んだ！！

そして、その体から徐々に人の体が浮かび上がってきた！驚く事に遊奈とシヴァ・クイーンは融合して、ひとつになっていた！！

そして、更に召喚されていた、シヴァ・はモンスターゾーンからフィールド魔法ゾーンに移動してセレーナのフィールド魔法貴族の聖地を破壊した！そして、今度はフィールドと融合した！

【パラサイト・シヴァ・クイーン 地属性 レベル10
アンデット族 攻撃力3000 守備力0 オリジナル 効果】

『このカードは場にある時モンスターではなくフィールド魔法として扱う。』

このカードが場にいる時、自分はモンスターカードをプレイできない。

このカードは効果で破壊されず、除外もされない。

1ターンに一度モンスター 扱いで攻撃する事が出来る、このカードがモンスターを戦闘で破壊した時、そのモンスターの攻撃力分のライフを得る。

このカードが場にある時、自分は3000以下の戦闘ダメージを受

けない。

「1ターンに一度、相手のフィールド魔法カードの発動を無効にして破壊する。」

「バカな、こんなモンスターが存在していたのか？」

「遊奈さん、行けません！そのカードを使つては。」

セレーナは驚き、啞然としていた。

そして、美雪も驚いては居なかつたが焦っていた！

「（あのカードはお嬢様が以前言っていた、遊奈さんの心の闇が生み出した闇のカード。遊奈さんの幼少の頃の心のキズと傷みが力になって、その力を増幅して、更には新しい闇のカードを生み出す！暗黒のデスカード！もしこのまま闇のカードを使い続ければ、更に多くの闇のカードが生み出されて！その度に遊奈さんの心は食われていき最後には…死ぬ！そんな駄目っ！何とかしないと。）」

「フツヒツヒハハハ、更に除外した、シヴァ1枚につき1000のライフを得る。」

この効果により、遊奈のライフは3000上がり、5500になった！

「フツヒツヒハツハツハ！シヴァ・クイーン・で、いや私自身で以前の貴族の錬金術師を攻撃！当然貴族の聖地が破壊された事により攻撃力は下がっている。」

「くっっ」

「クツウヒツヒツヒイ！ドレイン・ザ・サイド！」

シヴァ・クイーンの腕が貴族の錬金術師の胸に突き刺さり、体から
生気を吸いとった！

これによりセレーナのライフは4400になり、遊奈のライフは吸
収した攻撃力を加えて、7500になった！

「くそっ、平民のメス豚目！この瞬間貴族の錬金術師の効果発動！」

【貴族の錬金術師 地属性レベル5 魔法使い族 攻撃力2000
守備力1500 オリジナル 効果】

『このカードは貴族またはフォンと名のつくモンスター以外のモン
スター効果を受けない。』

1ターンに一度だけ、手札または場から貴族またはフォンと名のつ
くモンスター2体以上を貴族融合を使った事にして、特殊召喚出来
る。

このカードが戦闘で破壊された時、デッキから貴族融合を一枚手札
に加える事が出来る。』

「この効果で私はデッキから貴族融合を手札に加える。」

「クツクツクハハハ、ターンエンド。」

「ドロー！（くっ、何故っ、アイツの用な平民のメス豚がこれ程の
カードを持っているのか？」

だが、この私がメス豚風情に、負けることなど合ってはならない！
私はフォン・ガイア・ドラゴンを守備表示にしてターンエンド。」

【フォン・ガイア・ドラゴン地属性 レベル5 ドラゴン族 攻撃
力2500 守備力1000 オリジナル 効果】

「このカードは貴族またはフォンと名のつくモンスター以外のモン
スター効果を受けない。

このカードが召喚/特殊召喚に成功した時、デッキまたは墓地から
フィールド魔法カード1枚を手札に加える事が出来る。

このカードが破壊された時、デッキまたは墓地からフィールド魔法
カード1枚を手札に加える事が出来る。このカードが戦闘ダメージ
を与えた時、フィールド魔法カードを破壊出来る。」

「私のターンだぁー！…ドッローー！フツハハハ、
ヒツヒツヒハツハツハツハ！カッカードを…1枚…フツ…伏せてい
…こつっこつ…攻撃イイ！」

セレーナはサザンアイズ・フォン・ブラックドラゴンの効果で遊奈
のドローカードを確認した。

遊奈がドローして伏せたのは、トラップカード痛みによる戦慄。

「だぁ、駄目だ、このままだと…遊奈さんが…遊奈さんが壊れる！！
でも私にはどうしようも無い。…責めてお嬢様が来てくれれば、何
とかなるかもしれない！」

「ヒイヒイヒイ！ドッドレイン・ザ・サイド！」

完全に自我を失い暴走した遊奈は守備表示のフォン・ガイアを襲い

破壊した。

当然その効果により、遊奈のライフはフォン・ガイアの攻撃力分回復した。

遊奈のライフは現在100000に到達した。これによりセレーナは遊奈に5600ものライフ差を付けられた。

「おのれえ、メス豚風情が！この瞬間2枚のトラップ発動！貴族の残した奴隷／貴族の残した遺産。」

【貴族の残した奴隷 通常トラップ オリジナル 効果】

「自分の貴族またはフォンと名のつくモンスターが戦闘で破壊された時、発動する。」

自分の場に奴隷トークン3体を特殊召喚する。

「奴隷トークン 地属性 レベル1 攻撃力0 守備力0

効果 このモンスターは戦闘では破壊されず、ダメージも受けない。」

【貴族の残した遺産 通常トラップ オリジナル 効果】

「自分の貴族またはフォンと名のつくモンスターが戦闘で破壊された時、発動する。」

そのモンスターを除外してデッキからカードを1枚選択して手札に加える、その後デッキをシャッフルする。」

「これにより私の場に3体の奴隷トークンが特殊召喚される！そし

て、貴族の残した遺産の効果で、デッキからカードを1枚手札に加える。」

これによりセレーナの手札は5枚になる。
そして、モンスターの数も5体になった。

「更にこの瞬間フォン・ガイア・ドラゴンの効果で私は墓地から貴族の聖地を再び手札に戻す。」

セレーナが墓地からカードを戻そうとした瞬間、突然遊奈が笑い出した。

「フッフッフハッハヒヒヒハッハッア！！こっこっこのしゅんかーんぼぼぼ墓地のパラサイトとと・セメタリーリーの効果がががっ…はっはっ…発動うしちゃうははっいいヒヒヒエイバ！！」

遊奈の発言は完全に意味不明になっていた。

【パラサイト・セメタリー閻属性 レベル3 昆虫族
攻撃力500 守備力300
オリジナル 効果】

『このカードが墓地に存在する時、互いに墓地で発動する、または墓地を対象にした、効果を使用できない。』

このカードは先程のサザンアイズ・フォン・ブラックドラゴンの攻撃をパラサイト・シールドで防いだ、時に墓地に送ったカードだ！

「だ、駄目、これじゃ本当に遊奈さんの心が食われる！遊奈さんが…遊奈が死んじゃう！そんなの嫌っ嫌だよ！！」

美雪は両手で顔を押しさえて溢れ出す涙を必死で止めていた。

「くう、しまった。

（これでは奴のあのカードを破壊出来ない。

まあいい、すでに私の手間にはメス豚を葬り去る、カードがある。）

」

「アッククック、フッフッフアツハツハツハ！たつたつた…ターン…イイヒイ…エ…ンっド！…イヒイヒイ…エエへへヘッド！」

遊奈の心は完全に壊れていた、恐らくあと2ターンで 遊奈の心は完全に心の闇に食われるだろう。

「遊奈：ゆうなっ、お願い死なないで！お願いします、お嬢様、早く助けてください！！」

「私のターンだ！ドロー！」

セレーナは自分では冷静で落ち着いているつもりだが、その、表情は目に見えて焦っていた。

「私は3体の奴隷トークンを生け贄にして、貴族皇帝ルドルフを召喚する！フッフ、ハハハハ、メス豚、これで貴様は終わりだ！

今度はこの私が貴様に圧倒的な暴力で傷みを苦悩を与えてやる！

いいな？覚悟して置け、平民のメス豚！」

完全に自我を失い暴走して人で無くなろうとしている、遊奈に対し
セレーナは容赦無く襲いかかろうとしていた！ 果たして遊奈は人
して無事に生き残る事が出来るのか？

次回に続く

第8話 パラサイト・モンスター（後書き）

次回予告 遊奈とセレーナがクロムス・ベルブのビルで死闘を演じている頃。 クルナは夢弓の実力を知るために、デュエルをする事にした。果たして夢弓の実力は？勝つのはクルナか夢弓か？

次回デュエリストクイーンズ

第9話 混沌の戦士 おたのしみに。

第9話 混沌の戦士（前書き）

随分と更新が遅れてすいません。その変わり今回は 何時もの二倍のボリュームです。それと、今回はオフィシャルカードメインです。それと、良ければ皆様、少し前にドラゴンクエスト9を買う時の注意と言う小説を書いたので、良ければそちらも読んでください。

第9話 混沌の戦士

遊奈と美雪がクロムス・ベルブのビルに行っている頃、クルナの屋敷では。

「朝よ、もう起きなさい。ほおらあ！」

クルナはベッドで気持ちよく寝ている、夢弓の布団を強引に取り上げた。

「ふああ、…もうっ朝なの？まだ眠いよ！もう少し寝かせて…」

「だあめっ！早く起きなさい。それと、着替え用意したから、起きたら着替えなさい。良いわね！」

「うう…うん、…分かったよ。今着替えるよ」

「着替え終わったら、ちゃんと顔洗いなさい」

「もおう、ちゃんと出来るから子供扱いしないでよ！…（もう、…クルナさんはまるでお母さんみたいだよ！）」

「はいはい、それじゃあ、全部終わったら下に降りてきなさい。朝食出来てるから一緒に食べましょう！」

そう、言いつつクルナは下に降りていった。

その後、服を着替え終わり顔を洗った、夢弓は下に降りてクルナの待つ食堂に向かった。

「うーわあ、凄く美味しそう。…これ全部クルナさんが作ったの？」
テーブルの上には、見た目からして食欲を誘うような、美的な洋食料理が二人分用意して合った。

「違うわ、これは美雪が用意してくれた料理よ。私にはとてもじゃないけど、無理よ！なにせ、私今まで一度も料理した事ないから」
クルナは足を組んだ姿勢で椅子に座っていて、右手で紅茶を啜りながら、そう言った。

「それ、自慢にならないよ。所で、その美雪さんや遊奈ちゃんはどこにいるの？」
少し冷めた目線で夢弓は、そう、言った。

「二人には今、仕事に行つて貰つてるわ。それよりも早く食べましょう。折角の料理が醒めるわよ！」

「うん、そうだね。
それじゃ、頂きます」

「頂きます」

二人は互いに、お辞儀をして、そう言つと料理に手をつけた。

「おっおいしい、すごく、おいしいよー！」

「でしょ、美雪は昔から料理が凄く上手で、お陰で私は今まで一度も料理をする機会が無かつたわ。」

だって、美雪が毎日美味しい料理を作ってくれるのだから。作る事に動力を使うより、食べる事に動力を使った、方角効率が良いでしょ！」

クルナは紅茶を飲み終わると、笑みを浮かべてウイंकをしながら、そう言った。

「だから、それ、自慢になってないよ！」

「そつおお！」

この後も、二人は食事を続けた。そして、

食事を終えてテーブルの食器を片付けた、後にクルナは用意して合った、大量のカードが入ったアタッシュケースやカードファイル数個をテーブルの上に置くと笑みを浮かべて夢弓に言った。

「夢弓ちゃん、ここにあるカード自由に使って良いから、私とデュエルしましょう！」

あと、欲しいカードが合ったら全部あげるから、絶対に遠慮しちゃ駄目よ！わかった？」

「うん、でも本当に良いの？やっぱりなんか、悪いからいいよ」

「だから、遠慮しない。…良いわね。はい、返事！」

クルナは笑みを浮かべて夢弓の目を優しく見てそう言った。

「うん、ありがとう。」

それにしてもクルナさんは本当にお母さんみたいで凄く優しいね」

夢弓もクルナの目を見つめてそう言った。

「なあつに、それ、それじゃあ、まるで私がおばさん見たいじゃない！　：私はまだ、お肌麗しい処女の二十歳なのよ！　せめて、心優しい姉と呼んで欲しいわ！」

クルナは笑顔で、ちやかしながらそう言った、が目は少し真剣だた。

「ごめんごめん。許してください、心優しい姉様！（クルナさん、て、案外めんどくさいな！！）」

「勿論よ、何しろ私は心が静水のように清久美しいから、怒りなんて感情は持ち合わせてないわ！　だから、これからはお母さんじゃなくて、お姉様と呼んでね、分かったわね！！」

クルナは途中まではたんと話していたが、最後のセリフは明らかに感情移入していた。

「うっうん、わかったよ、お姉様！（やっぱりちよっと面倒臭いな！！）」

「それでこそ、私の妹よ。それじゃ、そろそろデュエルを始めまし

「よう」

「うん、始めよう」

「それじゃ、まず最初に練習用のデッキでデュエルしましょう！」

そう言ってクルナは夢弓にアタッシュケースから取り出した、デッキを渡して自分も練習用のデッキを手にした。
そして、更にそのデッキに別のデッキから2枚のカードを加えた。

「さあ、デュエルしましょう。夢弓ちゃん！」

「うん、でも、今デッキに何のカードを加えたの？」

「フッフ、それはデュエルが始まってからの楽しみよ。…いくわよ、夢弓ちゃんデュエル！」

「うん、デュエル！」

互いにライフは8000でスタート、そして、互いに5枚ドローして手札にした。

「先行は私から行くね。ドロー！ ブラッド・ヴォルスを攻撃表示で召喚して、1枚伏せてターンエンドだよ」

【ブラッド・ヴォルス 闇属性 レベル4 獣戦士族 販売 攻撃
力1900 守備力1200 ノーマル】

夢弓は斧を手に持っている、獯猛な男のカードを出した。

ターンがクルナに移る。

「私のターンね、それじゃ、ドロー！私はマジックカードブレイン
コントロールを発動するわ。」

【洗脳ーブレインコントロール 通常マジック 販売
効果】

『800ライフ払う。相手の場の表側表示モンスター1体を選択する。発動ターンのエンドフェイズまで、選択したカードのコントロールを得る。』

「この効果で800ライフをコストにブラッド・ヴォルスのコントロールを得るわ」
これによりクルナのライフは7200になった。

「うっうう、（でも、全然平気、だって私が伏せたのは聖なるバリ
アーミラーフォーサーだもん！ 数出されても、これでイチコロ、
だから全然平気。）
で、モンスター召喚は？」

「勿論するわよ。ブラッド・ヴォルスを生け贄に
地帝グランマーグを召喚するわ。」

そして、効果発動！

夢弓ちゃん、その伏せカードを破壊するわ！」

土の魔神が夢弓の伏せカード聖なるバリアーミラーフォースを叩き潰した!!

【地帝グランマーグ 地属性 レベル6 岩石族 販売
攻撃力2400 守備力1000

効果】

『このカードの生け贄召喚に成功した時、場にセットされたカード1枚を破壊する。』

「ぐっぐっわ、そっそんなの酷い、酷すぎるよ。

しかもその上そいつ、ザコいし！ 帝の中で一番いらぬ子だし。

そんなの使つて来る事自体なんか酷いし！」

「こおあつ！ いらぬ子と、か、言わないの!!

実際帝の中ではグラチャン一番弱いけど。

人によってはメビウスや

ザボルグよりも強いって言う人もいるのよ!!」

「うそっだあー!!」

「本当よ、何しろ私もその、中の1人よ！ 私はフィールド魔法ガイアパワーを発動するわ！」

【ガイアパワー
フィールド魔法 販売 効果】

『全ての地属性モンスターの攻撃力は500上がり、守備力は400下がる。』

「なっなに、それ、…ホントに酷い」

「これで常にグラチャンは攻撃力が500上がっているわ。

標準強化された、グラチャンで夢弓ちゃんにダイレクトアタックよ

！」

「ぐううー、…酷い酷い…酷いよ■だ！」

夢弓は少し投げやりな感じで言った。そして、ライフは5100までに減少した。

「カードを1枚伏せてターン終わりよ！」

現在クルナの手札は2枚対する、夢弓はこのドローで手札が5枚になる。

「うつつう、私のターン、ドローするよ。クリッターを召喚して、更にマジックカード地割れ発動だよ！」

「私のグラチャンが…」

【地割れ 通常マジック
販売 効果】

『相手の場の攻撃力が一番低い表側表示モンスター1体を破壊する。』

「これでがら空きだね。」

クリッターでクルナさんにダイレクトアタックだぁー!」

「甘いわね。トラップ発動リビングデッドの呼び声!これで、グランチャンが復活したから、アタックは無理ね!」

「うう、仕方ない、1枚伏せてターンエンド!」

【リビングデッドの呼び声永続トラップ 販売 効果】

『自分の墓地からモンスター1体を選択して、攻撃表示で特殊召喚する。』

このカードが場から存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。』

「私のターン、だから、ドローするわね。」

いくわよ。私は強奪を発動するわ。これで夢弓ちゃんからクリッターのコントロールを奪うわね!」

【強奪 装備魔法 販売 効果】

『このカードを装備した相手モンスターのコントロールを得る。相手のスタンバイフェイズ毎に、相手は1000のライフを回復する。』

「えええええー、やっぱ酷いよぉー!!」

「フフフ、それがデュエルよ夢弓ちゃん。」

いくわよ、覚悟は良いわね？」

「良くない…全然良くない！ 言い分けないよ。だから、やめて！」

「だあめつよ。私はクリッターを生け贄に2体目のグラチャンを召喚しちゃうわ。そして、効果でその伏せカードを破壊するわ！」

「ううう、…酷い…酷すぎる！ さっあきから全然、情け容赦無いよ！…！」

「フッフ、誉め言葉として受け取って置くわ。

それじゃ、クリッターの効果発動して良いわよ！」

「その前に伏せていた和睦の使者を破壊される前に、カットで発動するね！」

【和睦の使者 通常トラップ 販売 効果】

『このカードを発動したターン、相手モンスターから受ける全ての戦闘ダメージを0にする。』

このターン自分のモンスターは戦闘によっては破壊されない。』

「これでこのターンは痛くも痒くもないね。

そして、クリッターの効果を処理するね！

私はデッキからキラール・トマトを手札に加えるね！」

【クリッター 闇属性 レベル3 悪魔族 販売 攻撃力
1000 守備力600 効果】

『このカードが場から墓地に送られた時、自分のデッキから攻撃力1500以下のモンスター1体を選択して、お互いに確認して手札に加える。その後デッキをシャッフルする。』

「困ったわね！ それじゃ、最後の手札1枚を伏せてターン終わりよ！」

このターンが終了した今現在、クルナの手札は0枚対する、夢弓はこのターンのドローで手札は5枚になる。
手札の数では夢弓が圧倒的に優勢であった！

「いつくよおー、ドロー！フッフ、良いカード引いちゃった。…私は強欲な壺を発動するよ！
このカードの効果で2枚ドローするね」

【強欲な壺 通常マジック販売 効果】

『自分のデッキからカードを2枚ドローする。』

「やったー、またまた良いカードを引いちゃった！！まずはキラートマトを召喚して魔法カード強制転移を発動するよ！…フッフ、クルナさんの手札は0これで勝っちゃったかな！」

夢弓の場は無気味な顔がある巨大トマトが現れた！

【強制転移 通常マジック販売 効果】

『お互いに自分の場のモンスターを1体ずつ選択して、そのモンスターのコントロールを入れ換える。』

選択されたモンスターは、このターン表示形式の変更はできない。』

【キラー・トマト 閻属性レベル4 植物族 販売 攻撃力140
0 守備力1100 効果】

『このカードが戦闘によって墓地に送られた時、デッキから攻撃力1500以下の閻属性モンスター1体を自分の場に表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。その後デッキをシャッフルする。』

「へえー、なかなか良い引きね！」

「そうでしょ、この効果で互いのモンスターを1体ずつ入れ換えるよ！」

「当然入れ替わるのは？」

「グラチャンとキラー・トマトね」

「そのとおりだよ。」

「それじゃ、入れ換えた、あんまり使えないグランマーグでキラー・トマトを攻撃しちゃうよ！」

土の魔神グランマーグが巨大バケトマトのキラー・トマトを叩きつぶした！！

そして、

今の攻撃でクルナのライフは5700にまで減少した！

「うくつ、や、やるわね。でも、まだ私にはグラチャンがもう1体いるわよ、どうするつもりなの？」

「ご心配無くちゃんと手打ってあるから覚悟してね！まずは、キラー・トマトの効果でデッキから

黒き森のウィッチを特殊召喚して魔法カード痛み分けを発動するね

！」

【痛み分け 通常マジック 販売 効果】

『自分の場のモンスター1体を生け贄に捧げる。相手は自分の場のモンスター1体生け贄に捧げなければならない。』

「このカードの効果でお互いに自分のモンスターを生け贄にして、破壊しないとダメですよ！」

私は当然ウィッチを墓地に送りますけど〜！クルナお姉様はどうしますか〜？」

夢弓は口元をニヤニヤさせながら、目に見えて白々しくそう言った。

「白々しいわね。私には今グラチャンしかいないから、この子を指

名するわ!」

「はぁいー、それじゃ、オーダー入りまーす!!
互いのモンスターミックスで墓地に参りまーす!!」

夢弓は自分の勝ちを確信して完全に調子に乗っていた!

「うくう、夢弓ちゃん完全に調子に乗っているわね! (なんかちょっとむかつくわね!)」

「そして、更にウィッチの効果発動でーす! デッキからメタモルポットを手札に加えまーすーらんらん」

【黒き森のウィッチ 闇属性 レベル4 魔法使い族

販売 攻撃力1100 守備力

1200 効果】

『このカードが場から墓地に送られた時、自分のデッキから守備力1500のモンスター1体を選択して手札に加えるね。その後デッキをシャッフルする。』

夢弓は完全に調子に乗りながら、デッキをシャッフルした。

「それじゃ、ターン・エ・ン・ドでーす」

「悪いけどその前にリバーバカードを発動するわね！
トラップカード強欲な瓶を発動するわ！
その効果で1枚ドロウするわね！」

【強欲な瓶 通常トラップ販売 効果】

『自分のデッキからカードを1枚ドロウする。』

そして、そのまま、クルナにターンが移る。

「私のターン、ドロウするわ！ 私はならず者傭兵部隊を召喚。そして、優先権利を使って効果を発動するわね！」

【ならず者傭兵部隊 地属性 レベル4 戦士族 販売攻撃力1000 守備力1000

効果】

『このカードを生け贄に捧げる。場のモンスター1体を破壊する。』

「当然この効果で私は奪われたグラチャンを破壊して！ ターンを終わるわ」

「くうう、（これでまた互いながら空き状態…でも私のターンだから、私が先制できるし。まーあいつかあ）」

「私のターンになったから ドローするよ！私はね2枚目の ブラッド・ヴォルスを召喚してお姉様にダイレクトアタックするよ！」

「うぐっ、ホントにやるわね！」

クルナはブラッド・ヴォルスの直撃を受けた。それによりライフは3800に減少した。

「よおっし、（あともう少し。） これでターンは終わりだよ」

ターンがクルナに移る。

そして、クルナは目線を軽くデッキリやり、人差し指と中指でカードを挟むようにドローした。

「良いカードを引いたわ。私はチェミナイ・エルフを召喚して、ブラッド・ヴォルスに攻撃するわね！」

「ええ、いいの？」

ブラッド・ヴォルスの方角攻撃力は上だよ！ ホントに良いんだよね？」

夢弓は少し首を傾げながらクルナに聞いた。

「夢弓ちゃん、何か大事な事忘れてない！」

「大事な事って、なあに！」

「場をよく見て見なさい！」

「え、だって、リバーは1枚も無いし……あつ、」

夢弓はフィールドゾーンに配置してある、ガイアパワーに気が付いた。

「そうよ、…配置してあるガイアパワーのお陰でチェミナイ・エルフの攻撃は標準的に500上がるのよ！」

攻撃力が上がった、双子の美人巨乳姉妹は2人でブラッド・ヴォルスをリンチにかけて八つ裂きにした！

【チェミナイ・エルフ 地属性 レベル4 魔法使い族 販売 攻撃力1900 守備力900 ノーマル】

「うっわあ、」

夢弓は戦闘による、超過ダメージを食らった！

これにより夢弓のライフは4600に減少した。

これにより、クルナとの

ライフ差は800にまで狭まった！

「ターンエンドよ。…夢弓ちゃん！」

「ううう、…ヤバイ、このままだと負けちゃうよ！
何とかしないと。」

ドロローするよ！…（ダメだよ、全然良い手が来ないよ。仕方ないからバレバレだけど、メタモルポットと一緒にリアクティブアーマー伏せるしかないよね。）

私はモンスター1体をセットして、更にカードを1枚伏せるね！…
ターンエンドだよ」

「私のターン、ドロローするわよ！ 夢弓ちゃん、そのセットモンスターメタモルポットだって、バレバレだよ！」

「（やっぱり、張れた……当たり前か。…はあああ、死ぬなこれ！）
」

「夢弓ちゃん、いくわよ！私はマジックカードサイクロンを発動して、夢弓ちゃんのそのリバーズカードを破壊するわね！」

【サイクロン 速攻魔法
販売 効果】

『場の魔法またはトラップカード1枚を破壊する。』

「うっぐう、でもまだこのターンは凌げるよ！」

自信満々でそう言った、夢弓に対しクルナは反論した！！

「ごめんね、多分それは無理よ！」

「ええー！ 何で何で!?!」

「それはね!?! 私がこのカードを使うからよ！マジックカード太陽の書を発動するわね!」

【太陽の書 通常マジック販売 効果】

『裏側表示で場に存在するモンスター1体を表側攻撃表示にする。』

「この効果でそのセットされている、メタモルポットを強制的に表側攻撃表示にするわね!」

【メタモルポット 地属性レベル2 販売 攻撃力700守備力600 効果 リバーズ】

『リバーズ：自分と相手の手札を全て全てる。』

その後、お互いはそれぞれ自分のデッキからカードを5枚ドロースる。』

「ううう、そつそんな、…酷い、酷いよ！ 酷すぎるよ！ クルナさんの鬼ー!」

「フッフ、誉め言葉として素直に受け取っておくわね!」

「ほめてない、ほめてないよー！ だからやめてー」

「だぁめっ、よー!」

「やっぱ、クルナさんは…酷すぎるよ！」

「さってつと、メタモルポットの効果で手札を全部捨てて新しく手札を5枚引くわよ。」

フフフ、夢弓ちゃん、悪いけど、このデュエル私の勝ちよ！ さあつき入れた、私のサプライズカード2枚を引いたわ。それじゃ、いくわよ覚悟は良い？」

「良くない、全然全く良くないよ！！！」

「そう、良いみたいね！ それならいくわよ！」

「だから、全然良くない、これぼっちも良くないってばあー！！！」

夢弓がいくら叫んでも、当然クルナはやめるはずもなかった！

「私は手札からマジックカードカオスの儀式を発動するわ！ そして、手札からレベル6の3枚目のグラチャンと私のレベル2のメタモルポットを生け贄にして、カオス・ソルジャーを儀式召喚するわね！」

【カオスの儀式 儀式魔法 販売 効果】

『カオス・ソルジャーの降臨に必要。場か手札から、レベルの数が合計8個以上になるようにカードを生け贄に捧げなければならない。』

【カオス・ソルジャー 地属性 レベル8 戦士族 販売攻撃力3
000 守備力2500

儀式】

クルナの場に漆黒の鎧を身に纏っている、混沌の戦士が現れた！

「ええー！ 何でそんな超超レアカードを持つてるの？」

「え、ああ、確かにこのカードは入手困難らしいけど、私が欲しいって、言ったら私のパパが儀式魔法カードもセットで3枚ずつ、オークションで競り落としてくれた物よ！」

「一応聞くけど、そのパパで、まさか援交じゃないよね？」

夢弓は恐る恐るクルナに聞いた。すると！

「そっそんな、分け無いでしょ！ 私のパパは少しお金持ちなだけよ。」

それに言ったでしょ、私は麗しの処女だって！！」

「それはわかったけど、ちょっと声がデカイよ」

「更にマジックカード団結の力を発動して！ カオスちゃんに装備するわね！」

【団結の力 装備魔法

デュエルが終わった後、
クルナは自分のカードを
使って夢弓と一緒に夢弓のデッキを作り始めた。
そして、デッキが完成した時、屋敷の電話が鳴り響き、その音を聞
いてクルナが電話を取った。

「はい、もしもし誰ですか？……美雪！ どうしたの！ 何でそん
なに慌ててるの？ 何が合ったの？
え、何ですって！ セッセレーナ！ あのセレーナがっ！ 遊奈と
デュエル！

それは絶対に駄目よ。

セレーナと戦えば今の遊奈じゃあ、絶対に勝てない！ そうなれば、
遊奈は必ず、あのカードを使うわ！……あの…死のカードを！！
それだけは、絶対に駄目、今から私も行くから。
それまで遊奈の事何とかお願いね！！美雪！！」

講して、クルナは遊奈達の元に向かったが！
クルナが到着する前に、クルナの懸念どうりに、遊奈は心を食らう
死のデスカードを使ってしまった。
そして、更には精神崩壊を起こしてしまう！！

果たしてクルナは遊奈の心が完全に食い付くされる前に、遊奈を救

い出す事が出来るのか？

次回に続く！

第9話 混沌の戦士（後書き）

次回予告 美雪からの連絡を受けて遊奈の元に向かった、クルナと夢弓だったが。途中夢弓を狙う、ヤクザに雇われた男に夢弓が浚われて……

次回遊戯王デュエリストクイーン

ンズ 第10話 エスケープ・ロード！ お楽しみに！

第10話 エスケープ・ロード（前書き）

皆様更新が遅れてすいませんでした。最近風邪気味でその上夏バテでした。でも、もう体調も回復したのでこれからは1話当たり3日から7日ぐらいで、書いて行きますのでこれからもどうぞよろしくお願いいたします！

それと、今後の予定ですが。近い内にこの小説以外にも遊戯王の小説を書く積もりです。その小説は剣竜さんのドラえもののび太のデュエルモンスターズ見たいに、遊戯王と他の作品をコラボするつもりです！恐らくかなり異色の作品とコラボすると思います。ヒントは今から十年前にプレステで、発売された。シリーズ物のゲームソフトです。

第10話 エスケープ・ロード

美雪からの突然の連絡を受けたクルナは遊奈の危機を知り、急いで遊奈達が入るクロムス・ベルブのビルに向かおうとして、アタッシュケースからデュエルディスクを取り出した！

そして、

自分のデッキをセットして自分の左腕にそのディスクを装着した。

それを見ていた夢弓は後ろからクルナに声をかけた。

「どうしたの、今の電話は美雪さんからなの？」

それに、その腕のデュエルディスクは…… まさか遊奈ちゃん達に何か合ったの!？」

夢弓はクルナの態度が電話を受ける前と、受けた後では明らかに違う事に気づいた。

そして、その余裕の無い様子から、電話の内容が遊奈達の危険を知らせる物だと考えて、それを確かめた！

もしも実際に遊奈達が危険な状況にあるのなら自分もクルナに同行して、二人の危険な状況を打開してその上で、二人を助けようと考えていた。

「何でもないわよ! ……ごめん下手な嘘だったわね。 ……夢弓ちゃんには正直に今の状況を教えるわ!」

クルナは最初は否定していたが、自信の焦りを夢弓に見抜かれてい

る事に気付き！

クルナは夢弓にまず、自分達がデュエルで暗殺や拉致された人間の解放と犯人の抹殺等を受け合う、始末屋である事を告げた！

そして、

今回の遊奈達二人に行かせた仕事の内容と今起きている、状況の説明をした！

説明をしている、クルナの表情は少し焦りながらも、口元はいたって冷静で夢弓に黙々と説明をしている！

一方、その説明を聞いている側の夢弓も真剣な目でそれを聞いていて、あるひとつの構想を導き出した！

その構想とは！

「クルナさんもしかして、その依頼人は。……「ベルヴユサーゴ」じゃないの？ 違う？」

「夢弓ちゃん貴方って見た目や年齢とは裏腹に、情報どつり、かんとあたまが良い見たいね！

でも、だとしたら、どうするの！？」

クルナは少し不敵な笑みを浮かべて、夢弓に言った！

それに対し夢弓は！

「クルナさん、貴方、私の事どこまで知っているんですか！？」

夢弓の表情は今まで問わ、まるで別人の様な冷静で切れのある目でクルナを見詰めて少し怖い殺意にも似た、オーラを出しながらクルナに問い質した！

「そうねえ、取り合えず今分かっている事は貴方が実の両親を無断に殺して、逃げ回っている事と。」

行く先々で御得意の守勢術を使って、取り入った人間達を次々と殺して金品と食料を奪って逃走しては！

また、同様の殺戮行為を別の場所で繰り返している。ただのイカれた殺人マシーン！……それが貴方の正体よ。紫ちゃん！！」

クルナは昨日インターネットを使って夢弓の事を調べた事により人道夢弓と言つ名前が偽名で合つて、本名は「赤野紫」

『あかのむらさき』である事が分かる。

更に調べていく内に今から二年前、夢弓は当時12歳の時に両親が自分達の経済的な理由で勝手に決めた、婚約者である貴族の放蕩息子に好意を迫られて、それを断つた為に夢弓は！ その貴族と両親によつて監禁される事になる！！

そして、飲まず食わずで監禁されて、3日目の夜に解放された夢弓は。

自分を鎖に繋いで3日間も監禁した、両親と婚約者に対し自分の落ち度を認めて悔い改める態度を見せた事により解放された後にシャワーと食事をする事を許される！

そして、食事を終えた後に夢弓は、テーブルの上のお皿を下げに来た母親の首元に右手に持っていた、ナイフを突き刺した！！

そして、瞬時に自分の隣に立っている父親の左目に、自分の左手に持っていたフォークを母親同様に突き刺した！！

更に夢弓はその左腕でテーブルに置いてある、お皿を使って痛みを悶え苦しむ父親の左顔を殴り付けて、父親が倒れた後にテーブルの奥の椅子に座っている婚約者にそのお皿を投げ付けた！！

そのお皿は勢い良く飛んで行って婚約者の顔面に直撃して、その婚約者が倒れた後に夢弓はスカートの左側ポケットから小さなシャンプーボトルを取り出して左指で器用にキャップを開けて、中に入っていた泡上のシャンプー液を痛みに悶え苦しみ倒れている父親の顔面に上から落とした！！

当然そのシャンプー液は父親のフォークが刺さっている左目にもたれ込み、更に痛みが増大した父親は、見るに耐えない程に悶え苦しみ出して、声にもならない悲鳴をまるで獣の様に上げていた！！

夢弓が使った、このシャンプー液とボトルは夢弓が先程シャワーを浴びた時にお風呂場に置いてあった、ボトルに母親のシャンプー液を入れて張れない様にスカートのポケットに入れた物だ！ 更にこの時夢弓は父親のカミソリも2つ盗んで左右のポケットに忍ばせていた！！

そして、夢弓は母親の首元に突き刺しているナイフを持っている右手に空いた左手を重ねて、力と体重を入れて。

母親の首元を残酷な表情で描き切った！！

そして、母親を殺した夢弓は、その勢いそのまま悶え苦しみながら倒れている父親の顔面に先程まで自分が座っていた、椅子を持ち上げて悪鬼の様な笑顔で振り落とした！！

これにより父親の顔は完全につぶれて、先程の泡と血と肉が混じり合っただけ見るも無断な、ただの塊と化していた！！

当然この状態で、その様な事を去れたらどんな人間でもまず、無事ではすまないのは確実のはずだ！！

だが、しかし。夢弓はそうは考えなかった！ 夢弓は 倒れている
『恐らくは死んでいる』父親の首元に先程母親を殺したナイフと左
側ポケットから出した父親のカミソリを使って父親の首元切り裂い
た！ その時に切り裂いた箇所から血が吹き出して、夢弓の顔と髪
に飛び散った！ その時の夢弓の表情は非常に冷酷で冷たい表情を
していた！ だが、何処と無く楽しげにも見える！！

そして、二人の實の両親をその手で立て続けに殺した夢弓は！ 当
然の如く残る最後の一人もその手にかけて！！

そして、全人を殺し終えた夢弓は直ぐ様、服を着替えて、家中の金
品とお金をかき集めて。持てる限りの着替えと食料をバックとスー
ツケースに詰めて、冷たい死体に姿を変えた自分の婚約者だった男
のポケットから車のカギと身に付けている金目の物とサイフを奪い
取って。夢弓はその男の車を使って残虐な殺人の舞台となった自分
の家から逃げ去った！！

この時も夢弓の表情は非常に冷たく落ち着いていた。
元々夢弓は物心が着いた幼少の頃から犬や猫等の動物を毎日殺し回
っていたのだ！ そして、それが10歳を過ぎた頃から、その対象
が動物から人間に移り変わったのだ！！

そうなつてから夢弓は毎日の様に町を歩き回りホームレスや売春目
的で近付いてきた歳上の男等を人気の無い所に連れ込みスタンガン
を使って眠らせて、そのままサバイバルナイフ等の刃物を使って殺
していたのだ！！

夢弓はデュエルでも人を殺すが、趣味的に生身の体で血肉を感じな

がら人を殺す事に最大の喜びを感じる様だ！

そして、

そのような行為を繰り返す為に夢弓の両親は夢弓のこの行為を揉み消すために、友好関係に合った、貴族の家の放蕩息子に夢弓を嫁にする代わりに、夢弓の犯罪行為の揉み消しを頼んだのだ！！

そして、この二年間夢弓は自分の名前を『赤野紫』から『人道夢弓』に変えて

行く先々で知り合った人間に取り入って、隙を見せたところで殺して金と金品を奪って逃げる。と言った生活を繰り返している事をクルナは調べたのだ！！

そして、クルナが自分の過去を調べた事を確信した夢弓は

「（ちっ、まさか僅か半日で正体を知られるとは、思っていなかったなあ！

どうやらただ者じゃない

見たいだなあ

さあ、どうするかな。

『ベル』と繋がってる見たい出し……今殺すか！！

こう言う時の為に昨日夜中にここのキッチンからナイフを盗んでポケットに忍ばせている事だし！！」

夢弓は一気に殺意のオーラを放ちながら、クルナの殺害方法を考え
ていた。

そんな夢弓に対しクルナが口を開いた！

「やめた方が良いわよ！

貴方が昨日キッチンからナイフを盗んだ事と朝食の時に使ったナイ
フを隠している事は分かっているわ！」

クルナは夢弓が自分に対して強烈な殺意を持って自分の事を殺そう
としている事に築き、夢弓に対し言葉による牽制を仕掛けて、夢弓
の次の手を伺った！

一方の夢弓はクルナのこの発言に対して、更に舌打ちをしてこの発
言からクルナは退路を持っていると考えて、殺す事を一旦あきらめ
た！！

そして、そんな夢弓を見てクルナが口を開いた！

「流石に冷静ね。そうよ、貴方の想像道理に私は貴方には殺されな
いわよ！

でも、それは別に特別な退路がある訳じゃないのよ！ その理由分
かるかな？」

この発言に対し夢弓は悔しそうな表情で、クルナに言葉を返した！

「ちっ、それはつまり。

今ここでアンタを殺せば

私はまた、逃げ回りながら路上でカモを見付けて殺して奪う日々に戻る事になる。だが、もしここで自分を殺さなければこの屋敷で安定した生活を保証すると言う事だな!!」

夢弓は悔しそうな表情ながらも冷酷で冷たい目でクルナを見詰めていた!

それに対しクルナは少し表情を崩して笑った!

「フフフツ、流石ね。そこまで見抜くなんて。やはり流石は『ニューブレイン』と、言ったところね!」

「なぜその事まで。その情報はネットでも流れていないはずなのに、なぜ?」

(やはり『ベル』と繋がりが有るのか!!)」

夢弓は少し動揺して、そう言うところクルナに対し再び凶器の視線を向けた!

クルナの言った。

『ニューブレイン』とは

生まれながらにして、常人を遙かに越える。高い知能と精神力を持って生まれた世に言う超人を意味座す、名称である!!

このニューブレインと呼ばれている人間の誕生比率は極めて少なく、確認されているだけでも現在世界に存在するニューブレインの数は

僅かに2のみである！

もし夢弓が本当に、ニューブレインなら夢弓は世界で3人目のニューブレインになる！！

だが、本当に夢弓はニューブレインなのか？

ニューブレインの特徴は物心が着いた時にはすでに常人の大人と同様の知能と精神力を持っていて、知能と精神力の成長速度はどちらも常人の成長速度を遥かに超える物である事が判明している！

そして、更に生まれながらにして味覚が無い事と汗をかく生態が無い為に汗を描かない事も判明している！

そして、最後に最も重要で特徴的なのが、ニューブレインは生まれながらにして常人よりも遥かに高い殺害衝動を持っている事だ！

この衝動は通常の人間で言うところの食欲や性欲そして、睡眠への欲等の人間が生活をしていく上で必要不可欠な衝動であるが。

ニューブレインに撮っての殺害衝動は食欲や睡眠欲等と同様またはそれ以上に重要な欲望で合って実行しなければ死に至る事も判明している。為、ニューブレインが人を殺すのは生物的に正しく当たり前前の事なのだ！

これらの事を踏まえると夢弓は必然的にニューブレインと、言う事になるが。

それなら何故クルナは夢弓がニューブレインであると分かったのか？

「それはね、貴方が食べた朝食に、人間なら誰もが下を幕程の辛さの調味料と汗を誘発する薬をたっぷり混ぜたにも関わらず、貴方は。どちらのリアクションもしなかったわ！

そして、何より今までの貴方の過去の経歴を見て、ニューブレイン

の事を知っている人間なら誰もが貴方がニューブレインだって確信するわよー!!」

クルナは夢弓に対し笑顔で微笑みながら、そう言った！　だか、それに対して夢弓は別の疑問をクルナにぶつけた！

「それなら、尚の事と何で私を……この屋敷に？　貴方の仲間に誘うの？　やっぱり貴方もニューブレインの力が目的なの？」

夢弓は曇りの無い眼でクルナを見詰めて、そう言った！

「フツ、誓うわ。でも、そうねえ。私意で言えば貴方には遊奈の妹になって貰いたい。アレは幼少の頃の心の傷が元で今も自分らしく生きていないの。でも妹が出来たら変わるかも知れない、だから貴方に遊奈の妹になって貰いたいの！」

クルナは夢弓に少し荒々しく説明した。それに対して夢弓は。

「理由は分かったけど。でも何で私なの？」

夢弓のこの質問は最もであった！　何故クルナは遊奈の妹に夢弓の様な極めて危険な、それも標準的に人を殺す人間を選んだのか？　その理由は！

「それは、貴方が遊奈の事を気にかけているからよ！　どうして貴方は遊奈を気にしているの？」

クルナは逆に夢弓に問い質した！　確かに夢弓の遊奈に対する態度は今まで夢弓が取り入って、殺して来た、人間達とは少し違う。

その事は誰よりも夢弓自身が感じていた事だ！

何故自分は遊奈に、まだ知り合って半日の見ず知らずのそれも、最初から殺すつもりで適当に選んだハズの女なのに、なぜ！！

いくら、考えても夢弓には答えが出せない！

「分からない！」

夢弓としては、これ以外に何も言えなかった。そんな夢弓にクルナは口を開いた！

「なら、その答えを自分自身で見付けて見ない！

その為の協力なら、惜しまないから。それでもダメ？」

クルナの表情は笑顔のまま一点の曇りも無かった！そして、そのクルナの申し出に対しての夢弓の返事は！

「人を、思う増分殺させて暮れるなら良いよ！！」

夢弓は人を殺さないと生きて行けない為、この条件は標準的に必須の物になってくる。

その事はクルナも予めから理解していて、すぐに返事を返した！

「仕事でなら良いけど、それ以外は絶対に駄目！！」

それを守る事が絶対条件よ！！　良いわね？」

クルナは先程と同様に表情は笑顔で合ったが、その笑顔は心なしか何処か引き摺って見えた！

「ちっ、それでいいよ。

その代わりに犬か猫を暮れる。足りない分はそれで、補うから！！」

夢弓は少し不満そうな表情でそう言った！

一方のクルナも夢弓のこの発言に対して少し悩みながら答えた！

「うーん、……ワンちゃんやネコちゃんには申し訳ないけどそれで、貴方が良いなら私はOKよ！　それじゃ、感じんの貴方のお姉さんを助けに行きましょうが！！」

夢弓はそれに無言で首を盾にふり自身もデュエルディスクにデッキをセットして左手に装着した！

そして、二人は車に乗って遊奈達がいる。クロムス・ベルブの会社のビルがあるフルタウンに向かった。

そして、二人は近道の為にフルタウンの裏道を使って、クロムスのビルを目指した！　が、その途中クルナ達が乗っていた車を10人組の男達が襲いクルナは助無事だったが、隣に乗っていた。夢弓はその内の三人の男達に浚われてしまった！！

果たしてクルナはこの後どうするのか？

浚われて行った夢弓はどうなるのか！

次回に続く

第10話 エスケープ・ロード（後書き）

次回予告 夢弓を謎の男達に浚われたクルナは。夢弓の奪還をあきらめて、先に遊奈達のいるクロムス・ベルブのビルに向かう、が、クルナ自身にも謎の男達が襲い掛かる！そしてクルナの、1対7での孤独な戦いが 始まる！

次回遊戯王デュエリストクイーンズ第11話 路上の殺戮者お楽しみ。

第11話 路上の殺戮者（前書き）

皆様いつも読んで頂き、誠にありがとうございます。今回は実験的に新しい、おまけとしてここにオリカを1枚乗せる事にしました！

もし皆様に気に入って貰えたら、永続的に乗せるつもりです。それではいきますよ【巨兵の召集 通常マジック オリジナル】
『1000のライフを払いデッキから岩石の巨兵と名のつくモンスターカードを2枚手札に加える。』最近は誰も使わない岩石の巨兵のサーチカードです。もし皆様にこの新しいおまけコーナを継続してほしいと。言われましたら継続させて頂きます！皆様どうか宜しく
お願い致します。

第11話 路上の殺戮者

クルナと夢弓は、車に乗って、クロムス・ベルブのビルがある、フルタウンに向かう。

そして、途中二人は近道の為に裏道を使っていた。

このフルタウンはこの地方の貴族が人身売買を取り仕切る為に高級貴族が建設した、この地方の人身売買の拠点となる町である。

その性質上、この町の全てが貴族が経営している企業の高層ビルとその下請けをしている商人とヤクザの事務所等で構成されている。

その為、当然ながら、治安の安全は皆無に等しく。一般人が足を踏み入れれば、あっという間にヤクザに襲われて暴行を受ける事になる。

ただし、それはあくまでもここでビジネスをする為の許可書を持たない者に限った事だが！

その為、クルナ達も当然その許可書を持ってきている。

ちなみに、遊奈達もクロムス・ベルブのビルに行く為に当然その許可書を使ってこの町に来ていた。

裏道を走ること15分。

「夢弓ちゃん、あともう少しで目的のビルよ。眠たくない？ 寝たらダメよ！ 準備は出来てる？」

「ちつ、いい加減にその子供扱いは止めて欲しいな。……出ないと本当に殺しちゃうよ！」

運転席に座っているクルナに対し夢弓は隣の席からクルナの目線に殺意剥き出しの視線を向けてクルナを牽制した！
それに対しクルナの反応は！

「ごめんごめん。そんなに怖い顔しないでほおらあ笑って笑って、女の子はスマイルが一番よ！ それにいくらニューブレインだからって貴方はまだ年齢的に子供何だから、それは認めなさい！」

クルナ優しい口調と笑顔でそう言った。それに対し夢弓は当然怒りで持って言葉を返した！

「くう、だから子供扱いはやめろって言うているでしょうが！ あんまナメテルと本当にマジで刺し殺すよ！」

「ハイハイ、ごめんごめん許してね！ ……それにしても夢弓ちゃん、貴方本当に昨日とは別人ね！」

私の前ではいいけど、約束どおり遊奈の前では『昨日道理の人道夢弓』でいてくれるわね？ 夢弓ちゃん！」

クルナは笑顔の後にため息を付いてそう言った。

「分かっているよ！ そつちこそ血肉の件忘れて無いよね!？」

「大丈夫よ。ちゃんと用意するから！ ……ハアア、（この事が動物愛護の人達に知れたら間違いない激怒するわね!）」

走行していると前方に行きなり、数人の男達が現れてクルナ達の進路を妨害した！

「ちょ、ちょっと何あれ。退きなさい！」

クルナは男達にクラクションを鳴らしたが、男達は一向に退かない！
そして。

「ちょ、危ない、嫌、……キヤアアアー！！ あっうばっ」

「なに！ くう、……うぐっあっばっ！」

クルナは咄嗟にブレーキを踏みハンドルを右に切って男達を避けたが狭い路地の為車は壁に激突してしまった！ その際にクルナは頭を強く打ち、右側から血が垂れ出ている。

唇も切った為、口元からも血が垂れ出ている！

一方夢弓も頭を打ち付けたが、シートベルトを強く持って受け身の体勢で合った為、クルナの様な外傷はほとんどなく無傷でピンピンしていた！

「くっ、アイツらなめた真似を、全員1人残らず皆殺しにしてやる
！！」

夢弓はそう言うのとシートベルトを外してポケットからナイフを取り出し車を降りて男達に駆け寄ろうとした！ だが、その瞬間背後から別の男達が夢弓に近付いて来て、夢弓にスタンガンを向けた！

「なにい、はあっ、うぐう！」

夢弓は前の目に倒れて右手に持っていたナイフを落とした！

男の1人がそのナイフを蹴り飛ばして、そのまま倒れている夢弓を肩に担いでその場を後に使用とした！

「案外簡単に仕事が済んだな。それに仕手もこのガキまだ14の女のクセにナイフ持って全員皆殺しにするとか叫んでいやがった！

俺が言うのも可笑しいが

世も末だな！……よし、そっちの車で寝ている女も連れて引き上げるぞ！」

「わかったぜ。」

男の1人が車の中で傷付いている、クルナを連れ出そうとして車に近付く。

その瞬間クルナは意識を取り戻した！

「ううう、あつ、頭が痛いちょ、ちよつと血が出る。……唇からも血が！」

え、ちょ、ちよつと何よあんだ！」

「うわあー！ いてえー！」

クルナは近付いて来た男の顔をくつ裏で四回蹴り飛ばして男の顔を血塗れにして車の外に追いやった！

そして、満身創痍の中、今の状況を認識して直ぐ様車のアクセルを踏み出し車を走らせる！

「くそ、あの女起きやがった！ おい、お前ら俺たちはこのガキを連れて先に行く。お前らはその女を大人しくさせてから戻れ！ 言いな？ 逃がすなよ！」

そう言うと夢弓を担いだ男と後の二人は逃亡して行った！

そして、クルナは。

「くう、（頭が痛い、ガンガンする！ ついでに唇もジンジン痛くて凄く気持ち悪い！ …… まず今は夢弓ちゃんの後回しにしてコイツらを、八つ裂きにしてやるわ！）」

クルナは今までとは、まるで別人の様に憎悪に満ちた表情で車を動かして、残った男達7人を引き殺そうとしていた！！

「うわぁー！！」

クルナはバツクさせた車を巧みに使って男の1人を壁に追い込み男を押し潰そうとした！

「コイツ、調子に乗るな！！」

「きゃ、何するのよっ！！」

男は金属バットで運転席のドアガラスを殴り付ける！当然ガラスは割れて、その破片が更にクルナを傷付けた！

だが、その後直ぐにクルナは右肘で男の顔を3回殴り飛ばした！

男は倒れたが！ その間に壁に追い込まれた男を男の仲間達が助けていた！

そして、クルナは一端車から降りて直ぐ様デュエルディスクを起動させて男達に言った！

「もう、アンタ達の『せ・い・で・』私はこんなに傷だらけのボロボロにされちゃったわ！！ 見て、この傷……私の自慢の白くて美しい柔肌が今はもう、見るも無惨な血塗れの傷物に……当然この責任の代償はアンタ達全員の『命』で支払って貰うわよ！！！！」

クルナは先程のガラスの破片を諸に体に浴びて顔や腕、足等に更に多くの傷を追った！ 特に最初に傷を追った右側の頭の傷口に大きな破片が刺さり、みるみる内に金髪の髪の毛が真っ赤に染まっていた！ 当然刺さった破片は抜いたが、それにより、傷口から更に血が垂れ流れて、その血が耳から首元を伝わり肩から腕に、背中に、胸元にそれぞれ流れ落ち。それが更に指先に、お腹に、股関節に到り。そこから、その血は太ももを流れ落ち。膝を滑り降りると一気に足の表を通って指先に到り溢れ落ちる！ クルナの姿は文字通りに全身血塗れで合った！！

「いいぜ！ 相手になってやるぜ〜！」

「それなら、まず最初はその女に『顔を蹴り飛ばされた』俺が先だ！ いくぜ女！」

男はディスクを構えた！

無論クルナもディスクを構える。そして、

デュエル

互いにデッキから5枚ドロ―して手札に加える！ 先攻はクルナに決まり。更にドロ―をする！

「おい、その血塗れ女。可愛そうだから先攻はお前にやるぜ！
(まっ、でも本当は後攻からなら直ぐにお前をぶん殴れるからただけどな！)」

指先の血を服で拭い冷酷な表情でクルナがカード引く！

「ドロー！ マジックカード高等儀式術を発動！ デッキからデユナミス・ヴァルキリアとカオスの剣士を墓地に送り。手札儀式モンスター1体を特殊召喚する！ 降臨せよ我が最強の下部、カオス・ソルジャーを特殊召喚！」

クルナの場に漆黒の鎧を身に付けた混沌から現れし

戦士が美しい天使と混沌の剣術を操る剣士を犠牲に。 召喚された！

【カオス・ソルジャー 地属性 レベル8 戦士族 販売 攻撃力3000 守備力2500 儀式】

【高等儀式術 通常マジック 販売 効果】

『手札の儀式モンスター1体を選択し、そのカードとレベルの合計が同じになるように自分のデッキから通常モンスターを選択して墓地に送る。 選択した儀式モンスター1体を特殊召喚する。』

【デユナミス・ヴァルキリア 光属性 レベル4 天使族 攻撃力1800 守備力1050 ノーマル 販売】

【カオスの剣士 闇属性 レベル4 戦士族 攻撃力1900 守備力1000 ノーマル オリジナル】

「なつなにカオス・ソルジャー、だと！ なぜ、そんな超超レアカードを！（こんな女が？）まあ、そんな事はどうでも良い。どの

みち俺が勝てばそのカードはデッキごとこの俺の物だからな！ はっはっは！」

男が笑うと後ろの男達の1人が男に向かって言った！

「ちっ、ズリーぞ！ お前勝ったら俺達にもカードよこせよ！」

「ちっ、仕方ないな。それなら俺はこっちの血塗れ女を貰うぜ！」

「別に良いが血塗れだぜ！」

「かまわえーねよ！ 今は血塗れだが治療すればあんなの直ぐに治るぜ。それに元は超美人だぜ。」

勝った時に殺しに闇の力を使わず、その変わり闇の力である女の心を奪い絶対服従の刻印して永遠に俺の肉奴隷にしてやるぜ！」

「そんなときは、俺達にも貸してくれよな！ はっはっは！」

「ああ、勿論良いぜ！」

彼らの今のクルナに対する最低の侮辱に対しクルナは満身創痍ながらも冷徹な表情で淡々とした口調で言葉を返した！

「最低ね！ 最低のクズ……よ！ アンタ全員最低の男のクズよ！ 必ず……殺すわ……アンタ達全員私がここで必ず、殺してあげるわ！」

「はっ、出来るもんなら殺ってみろ！」

この発言にクルナは即答で言葉を返した！

「良いわよ。そんなに言うなら今すぐにこのターンで殺してあげるわよ！ 私はマジックカード高等詠唱術を発動するわ！」

【高等詠唱術 儀式魔法 オリジナル 効果】

『自分の場の効果のない儀式モンスター1体を指定する。自分の手札から指定した儀式モンスターと同名の儀式モンスターを任意の数召喚条件を無視して特殊召喚出来る。この効果で召喚したモンスター1体につきライフを半分払う。このターン自分は戦闘フェーズをスキップする。』

「この効果で私はライフを二度半分にして手札から更にカオス・ソルジャーを2体特殊召喚するわ！ ただし、このターン私は戦闘フェーズを行えない。」

クルナの場に更に2体の混沌の戦士が降臨した！

クルナのライフは高等詠唱術の効果で二回半分になり現在のクルナのライフは残り2000になっている。

「はっ、それで、どうやってこのターンで俺を殺すって言うんだ？
！」

鼻で笑う男に対してクルナは垂れ流れて目に入った血を服で擦って

拭いながら。最後の手札1枚を使う。

「ごう、やってよ！マジックカード時の女神の悪戯を発動するわ！」

【時の女神の悪戯 通常マジック アニメオリジナル】

『発動に成功した時、ターンを発動したプレイヤーの次のターンの戦闘フェーズにスキップする。』

「このカードの効果によりこのターンを次の私のターンに飛ばすわ！当然飛ばされたこのターンは1ターン目じゃないから、私はアムタに攻撃する事が出来るようになるわ！」

「なっなんだと!?!」

青い髪の魔法の杖を手に持った、人間の十代の少女の様な姿をした女神がクルナの対戦相手の男にウィンクをしながら笑顔で微笑み時の流れを変えていく。

「まっ待って。待ってっくれ！さっきは悪かった許してくれ！いや、許してくださいー！」

男は自分の死が確定すると恥じらいなく命乞いをやり始めた！

「本当に最低ね。言った、はずよアンタも含めた全員を殺すって！
カオス・ソルジャー3体でアンタにダイレクトアタック！」

「うぐああああー！」

2体の混沌の戦士は互いに男の左右の手足を切断した！　そして、
残った1体の混沌の戦士が男の胴体を真つ二つに叩き切った！　そ
の際切断した男の返り血が

クルナに飛び散り全身が血で真つ赤になった！

そして、

彼女は不適に笑う！！

「これであと6人。次は誰が死にたいの？！」

「まっ魔女だ！　血の色の魔女だ！！」

次回に続く

第11話 路上の殺戮者（後書き）

次回予告 『傷付き身も心もボロボロのクルナは徐々に冷静差を無くし、怒りに身を任せて残った6人の男達を殺し始める。そして、クルナは次第に闇に心を食われ始める。』

次回遊戯王デュエリストクイズ第12話【狂気】

お楽しみに

第12話 狂気(前書き)

この小説最近どんどん話がホラーに近付いて行ってるような気がします。これからも皆様どうぞよろしくお願い致します。

第12話 狂気

全身に血を浴び、人の死に精神の紅葉を感じたクルナは、その紅葉を隠しきれずに心から溢れる感情のまま不敵に笑う！

「フフフ、……次は誰から殺して貰いたい?!」

その彼女の余りにも禍々しい姿に生き残っている6人のヤクザの男達は。狂気を感じ取り、自身の生命への危機感と恐怖心から彼女を見て、この様なことを叫んだ！

「ま、まっ魔女だ！ 血の色の魔女だ！」

男達の恐怖に満ち足りた表現がクルナの心に更なる紅葉を与えて行く。その心は急速に人間の死に対して快楽を覚え、満ち足りて行く！そして、彼女は新たに覚えた新しい快楽に魅了されて、新たな快楽を得るために動き出す！

「さあー、早く始めましょうよ！ 血の決闘【デュエル】を！
次は誰なの？……」
『は・や・く・は・じ・め・ま・しょ・う・よ・
！』
「ね！……」

クルナは頭から足の指先まで全身血塗れで、その表情は血に覆い隠

されて、いるが。その表情は紅葉と快樂に満ち足りていて、その姿はまさに、魔女その者の姿で合った！

そして、その魔女の顔にいきり立った、男の1人がクルナの前に立ち。デュエルディスクを構えて、戦いを挑む！

「こ、この魔女め！ いいぜ、相手になってやる。ぶち殺して、踏みつけて、最後には豚のエサにしてやるぜ！」

「そう、それは良い考えね。私すごく、うれしいわ！ 貴方は、そこまでして私を殺してくれるの？ そこまでして私を殺したいの？ ……うれしいわ！ すごく、『うれし・い・！』でも駄目、それ以上に私は『コ・ロ・し・た・い・貴方を！』 『ふ・み・つ・け・た・い・』 貴方達を、『に・ん・げ・ん・を！』 …… フフ、あはははは！」

クルナは男の言葉に幼い少女の様に目をキラキラと光らせて微笑みながら、そう答えると突然笑い声を上げて、デュエルディスクを構えた！

だが、彼女のその姿は誰がどう見ても、ただの変態にしか見えない。先程から彼女は時間が立つに釣れて、一歩づつ、あきらかに別人に人格が変わっている様に見える。だが、そんなクルナを男達は容赦無く誹謗する。

「イカれてやがる！ 人間じゃあねー！ 本当に魔女だ！ この女

は魔女だ！ 殺すしかねえー！」

デュエル

互いに5枚をドロイーして、手札にする。先攻は男が取り。更に1枚をデッキからドロイーする。その手は恐怖からか少し震えていた！

「俺のターンドロイー！」

俺は手札から古のルールを発動してサイボーグ・バスを手札から特殊召喚するぜ！」

男の場に全身をサイボーグで機械化された、大きな魚が姿を表しバタバタと空中を飛んでいる。その口はポツカンと丸く開いていて、顔は青いフレームで取り付けられていて。背中には攻撃用の重火器が付いている！

【サイボーグ・バス 水属性 レベル5 機械族 攻撃力1800
守備力1500 ノーマル販売】

【古のルール 通常マジック 販売 効果】

『自分の手札からレベル5以上の通常モンスター1体を特殊召喚する。』

「更に俺は手札からもう1枚の古のルールを発動して、手札からもう1体のサイボーグ・バスを特殊召喚するぜ。そして、手札から装

備マジックスーパー戦闘ウエポンを2枚を2体のサイボーグ・バス各々に1枚を装備するぜ」

【スーパー戦闘ウエポン 装備マジック オリジナル 効果】

『自分の場のサイボーグ・バスにのみ装備できる。装備モンスターの攻撃力は他の効果に関係なく4000になる。装備モンスターが守備表示モンスターを攻撃した時、装備モンスターの攻撃が守備モンスターの攻撃力を超えていれば、その差の分の戦闘ダメージを与える。このカードを発動する場合このターン自分は通常召喚と戦闘フェイズを出来ない。』

2体のサイボーグ・バスの体に巨大なレーザーキャノンと無数の小型ビームガンが装備された、これにより2体の戦闘能力は飛躍的に上昇した！

「フツハハハ、どうだ！ 魔女、これで俺のサイボーグ・バス2体はあの有名な神のカードオベリスクの巨神兵と同等の超強力モンスターになったぜ！ どう足掻いてもお前に勝ち目は無いぜ！ 次のターンにお前をぶち殺して、望み通りに豚のエサにして、その豚を笑いながら食ってやるぜ！ 楽しみに死にな！ ターンエンドだぜ」

男は自身の勝利を確信してケラケラと笑いながらクルナに、殺害予告をした！

クルナはそれを無視して、カードをドロ―した。だが、その時、デッキの一番上が突然黒く光だし、そこに黒く禍々しい光を放つカードが突然現れる。クルナはその怪しいカードを迷う事なく引いた！

そのカードはクルナのデッキのカードでは無く、まるで見た事がないカードがそこに合った！ その瞬間クルナの心にそのカードの禍々しい光が雪崩れ込み、クルナの心を食い荒らす！ そして、クルナは遊奈同様に闇のカードを作り出し。そのカードに取り込まれ、人格が豹変した！

ただ、彼女の場合は遊奈と違いある程度の自我を保っている。だが、この間まではクルナも遊奈と同じく闇に心を食われて、ただ闇のカードを生み出すだけのプラントと化してしまう！

「……………それすごく気持ち良さそう。……………考えるだけで、ヨダレが出ちゃう！ ……フッフッフ、あははははははは！ …… 『い・い・よ！』 でも、どうせなら生きてまま焼き殺して、その肉を直接食べて貰いたい！ 『ム・シャ・ム・シャ・と・た・べ・て・も・ら・い・た・い・わ！』 …… あっふっふっふ、アハハハハハハハハハ！ あっ、でも、どうせならその逆がいいな！

貴方達を切り刻んで、腕と足をサヨナラさせて、それを丁寧に『切っ・て・や・い・て・ム・シャ・ク・シャ・ぼ・り・ぼ・り・た・べ・た・い・か・み・こ・ろ・し・た・い・よ！』 ニツヒヒヒヒ、あははは、フッフツヒヒヒヒヒヒ！ 『が・ま・ん・で・き・な・い・わ！』 ………………………………」

クルナは血塗れの唇から白い液体を垂らして、幼い少女の様に右人

差し指を口に入れて音を立てて嘗めながら。物欲しそうな顔で男を見詰める。

そして、男は凍り付く。

「ま、まっ魔女、魔女めっ！　（おっ俺、俺を食ったとっ！）ふっ、ふざけるなっ！」

男の表情は恐怖で凍て付く。そして、その表情は魔女と化したクルナを更に喜ばせる！

「フッフッフ、いいわね〜その表情『ぞくぞくしちゃう〜！』だから……タツプリ『こ・ろ・し・て・あ・げ・る・わ！』……………」
だから、わたしは高等儀式術を使うわ！」

【高等儀式術　儀式マジック　販売　効果】

『手札の儀式モンスター1体を選択して、そのカードとレベルの合計が同じになるように自分のデッキから通常モンスターを選択して墓地に送る。選択した儀式モンスター1体を特殊召喚する。』

クルナはこの効果でカオス・ソルジャーを選択して、デッキからデユナミス・ヴァルキリアとカオスの剣士をコストにした。

【デュナミス・ヴァルキリア 光属性 レベル4 天使族 攻撃力1800 守備力1050
ノーマル 販売】

【カオスの剣士 闇属性 レベル4 戦士族 攻撃力1900 守備力1000 ノーマル オリジナル】

【カオス・ソルジャー 地属性 レベル8 戦士族 攻撃力3000 守備力2500 儀式 販売】

クルナの場に再び混沌の戦士が姿を表した。

そして、対戦相手の男は先程の仲間がカオス・ソルジャーによって無惨に殺された事を、思い出し。その姿を見て恐怖した！

その姿が又もクルナを精神的に喜ばせる！

「エツフフフ、うれしい〜わたしを見てそこまで喜んで暮れるなんて。……」
「わ・た・し・ス・ゴ・ク・う・れ・し・く・て」
「せ・つ・な・く・て」
「た・の・し・く・て」
「ぞ・く・ぞ・く・し・て」
「こ・わ・し・た・く・て・つ・ぶ・し・た・く・て」
「こ・ろ・し・た・く・て」
「……………」
「ヨダレが出ちゃう」

この時、クルナの姿は誰が同見てもイカれた変態以外の何者でもな

かった！

男達はそんな、クルナに言葉を失い。ただ、呆然と恐怖に震えながら、魔女と化した彼女を見ているだけ、だった！

「ウフフ、ねえくえ、貴方。そんなに、わたしの事が好きなら、もっと愛して・『あ・げ・る！』もっと『わ・た・し・の・ア・イ・を・あ・な・た・に・そ・そ・い・で・あ・げ・る・わ！』……受け取って！」

そう言うとクルナは墓地のデュナミス・ヴァルキリアとカオスの剣士を除外してカオス・ソーサラーを特殊召喚した。

【カオス・ソーサラー 闇属性 レベル6 魔法使い族攻撃力2300 守備力2000

効果 販売】

『このカードは通常召喚できない。自分の墓地の光属性と闇属性モンスターを1体ずつゲームから除外して特殊召喚する。場に表側表示で存在するモンスター1体をゲームから除外する事ができる。この効果を発動する場合、このターンこのカードは攻撃する事ができない。この効果は1ターンに1度しか使用できない。』

クルナの場に黒いコートに身を包んだ混沌の魔法使いが現れる！

「……ヒフヒツヒヒヒ。ねえく貴方あ。わたしの『死』愛を受け

取って『し・ん・で・く・だ・さ・い!』……」

この問いに男は無言のまま何も答えない。

そして、クルナはカオス・ソーサラーの効果を発動させた!

男のサイボーグ・バスの1体はカオス・ソーサラーの魔術によって空間の狭間に追いやられた!

「ばっ馬鹿な! 俺の無敵のサイボーグ・バスが……」

啞然とした男の顔を見て満足したクルナは手札から、1枚のマジックカードを発動させる。

「うっふふふ、まだよ。これがわたしの貴方に対する『さ・い・こ・う・』の死愛『か・た・ち・よ!』」
マジックカードエンペラーオブカオスをカオス・ソルジャーに装備
「!」

【エンペラーオブカオス
装備マジック オリジナル効果】

『このカードはカオスと名のつくモンスターにのみ装備できる。装備モンスターは場と墓地に存在する、カオスと名のつくモンスター

カード1枚につき攻撃力を1000上げる。装備モンスターがモンスターと戦闘をする時、ダメージ計算は発生しない。装備モンスターが戦闘でモンスターを破壊した時、相手に装備モンスターの攻撃力分のダメージを与える。』

「そして、もう1枚マジックカード受け継がれる力を発動」

【受け継がれる力 通常マジック 販売 効果】

『自分の場のモンスター1体を墓地に送る。自分の場のモンスター1体を選択する。選択したモンスター1体の攻撃力は、発動ターンのエンドフェイズまで墓地に送ったモンスターカードの攻撃力分上がる。』

「うふふ、このカードでカオス・ソーサラー生け贄にして、カオス・ソルジャーの攻撃力を上げちゃうは！…そして、…その合計攻撃力は7300よ！ ねえーえ『ぞくぞく・し・て・コ・ナ・イ？』 『は・や・く・し・に・た・い・よ・ね！』 『だ・か・ら・い・ま・こ・ろ・す・よ！』

マジックカード異次元からの埋葬『は・つ・ど・う』」

【異次元からの埋葬 速攻マジック 販売 効果】

『ゲームから除外されているモンスターカードを3枚まで選択し、そのカードを墓地に戻す。』

クルナはこの効果で除外されているカオスの剣士を墓地に戻した。これにより、カオス・ソルジャーの合計攻撃力は8300に上がる。

「うっふふふ、ヒフヒツヒヒヒアハハハは！ これで終わりよ。わたしからの愛を受け取ってっね！」

「イイヒヒフヒツヒヒヒあっはははは………カオス・ソルジャーでサイボーグ・バスを『こ・う・げ・き！』『こ・れ・で・し・ん・じゃ・え！』……うはうはははヒヒヒアヒヒフヒツヒははははははフッフッフッフアハハハハハ！」

サイボーグ・バスはカオス・ソルジャーによって一瞬内に真つ二つされた！」

「うっふふふ。この瞬間エンペラーオブカオスの効果モンスターを破壊した時、戦闘ダメージのかわりに装備の攻撃力分のダメージを与えるわ」

カオス・ソルジャーの現在の攻撃力は8300それに対し男のライフは8000。これにより男のライフは0になりクルナが勝利した！

「うわああー。ば、馬鹿なー」

「ウフフフ、これであと5人！ アツハハはヒフヒツヒワツハハは
アツハハは！ い・ま・か・ら・こ・ろ・し・て・あ・げ・る・ね
！」

次回に続く

第12話 狂気（後書き）

次回予告 『闇に心を食われたクルナは徐々に殺人の快楽に溺れ本能のまま人を殺す魔女になりつつ合った。そんな中クルナに仲間を殺された男達は4人係の変則マッチで、デュエルを挑む。そして、それを受けた、クルナに更なる異変が起こる。』 次回遊戯王デュエリストクイーンズ第13話【バイオハザード】 お楽しみに

第13話 バイオハザード（前書き）

今回はライフ4000でデュエルします。それと、今回は前回以上にクルナが暴走してますが、皆様どうか引かずに、お読みください。お願い致します。

第13話 バイオハザード

魔女は不敵に笑う

「フフフフ。……捕まえた。ウフフフ、さあ〜ってっとうやって
こ・ろ・し・て・ほ・し・い・い!」……フッフフアハハハはあ
「!」

「い、痛いっ……痛いっ……。」

彼女は先程のデュエルで対戦相手の男を殺して居なかった。

彼女は闇の力で自体かさせたカオス・ソルジャーを使って、男を捕え、生け捕りにしていた。

そして、男の仲間達は、ざわめく。

「や、やめろー!。やめてくれー!」

「頼む、頼むからやめてくれ。いや、やめてください! お願いますからやめてくれ! 金なら出すから。やめてください。頼む!」

男達のその必死な姿が血の色の魔女に快樂と喜びを与える。

「ウッフフフ、いいわよ。でも、それにはこの子の代わりにわたしを喜ばせて暮れる血と悲鳴を上げるオモチャを暮れないと……」だ・

め・よ!」 フッフッフハハハ! ……」

魔女は口元をユルませながら目を少女の様にキラキラとさせて全身血塗れの体で笑う。そして、男達はその言葉に恐怖を感じ固まる。

「さあ、誰が次のオモチャになって暮れるの?」か・し・ら!」
早くしないとこの人の上半身と下半身がさよならしちゃうわよ!
あはは」

「くう、し、仕方ねえー俺がいくぜ。」

「そう、ならご褒美に『あ・な・た・に・い・い・も・の・を』」
み・せ・て・あ・げ・る!」

その瞬間。捕えていた男をカオス・ソルジャーが腰を横から真つ二つにして。男の上半身と下半身を切り離れた! そして、その男の返り血がクルナに係それを彼女はうれしそうに笑いながら体に着いた血を右人差し指で救い。口元に運び入れてチュパチュパと音を立てて指に着いた血をなめる!

「うぎぢやあぁー!」

「美味しい。……」ス・ゴ・ク・お・い・し・く・て……」ぞ・く・ぞ・く・し・ちや・う」

「ひっ、ひでえー！ ……
ゆ、許さねー。アイツ等の仇を、お前を必ずぶっ殺してっ取ってやるぜー！」

男のその姿が魔女と化したクルナに更なる快楽と紅葉を与える。

「うふっふっふっふ。 ……だ、駄目、もう駄目。体が熱くて、熱くて。もう『が・ま・ん・』できない。 ……」

快楽による紅葉で彼女の体温は上がり。

彼女は頬を赤らめ口元をユルませると目はとろみ係。次の瞬間彼女の股関節から透明の生温かい液体がこぼれ落ちる。

「はあくあああ。 ……だ、駄目。き、気持ち良すぎて」と・ま・ら・な・い・わ『』」

彼女はそう言うと更に又先から液体を流し続ける。その姿を見て男達は彼女に対し更に憎悪と怒りを増幅させる。そして、彼等は改めて彼女をこう呼ぶ。

「この変態魔女めっ！ 必ずぶっ殺して殺る！」

「うふっふっふっふニヒヒヒいいヒフヒッヒ。……
もう、オシッコ止まっちゃった。……もつと気持ち良くなりた
い。だから、この壊れたオモチャを貴方達の目の前で完全に『こ・わ
し・て・あ・げ・る』ウフフフ、あははハ。またわたしを喜ばせて、
ね！」

そう言うと彼女は上半身だけで地面に這いつくばっている。男の頭
を右足で上から踏みつける！ 男はまだ息が残っている。当然男は
悲鳴を上げて痛みを訴える。だが、クルナはそんな事を無視して何
度何度マンベンの笑みで踏みつけて。男の頭を踏み砕く！

「うっぐういぎああー」

「うっふふふアツハハはヒッヒヒフヒッヒあはは！ そうよ、そ
うやって悲鳴を上げてわたしを喜ばせて『ちょ・う・だ・い』
ヒイー、ヒイー、ヒイー、ウギイー！」

魔女はヒステリックに悲鳴を上げて男の砕けた頭を更に踏みつけて、
踏み砕く！そして、それを見ていた男達は。

「もう、許さねー！ 殺して殺る、俺がぶつ殺して殺るぜ！ 覚
悟しろよー、この変態腐れ魔女オオー！」

「ウツフツフ、イギヒイイイいうふヒギイイヒフヒツヒヒぎぎぎアツハハは……そ、そ、そうよ。その姿をその殺意をわたしは待っていったの。……その殺意がわたしを、たまらなく」か・ん・じ・さ・せ・る・の『……あつ、ハアア……。……またオシッコ出ちゃった！……………」

クルナは再び又下から透明の液体を垂れ流した。

「この変態魔女めっ！ おい俺もコイツをぶっ殺すの手エー貸すぜ！」

「俺も、貸すぜ！」

「俺も、だ。」

こうして血の色の魔女の非道な祖業に対し。殺された男の仲間達は団結して4人で、魔女にデュエルを挑む！

「ええへへへ。う、嬉しい〜。わたしの為に貴方達はそんなにして、わたしを愛して暮れるのね。4人でわたしを愛して暮れるのね。……うれしい〜」ス・ゴ・ク『う・れ・し・く・て』『あ・な・た・ち・を・み・な・ご・ろ・し・に・し・て・あ・げ・る・わ！』だから、このデュエル受けてあげる。でも、条件があるわ！」

「なんだ！ その条件は？」

その問いに対し魔女は微笑みを持って答えた。

「まず、最初に全員ライフは4000でスタート。そして、わたしのターンは貴方達4人の後の最後のターンからスタート。そして、わたしのターンから攻撃可能である事が条件よ！」

「いいぜ！（フン、自分からライフを4000にして暮れるとは本当にイカれてるっぜ。この変態魔女は、っよ！）」

「うふっふっふっふ。『あ・り・が・と・う』それじゃー。始めましょ。『た・の・し・い・た・の・し・い』『こ・ろ・し・あ・い・を！』……ヒハハハ」

「よっしゃー、いくぜー。お前ら！」

「オオー！」

「ウフフ、それじゃ。行くわよ。」

デュエル。

男達は4人全員デッキから5枚ドロした。だが、魔女はドロしない。

魔女と化したクルナのデッキに先程と同じく黒く光だした。そして、その光はクルナ自身も取り込み始める！

「うつつははあああー！ ……ぎゃあヒヒヒッイギャー！」

魔女は黒い光に取り込まれ、次第にその体を黒く覆って行く。そして。

「うつつフフ、フッフッフ、はあはははっ！ ……フフフ、す、スゴく。『ス・ゴ・ク・い・い！』」
「フッククク、アッハハハは！」

新たな快樂によがる、クルナを無視して男達はターンを進める！

「いくぜ、俺のターン、ドロー！ 俺はマジック二重召喚デュアルサモンを発動してこのターン二度の通常召喚をするぜ。俺はサクリファイス・レックスを召喚。」

【二重召喚デュアルサモン 通常マジック 販売】

『このターン中もう一度だけ通常召喚を行う事ができる。』

【サクリファイス・レックス 地属性 レベル4 恐竜族攻撃力1500 守備力1000
オリジナル 効果】

『このモンスターが恐竜族モンスターの生け贄になる時。2体分の生け贄になる。』

「このサクリファイス・レックスを生け贄に俺は究極恐獣アルティメットティランを召喚。更にマジック強者の苦痛を3枚発動してターンエンド！」

アルティメットティラン
【究極恐獣 地レベル8 恐竜族 攻撃力3000 守備力220

0 販売 効果】

『このカードが自分のバトルフェイズ開始時に攻撃表示だった場合、一番最初にこのカードで相手の場に存在する全てのモンスターに一回ずつ攻撃しなければならない。』

【強者の苦痛 永続マジック 販売】

『相手の場に表側表示で存在する全てのモンスターの攻撃力は、レベル×100ポイント下がる。』

男の場に巨大な究極恐竜が姿を表す。そして、ターンが次の男に移る。

「俺のターン。俺は古のルールを3枚発動してトライホーン・ドラゴン、スパイラルドラゴン、エメラルド・ドラゴンをそれぞれ1枚ずつ特殊召喚してターンエンド！」

【トライホーン・ドラゴン閻属性 レベル8 ドラゴン族 攻撃力
2850 守備力2350 ノーマル 販売】

【スパイラルドラゴン 水属性 レベル8 海竜族 攻撃力2900
0 守備力2900 ノーマル 販売】

【エメラルド・ドラゴン
風属性 レベル6 ドラゴン族 攻撃力2400 守備力1400
ノーマル 販売】

男の場に頭に三つの角がある青いドラゴンと巨大な海竜と全身がエメラルドできている。美しいドラゴンが現れた！
そして、次の男にターンが移る。

「フン、ようやく俺のターンだぜ！俺はマジックカード陽気な葬儀屋を発動して、手札の暗黒界の軍神シルバを3体墓地に送り。その効果で復活させる。」

【陽気な葬儀屋 通常マジック 販売】

『自分の手札から3枚までのモンスターカードを墓地へ捨てる。』

【暗黒界の軍神シルバ 閻属性 レベル5 悪魔族 攻撃力2300
0 守備力1400 販売】

効果】

『このカードが他のカードの効果によって手札から墓地に捨てられた場合、このカードを自分の場に特殊召喚する。相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらに相手は手札2枚を選択し、好きな順番でデッキの一番下に戻す。』

男の場に暗黒の軍神が3体姿を表した。その軍神は全身シルバーで統一されている。

「更にマジックカード無駄札処理を発動して暗黒界の武神ゴールドを墓地に送り。その効果で復活させて特殊召喚する。そして、ターンエンドだぜー!」

【無駄札処理 通常マジック オリジナル】

『自分の手札1枚を選択してそのカードを墓地または除外する。』

【暗黒界の武神ゴールド 闇属性 レベル5 悪魔族 攻撃力230
0 守備力1400 販売

効果】

『このカードが他のカードの効果によって手札から墓地に捨てられた場合、このカードを自分の場に特殊召喚する。相手のカードの効

果によって捨てられた場合、さらに相手の場に存在するカードを2枚まで選択して破壊する事ができる。』

男の場に更に暗黒の武神が現れる。その武神は全身ゴールドで統一されている。

そして、ターン次の男に移る。

「俺のターンだぜ！ ドローするぜ。俺はマジックカード強者の苦痛を3枚発動するぜ。ククク、これで魔女、貴様がどんなモンスター出してても場に出ている6枚の強者の苦痛によって、お前の出す、モンスターの攻撃力は0だぜー！ ふっははは。どうだ参ったか？！」

この問いに対し魔女は

「えへへへ、全然。それどころかスゴく『ぞくぞく』、『し・て・き・ちゃ・た！』『は・や・く・わ・た・し・を・い・た・み・で・お・か・し・て』『死・で・み・た・し・て』『わ・た・し・を・死・で・た・く・さ・ん・お・か・し・て』……
わたしを『お・か・し・て・く・だ・さ・い！』……
ふうふうふう
ふうふうふうははははヒヒヒヒヒぎぎアツハハは！」

魔女のその返事に対し男は怒りを剥き出しにいて反論した。

「グズ、ゴミ、変態、クソ女なあー！」

だが、そのリアクションが更に魔女を喜ばせる！

「そつ、そつよ。わたしはえへへへ、変態よ。だから、そうやってわたしをもつと見下してえ〜。わたしをもつともつと馬鹿にしてわたしをもつと見下して〜そして、わたしを『お・か・し・て・く・だ・さ・い!』えへへへ……………」

男はもう何も魔女に言わず。自分のターンを進める。

「俺は更に暗黒^{ブラック}ステゴを攻撃表示で召喚。更に装備マジック明鏡止水の心をと磁力の指輪をブラックステゴに装備してターンエンド！」

【暗黒^{ブラック}ステゴ

地属性 レベル4 恐竜族 攻撃力1200 守備力2000 販売効果】

『このカードが相手モンスターの攻撃対象に選択された時、このカードは守備表示になる。』

【明鏡止水の心 装備マジック 販売】

『装備モンスターが攻撃力1300以上の場合このカードを破壊する。このカードを装備したモンスターは、戦闘や対象モンスターを破壊するカードの効果では破壊されない。(ダメージ計算は適用する)』

【磁力の指輪 装備マジック 販売】

『自分のモンスターにのみ装備可能。装備モンスターの攻撃力と守備力は500下がる。相手はこのカードを装備したモンスターしか攻撃する事ができない。』

「はっはははは。これで俺達の勝ちだ。はははは。もうお前に勝つ手段は無いぜー！」

「それはまだわからないわ。わたしのターン、ドローよ！」

クルナは未だ手札をドローしてなかったので、今のドローで6枚をドローした。

「うふっフッフ、残念だけど貴方達はこのターンで全員死ぬわ！わたしの心の闇が生み出したこのカードバイオハザードによってっね！ ヒフヒッヒアッハハは」

次回に続く

第13話 バイオハザード（後書き）

次回予告『血の色の魔女と化したクルナは自分自身の心の闇で作
出した。闇のカードバイオハザードを使い。相手のモンスターと自
分自身のカオス・ソルジャーを全滅させてしまう。 そんな中カ
オス・ソルジャーだけが化物になり、復活してしまう。』次回遊戯
王デュエリストクイーンズ第14話 【感染拡大】お楽しみに。

第14話 感染拡大(前書き)

皆様いつもお読み頂き誠にありがとうございます。この度ブログを始めました。良ければ見に来てください。http://hp42.ozero.jp/744/40004000/

第14話 感染拡大

圧倒的劣勢の中、魔女はほくそ笑みを見せる。そして、彼女は動く！

「うふっふっふっふ。いくわよ。永続魔法サクリファイス・サモン・リターンを発動！ 更に儀式魔法カオスの儀式を発動して、手札のサクリファイス・サモン・リターナをコストにカオス・ソルジャーを儀式召喚するわ。」

【サクリファイス・サモン・リターン 永続マジック オリジナル】

『エンドフェイズ時にこのカードを破壊する。』

自分が効果のない儀式モンスターを召喚した時、デッキから2枚ドローできる。』

【カオス・ソルジャー 地属性 レベル8 戦士族 儀式 攻撃力3000 守備力2500 販売】

【サクリファイス・サモン・リターナ 地属性 レベル8 獣族 攻撃力2000 守備力1600 オリジナル 効果】

『このカードは生け贄召喚または効果のない儀式モンスターの生け贄になった時、持ち主の手札に戻る。』

【カオスの儀式 儀式魔法販売】

『カオス・ソルジャーの降臨に必要。場か手札から、レベルの数が合計以上になるようにカードを生け贄に捧げなければならない。』

魔女の場に又しても混沌の戦士が姿を表す。

そして、その生け贄になった、白い野獣は墓地に行かずに魔女の手札に舞い戻る。

「ふっフッフ、そして、この瞬間サクリファイス・サモン・リターンの効果により、デッキから2枚ドロースるわ。……ウッフッフッフ、更に手札から2枚のカオスの儀式を発動して先程手札に戻ったサクリファイス・サモン・リターナを再び生け贄にするにして。2体目のカオス・ソルジャーを特殊召喚するわ。そして、再び、リターナはわたしの手札に戻り、リターンの効果でデッキから2枚ドロースるわ。……ウッフッフッフ。」

「まだまだいくわよ！ わたしは3体目のカオスの儀式を発動して再びリターナを生け贄に、3体目のカオス・ソルジャーを儀式召喚するわよ！ 当然リターナはわたしの手札に戻り、リターンの効果で2枚ドロースるわ。イイイイイイヒヒヒヒヒ！」

魔女の場に更に2体の混沌の戦士が降臨してその姿を見せる。そして、

この瞬間魔女は狂気に支配され、自身の心の闇が生み出した闇のカードを血塗れの顔で笑みを浮かべながら発動させる。

ちなみに今現在のクルナの手札の枚数は5枚でこの発動で4枚になる。

「『い・く・わ・よ。』
永続マジック感染拡大を『は・つ・ど・う』」

【感染拡大 永続マジックオリジナル】

『バイオハザードと名つくカードが発動墓地に送られた時。このカード以外の場のマジック、トラップカードを全て破壊する。効果発動後にこのカードの上にバイオカウンターを1つ置く。』

「な、なんだ、あんなカード見たこと無いぜ！」

「ウフフフ。そして、お楽しみのお・あ・な・た・た・ち・の・『死・の・シヨ一の・は・じ・ま・り・よ』！ ……うふつふつふつふつハハハハ。 ……
いくわよ。マジックカードバイオハザード『は・つ・ど・う』これがわたしの心の、闇！ わたしの ……狂気よ！ たぷっりと味わってね。本当の恐怖 …… 本当の闇を …… 本当のわたしをオ！」

クルナがカードをディスクにセットして発動した瞬間。ディスクが

ら黒い霧が溢れでて、フィールドのモンスター達を包み込む。そして、その霧を吸い込んだモンスター達は皆、突然苦しみ、暴れだして、最後には力尽き倒れる。対戦相手の男達も皆驚き言葉を上げる！

「ばっ、ばっ、馬鹿な。俺たちのモンスターがたった1枚のカードで一瞬の内にぜ、全滅するっなんて！」

男がそう言葉を上げたあとすぐに別の男が叫ぶ。

「おっ、おっ、オイイ！」

それだけじゃないぞ。デュエルディスクを見る。」

「ん、ディスクがどうした？ あっあ、な、なんで、マジック・トランプまでええ！」

男の焦りに満ちた表情と言葉が魔女に罵声の為の快楽と感動を与えらる。そして、満たせれた魔女は男達に言葉を返す。

「ウウふっふっふっふ。それはね、この感染拡大の効果よ。そして、モンスターが皆死んだのはこのカードバイオハザードの『こ・う・か・よ！』でも、別にこのカードの効果はモンスターを皆殺しにする、効果じゃないのよ。その証拠に、ほら。」

魔女がそう言った瞬間、先程死に絶えたカオス・ソルジャー3体が

呻き声を上げながら。再び立ち上がる。その姿は先程間での強く美しい姿ではなく、まるで腐った化け物の様な姿で、3体のカオス・ソルジャーは甦り再び地面を踏み締める。例えるならばその姿は、そう、ゾンビその物で合った！
そして、その恐ろしいまでに姿を変えた、混沌の戦士を見て男達は恐怖のあまり言葉を無くす。

「うふっふっふっふ。どくオオ、わたしのかわいいカオスちゃんの本当の『す・が・た・わ？』」

「か、かつ可愛分けないだあー！ それに何が本当の姿だ。そんなもん、偽物だろうが！」

この言葉に魔女と化したクルナは微笑みを浮かべて返事を返す。

「ウフフフ、違うのよ、これが正真正銘わたしとカオスちゃんの本当の姿！……わたし達は心の闇に触れる事で、闇を受け入れ、闇になる事で本当の自分と本当の力を手に入れたのよ。」

【バイオハザード 通常マジック オリジナル】

『自分の墓地に同名カードがある場合、このカードは発動できない。発動時、場の全てのモンスターを墓地に送る。（破壊ではない）互いのプレイヤーは墓地に送った、モンスターと同名のバイオハザードを持つ、モンスターを手札/デッキ/墓地から。特殊召喚する。』

【カオス・ソルジャー/バイオハザード 地属性 レベル8 アン
デット 攻撃力3000 守備力2500 オリジナル 効果】

『このカードはバイオハザードの効果でのみ特殊召喚できる。また墓地にバイオハザードのカードが存在しない時破壊する。』

このカードはバイオハザードと名つくカード以外で破壊される場合、攻撃力を1000下げる事で破壊を無効にする。(攻撃力が0を下回った場合このカードを破壊する)

このカードは攻撃する時攻撃力を1000ポイント上げる。また相手に攻撃された時攻撃力を1000ポイント下げる。

相手モンスターに攻撃される時、手札1枚を墓地に送る事でそのモンスターの攻撃を無効にする。』

ゾンビと化したカオス・ソルジャーを見て魔女は満足した顔で微笑む、が！

男達はそんなクルナに対して口を揃えて、叫んだ！

「不公平だ！ なんだああ、そのカードは？ バイオハザード？ インチキにも程があるだろ。いい加減にしる。俺たちのデッキにそんなカードが入ってる分けないだろうがぁ！ 世界中何処を探してもお前しか、そんなインチキカード持ってないぜ！ だから、こんなインチキデュエルは無効だ！」

その言葉に他の男達も同調する。

「そうだ、そうだ、こんなインチキで不公平なデュエルは無効だ！
こんなことデュエリストのやる事じゃねえーだろ！ デュエリス
トは例えどんな奴が相手でも正々堂々戦うのが当たり前だろうが！
そんなデュエリストしての常識も守れない様な奴はデュエリスト
なんかじゃねえー、そんな奴はただのクズだ！ はじをしりやがれ
えー！」

「そうだ、そうだ、このクズがてめえ、なんかデュエリストじゃね
え。死ねクズが」

男達は激しくクルナを避難したが。そもそも、たった一人を四人で
取り囲んで、1対4のデュエルを挑む事その物がデュエリストして
最低のクズの行いなのに、それには目もくれず、一方的にクルナを
避難するのは最早男として、いや人間として、クズの行いと言える
だろう。

そもそもクルナのカードは彼女の強烈な心の闇が力を帯びて形にな
った物だ。

デュエルモンスターの歴史に老いては強力なデュエリストは常に
自身の心の闇で作り出した。それこそインチキや反則的なカードば
かりを使っていた。

詰まりこの世界のカードの強さは使うデュエリストの心の闇の強さ
に比例する訳だ。特にダーク・ネスの力が解き放たれた事により闇
の力で被われた、この世界に老いては常に闇の強い者が勝者になっ

ているのが、今のこの世界の現実である。

そして、今この場で持つても闇が強く勝者に近い存在であるクルナはまるで、青い目のブルーアイズ社長の様に相手を完全に見下すかの様に大きく高笑いをして自分の勝利を宣言する。！

「ふふふふつアツハツハツハツハ！ それがどうした！ 強者の前では敗北する弱者は常に強者の事をその様に言うのよ。でも、それが！ それこそが弱者が弱者である事の何よりの『あ・か・し・なのよ！』それとね、言い忘れていたけどバイオハザードはモンスターだけじゃなくて、わたしやアンタ達も感染しているのよ。」

クルナのその一言でさっきまでいきり立っていた、男達の表情が固まる。

「最も今から死んで行くアンタ達には『か・ん・け・い・な・い・わ・ね』

ふふふウッフッフッフッフアツハツハツハツハツハツハ！
行くわよ『か・く・ご・し・な・さ・い！』ウッフフヒヒヒイヒ
アハハは」

魔女はこの殺戮に紅葉してマンベンの笑みで笑う。

このあと自分がどうなるかも知らずに。……………

次回に続く

第14話 感染拡大（後書き）

次回予告『バイオハザードによりゾンビとして蘇らせたカオス・ソルジャーで4人の男達を血祭りに上げたクルナは。残る最後の男を殺そうと動き出す。だが、その時、彼女に異変が起きる、倒れたクルナに最後の男が襲いかかる。』次回遊戯王デュエリストクイーンズ第15話 【傲慢】 お楽しみに

第15話 傲慢（前書き）

皆様いつもお読み頂き誠に有り難うございます。タイトルの所にも書きましたが小説家になろう秘密基地の新イラストコーナーにこの小説のキャラのイラストを載せています。（妹が書いた物ですが）良ければ見てください。今の所は遊奈さん、夢弓、クルナさんの三人を載せています。ちなみに私自身が書いたクルナも載せていますので、合計四枚載せていますので。見てください。良ければイラストの感想もくらさい。『それと今回から新キャラが1人出ます。』

第15話 傲慢

クルナは圧倒的劣勢状態から一瞬にして圧倒的優勢に立った。そして、再び魔女と仕手の紅葉感に満たされて血肉を求めて再び路上を血に染めようとしていた！

そんなクルナと男達のデュエルを少し離れた場所から1人の女性が見ていた！

その女性の外見は少し色白で背丈が長くスレンダーで白いシャツに青いベスト、下に青いジーパンを着ていて。顔立ちもからだ同様細く美しく、セミロングで髪の毛の色は黒く艶が保たれていて、甘い香水の臭いがしている。

外見的に美しい大人の女性だが、胸元は小学生以下の頻度で合った！

「うーん、かなり闇の進行が速いわね。それに見たところ彼女、強烈な傷みと人を殺した事による強烈な紅葉で心の奥に潜む強力な心の闇が表面化して。そこにダーク・ネスの闇が入り込んだっんだわ！」

「どうやら、この女性はクルナがなぜ闇に取り込まれ魔女と化したのか。その理由を洞察したようだ。」

「あの症状からして、恐らく彼女は今まで一度も人を殺した事が無いんだ！ その上温室育ちで今まで一度も掠り傷以外の怪我をした事が無いんだわ。」

それに付け加え、彼女の中のコンプレックスや欲望が具現化して、今のあんな変態の人格が出来上がって、表面化しているんだ！」

彼女は更に話を続ける。

「だからこそ、危険なのよ！ 普通ダーク・ネスの闇の力はその個体によつてその上限と力の特性数値が決められているわ。

なのに、それにも関わらずあそこまでの能力の強化とコントロールができてるのは。まず間違いなく彼女は『ネスト』だわ！」

そう言うと彼女は一旦口を閉じて、ため息をつく。

「ハアア、物凄い大物に出会っちゃったな。……」

もともとは『ベルヴユサーゴ』と繋がりがあある工藤組の連中がいきなり動き出したから、何かあると思つて来てみれば『ネスト』に、それも今覚醒したばかりの極上の能力の個体に出会うなんて。ついでるわ。……でも、今覚醒したと言う事は彼等の元々の目標は彼女とは違うみたいね。それに彼等は彼女が『ネスト』である、事も『ネスト』の価値も知らないみたいね！」

彼女は左手を自分の胸の前に寄せて、その手の平に右膝を乗せて、その右手の手の平に自分の顎を乗せて鋭い眼で考え込む。

「と、言う事は彼等には他のそれも緊急に動く事からしてかなり重要な目標が合つたみたいね。

でも、彼女以外に他にそんな価値のある物は今此処には無い。ならすでに彼等は本命をてにいれたのか。

恐らく今残っている彼等は本命のついでに、彼女を襲っているだけか！」

彼女は更に考えを巡らせる。

「それなら、彼等が彼女に始末された後に私が彼女を回収すれば良

い。それに上手くすれば本命の情報とその所在地をてにいれた後に本命その物も手に入れることが出来るかもしれない。」

だが、それには問題が合った。

「けど、問題はどうかやって彼女を止めて、彼女を正気に戻すかね。何か彼女にとって、強い精神的な衝撃を与えれば。一時的に通常状態に戻せるかも知れないわね！ さあーてっどう仕様かな。取り合えず今はまだ様子を見るしか無いわね」
そう言つと彼女は再びクルナの観察に集中した。

「フフフフ、それじゃー、い・く・わ・よ！ 楽しく死んでね〜！」

そう言つと同時に彼女は右手を振り下ろす。

それに反応してゾンビと化した3体のカオス・ソルジャーが4人の中から3人を選び、うめき声を上げながら近づき噛み殺して行った。

「う、うっ、うわあ、や、うっぎやああー！！！」

「や、やめっ、やめぎいぎやっああー！！！」

「か、母ちゃん、助けてえ！ ……ぐやっわああああー！！！」

3人の男達は皆喉元を噛まれて傷口から血と肉を垂れ落としながら、地面に倒れ落ちる。

それと同時に彼等のライフも0になり、彼等はデュエルから除外された。

そして、倒れた彼等の肌からは完全に血の気が失われており、膠着もしていた。
つまり死体と化したのである。

そして、その死体はみるみる内に変色して腐食する。その後、その死体は突如うめき声を上げて立ちやがろうとして腕を地面につく！
だが、その腕は地面に触れたとたんにぼろぼろと音を出して崩れ落ちる！

そして、そのまま全体が崩壊して後には死体の欠片だけが残っただけだ！
それを見た、残る男は直ぐ様圧倒的な恐怖感に襲われる！

「うつつぐうううー！。い、嫌だ！ 嫌だ、嫌だ！ 俺はあんな風に死にたくない！」

「なら、他の死に形なら良いのね！ うつつつつつつ。どんな
『こ・ろ・し・か・た・を・し・よ・う・か・し・ら・楽しくて・
ヨ・ダ・レ・が・で・る・わ』！』」

その言葉に男は恐怖のあまり口を閉じる。
そして、歯をガタガタと震わせて怯えていた！

「フッフッフッフ、良いわね」その表情。その恐怖に怯える顔を見ていると心がスゴく安らぐわ！

でも、殺した方角それ以上に気持ちが良いんでしょうね〜！ 違う〜？」

だが、男は答えない。

ただ恐怖に震えているだけだった！

「あら、そう。それなら構わない。今すぐに食いながら引き込み殺して殺るわよ！」

その言葉と同時にクルナは手札から1枚のカードを発動させる。

「速攻魔法再びの激痛を発動！」

【再びの激痛 速攻マジック オリジナル】

『自分の場のバイオカウンターが乗った、感染拡大を墓地に送り発動する。』

自分の場のモンスターを全て破壊して相手プレイヤーにこのターン与えた戦闘ダメージの中で一番低いダメージと同じ数値の効果ダメージを与える。』

「これにより貴方のライフは先程の最低数値の戦闘ダメージ4000を受けて0になるわ！ 良かったわね。」

その言葉に直ぐ様男は反応して言葉を発した。

「な、なんだと！ お、俺が死ぬのか？」

その言葉にクルナは笑みを浮かべてこう言った。

「そうよ死ぬのよ、貴方。それじゃあね〜。あ、そうそう生まれ変わったら、またわたしに殺されてよね！じゃあバイバイ、いっぱい悲鳴と血を『だ・し・て・し・ん・で・よ・ね！』えっえええヒヒイヒ」

クルナが笑い始めると同時に男は地面から手を出してきた、三体のゾンビ化したカオス・ソルジャーによつて食い殺されながら、地中に引き込まれていく！

「う、うぎゃあああー！　だあ、だれがあつ。たつ助けてええー！　ぎゃあああー！」

男の体は半分以上が食い潰され、残り半分は引きずり込まれながら削れていった！　それに伴い血と肉が大量に吹き飛び中を舞う。それが苦しむ男の頭や目と口に入り、男は更にもがき苦しむ！　その光景を見たクルナは？

「うつつつつつつふエツへへヒイヒヒイヒイヒイヒイヒイフツエえへへアツフハツハツハツハツハツハツハツヒヒヒアハハハツワハツハツハアツヒハツハツハツハツハツハツハアははは」

クルナが笑い終わると男は完全に引きずり込まれていた。辺りに残るのは、散乱した血と肉だけだった。

それを見て残る最後の男が声を上げる。

「ひい、酷すぎる、酷すぎるぜ！ 本当に魔女だ！ あの女は本物の魔女だっ！」

ど、どうすれば良いんだ！ 俺も此所で死ぬのか？」

「そうよ、貴方も此所で死なないといけないのよ。このわたしの『た・め・に・ね！』さ、さ、さ、あ、あつ、い、くわ……………」

その瞬間クルナは突然倒れた！ 意識はあるものの彼女はそれ以来一向に起き上がって来ない。

そして、男は確信する。

クルナは傷の痛みと大量の出血が限界に達したのだと！ 乞うなつて閉まっては如何に魔女と言えど手も足も出ない。そして、今男の頭には男性として生態的に正しい欲望が沸き上がっていた！ その欲望とは当然。

「うっクックク、アッハッハッハッハ！ どうした魔女オー。さつきまでのあの余裕はあの強さは。アッハッハッハ！ 良いぜお前の望み通りにギタギタに切り刻んでやるよ！ アッハッハッハ。でもよ、その前にお前のもう1つの望み通りにお前を、女としてもギタギタに殺してやるぜ！
アッハッハッハ、ワッハハハハハ！」

それを聞いたクルナは今までの魔女の姿からは想像も出来ないぐらいの健気な瞳と表情で少女の様な怯える声で泣きながら、体を地面に擦り付けながら必死に命乞いをやり始めた！

「お、おっね、がい、や、やめ、……て。やめてく……だ……さ、い。おねがい、だあ、……あかつらあ。」

だが、当然男はそれを無視する。

「ああーん！ダメに決まってるだろうがー！ お前がどんな顔で泣き出そうがそんな事で俺の仲間は戻らないんだよ！ だがな、お前は女だ。女には女の償い方が『あ・る・よ・な！』それで俺を喜ばせてみるよ、満足させてみるよ！

そうしたら命だけは勘弁してやるぜ！ 最も素直に殺された方角良いと思うがよ。今日からお前は一生俺と俺の仲間の為にその身を使つて死んだ仲間の償いをするんだ。つまりお前は今から一生俺の肉奴隷だ！

ウツハツハツハツハ。どうだ、嬉しいか、嬉しいだろ！アツハツハツハツハ！」

男の人間として最低で非道な態度にクルナは絶望したが。それでも涙による抵抗を止めない。男も当然それを無視していた。

そんな光景を先程の女性は喜びながら眺めていた。

「やった、彼女には悪いけどこれで一時的に彼女の思考と力にリミットかけることが出来るわ！ そのあとわ、あの男を始末してついでに本命の情報と居場所聞き出せば。全てクリアーだわ。……さあーて、あんまり趣味じゃないけど。待つてる間退屈だから、あの男が彼女を暴行しているのを眺めながら時間を潰すとするか。」

彼女は悪趣味にも本当に女性で有りながら、男性が女性に暴行しているのを真剣に見ていた！

「や、やめてええー！」

「うるせいい！」

男はクルナ殴り付けて大人しくさせると満足した笑みを浮かべてクルナの服を無理やり脱がして、更に暴行を続ける。

「うぐつあ！……いやっー！ う、うつ、や・め……た、すけ、
……いやあぁー！」

その数時間、男は行為を終えると満足した様子で立ち上がり、芳心状態で満身創痍のクルナを見て口を開く！

「ハッハッハッハ！ なんて、なんて様だ、なんて無様な姿だ。情けないな、魔女オォー！ フッハッハッハッハッハ！」

そして、男はクルナを連れていこうとした。

だが、後ろから、それを止める声が合った！

「待ちなさい。もう仲間の貴樹は済んだでしょう。
それに貴方の自身の利己的な快樂も。」

その言葉に男は反応して後ろを振り向く。

「だ、誰だ！……なんだ、ただの女か驚かすんじゃないぜ。お前もこの俺の肉奴隷になりたいのか？」

「傲慢ね〜！ そんなのなりたいたいわけ無いでしょ、自分の顔を鏡で見ながら言ってくれる！ 誰もあんたみたいな気持ちの悪い顔の上、最低で金もないクズ野郎なんか相手にしないわよ！ それにそんなクズ野郎は生きてるだけで女の害虫、外敵、存在意義の無いただのゴミ、虫けらよ！」

それでも、まあ、代金を稼げる様になったら家と車ぐらい買わせて『あ・げ・る・わよ！』勿論そのあと金だけ全部貰ってやってから踏みつけて捨ててやるわよ！ どうかしら、嬉しすぎてブサイクな自分が何の為に生きているのかが分かった、か・し・ら！
そうよ、アンタも含めて、きもくて金の無いブサイクのゴミクズの男達は全て私に買いで私に踏み捨てられる『た・め・だ・け・に・い・か・さ・れ・て・い・る・の・よ！』分かったかしら〜？」

彼女の美形でお金持ち以外の男性は男ではなくただの使い捨ての金蔓であると言う。彼女の発言に男は当然ながら怒りを彼女にぶつける！

「なんだと、このクズアマ、お前みたいな女がいるから俺達男はな」

「なに勘違いしてるの。アンタ達ゴミは男ですら無いわよ！ それにそんな事はどうでも良いのよ私はただ、そこで寝ている彼女が欲しいだけなんだから」

「なに、お前やる気か。良いぜ相手になってやるぜ。次はお前がそうなる番だ！ 俺は立木透お前は」

「あんた、ごときのゴミに名のりたく無いけど仕方ない。」 咲崎宮

芹那『【さきみや せりな】
ただの通りすがりの医者よ！」

芹那はカバンの中からデュエルディスクを取り出して手に装着する。
そして、

デュエル

次回に続く

第15話 傲慢（後書き）

次回予告『突如現れた咲崎宮芹那によりクルナは助け出されようとしていた。それを阻止する為に始まった、芹那と立木透とのデュエルは、芹那が自分の死んだモンスターの力を生きているモンスターに与えてパワーアップさせる。戦術で徐々に立木を追い詰める！そして、追い詰められた立木は……。』次回遊戯王デュエリストクイズ第16話【オーバーソウル】お楽しみに！

第16話 オーバーソウル（前書き）

皆様いつもお読み頂き誠に有り難うございます。皆様からのカードやキャラクターのリクエストはいつでも募集しています。一度された方でも何度でもリクエストして頂いてかまいません。それと全然関係ありませんが今9月3日に発売されたガンダム戦記にハマっています。

第16話 オーバーソウル

デュエル

突然現れた咲崎宮芹那と名乗る女性により、クルナは救い出され用としていた。

「えっと、たちぎ？ もう面倒だからゴミでいいわよね！」

芹那は笑みを浮かべてふてふてしく言った。

「良いわけないだろうが！」

「別にアンタの意見なんて聞いてないし、そんな事はどうでも良いわ。」

それより、ゴミ、ライフはどうするのよ4000それとも8000が良いのかしら。

どうするのよ？ 好きな方を選びなさい。」

その言葉に立木は少し考えを巡らせる。

「（どうするか、勢いに任せてデュエルしたものの、奴の実力がわからない以上。ここは慎重に。）

8000でいくぜ！」

「慎重ね。いや、ただのチキン野郎ね！ 男の癖に『な・さ・け・な・い。』」

まゝあ、私が先攻だから別に良いわ」

「なに、何でお前がせん。」

立木の言葉を強引に芹那が割り込んで止める。

「うるさいわねゴミ。そんなだから、その年まで結婚も出来なければ、彼女もいないのよ！」

アンタがライフを決めたのよ、だから私が先攻に決まってるじゃない。違う？」

その言葉に立木は苦虫を噛み潰すかの様に口を閉じて頷く。恐らく何を言っても無駄だと考えたのだろう。

「そうよ。それで良いのよ。ゴミ男はただ私の言うとうりにしていれば良いのよ！」

そして、芹那の先攻でデュエルがスタートする。

ライフは8000。互いに5枚ドロして、芹那のターンから始まる。

「いくわよゴミ、私のドロ。（ちっ間がっ悪い、今このカードは使えないわね。あのゴミが使ってくるとも思えないけど、ここは一応伏せて置いて。別の手を用意して置こう。）カードを1枚伏せる。そして、モンスターをセツト、ターンエンド。

アンタのターンよゴミー！」

「くう、いちいちゴミって言うな！ 俺のターン、ドロ。俺はマジックカード暗黒の吟遊詩人召喚術を発動。その効果で俺はデッキから暗黒の眠りを誘うルシファーをデッキから特殊召喚するぜ。」

【暗黒の吟遊詩人召喚術
通常マジック オリジナル】

『自分のデッキまたは手札から暗黒の眠りを誘うルシファーを1体
攻撃表示で特殊召喚する。』

そのモンスターは生け贄にできず、守備表示にもできず、ルール上
可能な限り攻撃しなくてはならない。』

【暗黒の眠りを誘うルシファー 闇属性 レベル5 魔法使い族
攻撃力1500 守備力1800 販売 効果】

『召喚・反転召喚した時に、相手の場のモンスター1体を指定する。
選択したモンスターはこのカードが場に表側表示で存在する限り、
攻撃をすることができない。』

立木の場合に全身黒装束で覆われた暗黒の吟遊詩人が姿を表す。

それを見た芹那は何故か少し驚いた表情を見せ、その後微笑み浮
かべて口を開く。

「へえー。アンタきもメンの癖になかなか見る目が有るわね。」

「どう言ってる事だ？」

立木は当然、芹那の言葉に疑問を抱き芹那に問い質す。

ちなみにすでに立木は完全に芹那の暴言を聞き流す体勢に入っていたので、今の芹那の暴言にはなんのリアクションも見せなかった。

「フッフ、あとのお楽しみよ。どうしても知りたいならルシファーで攻めてきなさい！（でもまさか、アイツがルシファーを使って来るとは思わなかったわ。これでこのトラップが機能する。おまけにこの手札、私の勝ち見えたわね。」

「（誘ってるのか、でもここは行くしかないぜ。どうセルシファーは呼び出したマジックの効果で攻撃しないと行けねーからな。）更に俺は手札からブルーサンダーT45を召喚してそのセットモンスターに攻撃だ！」

男の場に白い近未来の戦闘機が飛来して空を舞う。その姿はまるで八十年代のシューティングゲームの主役戦闘機を思わせる。

そして、その戦闘機の機銃から無数の弾丸が発射されて、裏になっている芹那のセットモンスターを蜂の巣にした！

そして、その中から巨大な壺が現れる。その壺には巨大な顔の様な模様が刻まれており、更なる砲撃でその顔をごと打ち砕かれた。

【ブルーサンダーT45 光属性 レベル4 機械族 攻撃力1700 守備力1000 販売 効果】

『このカードが戦闘でモンスターを破壊した時、自分の場に「サンダーオプシントークン」（攻守1500 機械族 レベル4 光属性）を1体特殊召喚する』

「なんだそのブサイクなモンスターは！ 人に散々ブサイクとか言っておきながら、なんだその醜いモンスターは！ まあ、良い。この瞬間ブルーサンダーの効果発動でサンダーオプショントークンを守備表示で特殊召喚するぜ！」

立木は高らかと宣言した時、突然時空の狭間からブルーサンダーT45のパワーアップ用のオプションパーツが届けられた！ そのパーツは最初から戦闘機の形でできており、パーツと言うより支援型の小型戦闘機と言える。

それを確認した芹那は今度は自分自身のモンスターの効果を発動させる。

「オイ、ゴミイ、次は私のモンスター効果を発動させるわ」

【欲望をかなえる人面壺

地属性 レベル3 魔法使い族 攻撃力800 守備力1500
オリジナル 販売】

『リバース/自分のデッキから儀式モンスターカードと儀式魔法カードを1枚ずつ手札に加える。』

この効果は戦闘フェイズにしか発動できない。

このカードが戦闘で破壊された時、自分のデッキから効果のない儀式モンスターか儀式魔法カードのどちらか1枚を選択して手札に加える事ができる。』

「この効果で私はデッキから仮面魔獣マスクド・ヘルレイザーと仮面魔獣の儀式を手札に加える。更に欲望をかなえる人面壺のもうひ

とつの効果でデッキから再び仮面魔獣マスクド・ヘルレイザーを手札に加えるわ。」

芹那はこのカードだけでこのターン3枚もの手札増やした。これにより芹那の今の手札は7枚。次のドロウでなんと8枚になる。

芹那は僅か1枚のカードで3枚のハンドアドバンテージを得ることに成功した事になる。

「ちい、引きすぎだぜ！」

(本当はオプシントークンも攻撃させたかったが奴は俺の攻撃を誘ってる。もし奴が伏せてるリバーカードが攻撃時に発動して攻撃表示モンスターを全滅させる、聖なるバリアーミラーフォース이었다ら。俺のモンスターは全滅する。もしそうなら奴が今の攻撃でトラップを発動しなかったのは、欲望をかなえる人面壺の効果で儀式カードを手札に引き入れる為だ。

だが、次はそうは行かない、次攻撃すれば奴は今度こそ容赦無くトラップを切ってくる。

何より奴の表情がその裏付けだ。自分の場がから空きなのにあの余裕の表情。アレは完全に自分の安全が保たれている人間の表情だ。

だとするとここは攻撃しないのが得策何だが。ルシファーを呼んだ時のマジックカードの効果で強制攻撃しないといけないからな。

だからここは犠牲を少なくするためにトークンを合えて守備にして安全をはかり奴の攻撃を凌ぐのが妥当の選択だ。だから俺はトークンを守備にしたんだ、アレで良かったぜ。

もし攻撃表示にしてミラーフォースで全滅したら次の奴のターンでマスクド・ヘルレイザーを召喚されて攻撃されたら、俺のライフは一気に4800に減少する。悪くすれば更にもう1体のヘルレイザーを出されて、1600にされることもある。そうなれば奴が通

常召喚で1600以上のモンスターを出せば俺は終わる。

今奴に主導権がある限り無茶はできない、慎重に慎重を重ねないといけないぜ！」

立木が走行考えていると芹那が痺れを切らした。

「ちょ、ゴミ、長いんだけど長考しないでくれる？ 囲碁や将棋じゃないのよ、分からないの僕？」

どうやら芹那は待たされるのが嫌いの様でかなりイラついている様子だ。

それを見て立木は少し焦らされる。

「ちい、考える時間も無いのかよ。ならルシファーでお前にダイレクトアタック！」

暗黒の吟遊詩人が芹那に暗黒の歌を聞かせようとした時、芹那が動く。

「トラップ発動暗黒の主題歌！」

【暗黒の主題歌 通常トラップ オリジナル】

『場の暗黒の眠りを誘うルシファーが攻撃宣言した時に発動できる。自分のデッキまたは手札から、暗黒の眠りを誘うルシファーを3体まで特殊召喚できる。』

このカードで特殊召喚されたモンスターはこのターン攻撃できず、生け贄召喚の生け贄にもできない。』

「この効果でデッキから私の場にもルシファー3体を守備表示で特殊召喚するわよ！」

芹那のデッキから暗黒の歌が鳴り響き、そこから三人の暗黒の吟遊詩人が姿を表す。

だが、それを見て立木は汗をかきもの凄い表情で驚きを隠せないでいた。

「な、なんだと、破壊系のトラップじゃないのか！
しかも俺と同じルシファーだと」

「だから言ったでしょ、アンタ見る目有るって。
さて、それじゃ、お楽しみの時間よ。」

芹那がそう言うと同時に、立木のルシファーが芹那の守備表示のルシファーに攻撃をして反射ダメージが立木を襲う。

これにより立木のライフは7700に減少する。

「うぐ、クソー！ 俺はカードを1枚伏せてターンエンドだ。（フン、俺が伏せたのはレベル4以上の攻撃を防ぐ、グラヴィティ・バインドのカードだこれで破壊されない限り俺は安心だ」

この事からも分かる通り立木は芹那の言う通り、臆病者のチキン野

郎である。

こうして長い1ターンが要約終わり、芹那のターンに移るが。それと同時に芹那は高らかと叫んだ。

「そして、恐怖の私のターンが始まる！ 私はマジックカード暗黒の眠り歌を発動、その三番目の効果でこのターンアンタのマジック、トラップの発動を停止するわ。

更に私は儀式魔法仮面魔獣の儀式を発動。手札のマスクド・ヘルレイザーをコストにもう1体のマスクド・ヘルレイザーを儀式召喚」

【仮面魔獣の儀式 儀式魔法 販売】

『仮面魔獣マスクド・ヘルレイザーの降臨に必要。場か手札から、レベルが8以上になるようカードを生け贄捧げなければならぬ。』

212

【仮面魔獣マスクド・ヘルレイザー 闇属性 レベル8悪魔族 儀式 攻撃力 3200 守備力1800 販売】

【暗黒の眠り歌 通常マジック オリジナル】

『自分の場の暗黒の眠りを誘うルシファーの数により以下の効果の中から1つを選んで発動する。』

1体の場合、相手はこのターンマジックカードを発動できない。

2体の場合、相手はこのターンマジック/トラップカードを発動できない。

3体の場合、相手はマジック/トラップカードを発動できず、この

カードの発動にチェインできない。

暗黒の眠りを誘うルシファーが自分の場に3体いる場合このカードは相手のターンに手札から発動できる。』

暗黒の吟遊詩人が暗黒の眠り歌を歌う。その邪悪な音色を聞いた者は魔法とトラップの使い方を忘れてしまう。

「これで準備は整ったわ。まず、私は今召喚したマスクド・ヘルレイザーを生け贄に捧げグレート魔獣 ガーゼットを召喚。ガーゼットの攻撃力は生け贄モンスターの攻撃力の二倍になる。よって、その攻撃力6400!」

芹那の場に強大な姿をした悪魔魔獣が姿を現す。

その魔獣は仮面を着けた人の姿をした上半身と化け物塊でできた様な下半身を持つ。魔獣を食らいその力を吸収して倍加させて自分の物とした!

【グレート魔獣 ガーゼット

闇属性 レベル6 悪魔族

攻撃力0 守備力0 販売

効果】

『このカードの攻撃力は、生け贄召喚時に生け贄に捧げたモンスター1体の元々の攻撃力を倍にした数値になる。』

「こ、攻撃力、ろ、6400だと！」

啞然とした姿で驚いている立木を芹那が軽く笑い飛ばす。

「フッフッフ。この程度で絶望しないで暮れるかしら。本当の絶望はこれからよ！」

その言葉に立木は啞然とする。

「……………！」

「いくわよ。マジック巫力 オーバーソウル発動」

【巫力 オーバーソウル 通常マジック オリジナル】

『生け贄召喚で召喚した、モンスター1体を選択する。選択したモンスターの元々の攻撃力が生け贄に捧げたモンスターの攻撃力よりも低い場合、生け贄に捧げたモンスターが墓地に存在する時、そのカードを選択モンスターの装備カードにする。』

装備モンスターの攻撃は装備したモンスターの攻撃力分上がる。

装備モンスターが破壊される時、装備カードを墓地に送る事で破壊を無効にする。』

「きゅ、きゅ、9600、9600だど！」

「フツウフフフ、そうよ！このカードの効果でマスクド・ヘルレイザーをガーゼットの装備カードにして、その、攻撃力分の数値をガーゼットの攻撃力に加える。

その攻撃力は9600！ フフフ、ゴミアンタの負けよ。ガーゼットでアンタの暗黒の眠り誘うルシファーに攻撃！」

ヘルレイザーの力を二度も奪いその力を極限まで高めて自身も巨大化した、ガーゼットから絶望の一撃が。暗黒の吟遊詩人目掛けて放たれた！

立木は芹那の暗黒の眠り歌の効果でこのターンのマジック、トラップの発動を封じられている為に。

リバースカードによる回避ができない。通常なら敗北はほぼ確定だが？

果たして芹那はこの一撃でデュエルを決めてしまうのか？ そして、1人震えるクルナはこの後、どうなるのか？

次回に続く

第16話 オーバーソウル（後書き）

次回予告『芹那の必殺の一撃を回避した立木は。絶体絶命の中、起死回生を狙いドローカードに望みを託す。そして、ドローカードから立木は芹那のガーゼットを消し去り尚且つ芹那にダメージを与える。戦術を導き出し、芹那を苦しめる。芹那はすぐにその戦術を破ったが。それが立木の更なる戦術を加速させる事になる。』次回遊戯王デュエリストクイーンズ第17話【灼熱のゴーレム】お楽しみ

第17話 灼熱のゴーレム（前書き）

皆様更新が遅くなってすいません。言い訳になります。最近体長が悪くてなかなか書けませんでした。ですが少しずつですが、体長が良くなって来たのでこれからはいつも通りの更新ができると思います。迷惑かけてすいません。それとタイトルにも書きましたが1話と2話をリニューアルしました。3話もいずれリニューアルしますので良ければそちらもお読み頂けると幸いです。

第17話 灼熱のゴーレム

「これでアンタの負けよ、ゴミ！」

ガーゼットの巨大な拳から放たれた一撃が空を斬り。立木のルシフアーに襲いかかる！

その時！ 立木は手札から1枚のカードを発動させる。

「俺は手札を1枚捨てて、手札から忍耐の魔方陣を発動。」

ガーゼットの一撃がルシフアーに直撃してルシフアーは粉々に砕け散った。

それにより立木は8100のダメージを受けてデュエルに敗退するハズだった！

だが、立木のライフは7700から3650に減少しただけだった！

【忍耐の魔方陣 通常マジック オリジナル】

『このカードは相手のターンのダメージ計算フェイズにのみ手札を1枚捨てて手札から発動できる。相手から受ける戦闘ダメージを一度だけ半分にできる。』

「なに、どうなっているのよ。確かにルシファーを破壊したハズなのに？」

芹那のその疑問に立木は直ぐ様カードを芹那に見せて答える。

「俺はこのカード忍耐の魔方陣の効果でルシファーとガーゼットのバトルで発生するダメージを半分にしたのさ！
フン、お前も詰めが甘いな。俺はここから一気にいくぜー！」

「くう、私はカードを1枚伏せてターンエンド」

芹那の表情は若干だが、怒りに猛っていた。
そして、ターンが立木に移る。

「（くう、だか、このドローであのカードを引かなければ、俺は負ける。クソー。手札にはすでにこのトラップカード石炭から生まれた溶岩魔神があるのによ。

クソー。必ず引いてやるぜ！）

俺のターン、ドロー。……ひ、引いたぜー！」

望み通りのカードを引いた立木は思わず、芹那の目を気にせず喜びの余り言葉を上げてしまう。

それを見た芹那は当然、警戒心を働かせる。

「うん？（あの喜び様、なにか戦略的なカードを引いたのか？）ふーん、その様子からして良いカードが来たみたいね。で、この後どうするのよ？」

「決まってるだろ。今からお前のその醜いガーゼット葬り去るのさ！」

「！（やはり、キーカードを引いていたんだわ）」

「クッククク、いくぜ。俺はお前の場のガーゼットとルシファー。この2体を生け贄に溶岩魔神ラヴァ・ゴーレムをお前の場に特殊召喚する。」

芹那のガーゼットとルシファーは強制的にその命を灼熱の魔神に焼かれてその身を養分に変えられてしまった。

そして、魔神はその養分を吸収して芹那の場に降臨した。それと同時に芹那は鉄格子に囚われて、魔神の中心部分に移動させられる。その魔神の全身は自身の高熱により溶けており、その姿は人の姿をしたスライムに見える。

そして、その灼熱は主人となった芹那の身にも悪影響を与える。

「くう、まさかこんな方法でガーゼットを処理されるなんて。……それにしても熱いわね。その上こんなブサイクなモンスター見てるだけで、気分が悪くなるわ。（ただでさえ、今日はあの日なのに。）」

本当に苛つくわ。(で、それからどうするのよ?)」

芹那は自分のモンスターが破壊された事よりも自分の生理的な現象で苛立ちを深めて、徐々に冷静さを無くしていた。

「更に俺はカードを1枚伏せる。そして、墓地からマジックカードを発動させる」

立木が発動させたのは。

【生け贄に封じの鉄仮面
通常マジック オリジナル】

『モンスター1体を指定する。そのモンスターは場を離れるまでいかなる場合にも生け贄にする事ができない。』

墓地のこのカードを除外する事で、このカードの効果をもう一度発動する事ができる。』

「当然俺が指定するのは溶岩魔神ラヴァ・ゴーレムだ！ これでお前はソイツを処理できないぜ。(フン、俺が今伏せたのはラヴァ・ゴーレムが破壊された時に発動できる。トラップ、石炭から生まれた魔神だ。更にもう1枚、前のターンに伏せたクラヴィティ・バインド 超重力の網だ。」

これで俺は無敵だ！ このままラヴァで奴のライフを削り捲ってやるぜ。

それに例え奴が何等かの方法でラヴァを破壊したとしても、その時

が奴の最後だぜ！）そして、モンスターを全て守備表示にしてターンエンド。お前のターンだ」

「私のターン、カードドロ」

「この瞬間ラヴァ・ゴーレムの効果発動だぜ」

芹那がカードを引いた後に溶岩の魔神はその身から灼熱の体液を芹那に浴びせかかる。

鉄格子にいる芹那はどうする事も出来ずに、ただ呆然と自身を焼く体液の痛みに耐えるだけだった。

【溶岩魔神ラヴァ・ゴーレム 炎属性 レベル8 悪魔族 攻撃力3000 守備力2500

販売】

『このカードを手札から出す場合、相手の場のモンスター2体を生け贄に捧げて相手の場に特殊召喚しなければならない。このカードはコントローラーのスタンバイフェイズ毎に、コントローラーに1000のダメージを与える。このモンスターを特殊召喚する場合、このターン通常召喚はできない。』

「うう、いや、熱いつ。

あ、あつ、熱い、熱い。

た、爛れたら。せ、責任取ってよね！」

芹那は痛みにも内震えながらそう言ったが、立木は軽く笑い無視する。

これにより芹那のライフは8000から7000に減少を見せる。

「さあー、お前のターンだけ。攻撃しないのか？」

立木は小馬鹿にするような態度と口調で芹那に言葉を浴びせる。

それに対し芹那は体をビクツ付かせながら、反攻を開始する。

「ご心配なくちゃんとするわよ！でも、その前に残ったルシファ―2体を守備表示から攻撃表示に変更するわ。（恐らく彼奴が伏せているカードはまず間違いない攻撃を封じるトラップカード。しかもその内の1枚は恐らく、永続的に相手の攻撃を封じる永続的トラップのハズ。奴が2枚とも攻撃無効トラップを仕掛けているかは、わからないけど、ここは仕掛けるチャンスだわ。うまくすればこの目障りなモンスターを処理できて、尚且つ2枚目のガーゼットを手札に加えて戦況を決定できるかもしれない。）ラヴァ・ゴーレムで守備表示のブルーサンダーT45に攻撃！」

その言葉に立木は割り込みで言葉を挟む。

「その前に、良いことを教えてやるぜ。ソイツの技の名前はっ。」

だが、芹那はそれを無視する。

「関係無い。技の名前は自分で決めるわ。……………芹那ファイア
！！」

芹那は少し間を開けたあとに自信を持って、そう言い放つ。
それを聞いた立木は度肝を抜かれた顔で、芹那に言い放つ。

「せ、芹那ファイア？ な、なんて、センスの無い名前なんだ！
ラヴァ・ゴーレムの技の名前に自分の名前にファイアなんて。馬鹿
な名前を付けたのは全世界でお前が二番目だ！」

立木は芹那の名付けた、名前を気に入っておらず。

過去に同じ様な名前を付けたデュエリストを持ち出して、芹那を小
馬鹿にしていた。

ちなみにそのデュエリストは今現在は伝説のデュエリストとして有
名を馳せている。

ちなみにそのデュエリストのアダ名はボンコツである。

芹那が技の名前を叫んだ、と、同時にラヴァ・ゴーレムがその口元
から高熱の炎を放つ！

だが、その瞬間立木は1枚のカードを発動させる。

「トランプ発動だぜ！」

立木が発動させたのは永続トラップグラブティ・バインド 超重力の網のカードだった。

【グラブティ・バインド
超重力の網 永続トラップ販売】

『場のレベル4以上のモンスターは攻撃出来ない。』

「やはり、ならば此方もカウンターリバーズ発動！
犠牲と紅葉によるカウンター作戦^{アタック}」

【犠牲と紅葉によるカウンター作戦^{アタック} カウンタートラップ オリジナル】

『相手のマジックまたはトラップを自分のモンスター1体を墓地に送り、無効にする。』

そのあと墓地に送ったモンスターの攻撃力の半分の数値をこのターンの間自分のモンスター全の攻撃力にプラスする。

そのあとデッキから墓地に送ったモンスターの攻撃力の半分の攻撃力を持つモンスター1枚手札に加える。』

「このカウンター効果でアンタのトラップを無効にして破壊するわ。ついでにアンタのこのブサイクなモンスターも一緒に墓地に葬り去らせて貰うわ。」

更にその攻撃力の半分を私のモンスター全てに与え、更に私のデッ

キからその攻撃力の半分のグレード魔獣ガーゼットを1枚手札に加えるわよ。」

「な、な、なに！ ラヴァ・を破壊したあげく。更にその攻撃力を吸収するとは。だが、ここまでは予想の範疇だ。

トランプ発動石炭から生まれた魔神！

この効果で俺はデッキから2体のラヴァ・ゴーレムを俺の場に特殊召喚するぜ！」

「なに、ライフが3650しかないのにラヴァを2体も召喚するなんて、なに考えてるのよ。

これだとあと2ターンでアンタは終わりよ！」

芹那の言う通りだが。

立木はその言葉を笑う。

「フン、心配するならこれからの自分の身の心配をしな。このトランプのテキストをよーく見な！」

【石炭から生まれた魔神

永続トランプ オリジナル】

『相手の場にある自分のラヴァ・ゴーレムが相手の場から相手によって自分の墓地に送られた時、自分のデッキまたは手札からラヴァ・

ゴーレムを2体まで自分の場に特殊召喚する。

このカードが場にある限り自分はラヴァ・ゴーレムの効果でダメージを受けない。このカードが場を離れた時、自分はこの効果で特殊召喚したラヴァ・ゴーレム1体に付き3000のダメージを受ける。

▣

「フン、どうだ。これで俺はラヴァのダメージ受けないぜ。とうだ、まいったか？ アツハハハ」

立木は勝ち誇った様に高笑いをしたが。芹那はそれを軽く小馬鹿にして無視する。

「バカ、それは詰まりそのカードを破壊すれば良いだけでしょ。

そんなのサイクロン一発でイチコロよ。違う？」

「くう、それはあくまでもお前が除去カードを引けたらの話だ！」

立木は焦りながらも高らかとそう言い放つ。

「アンタバカ。そんな必要ないわよ。

私のルシファの攻撃力は今ラヴァの攻撃力の半分の数値を得て、3000になっているわ。しかもそれが2体。それがなにを意味するかいくら頭の悪い幼稚な君でもわかるわね僕？」

芹那は立木をまるで幼稚園の先生が生徒に勉強を教えるが如く低レベルな口調で抽象する。

当然それを聞いた立木は気分を悪くする。

「ちい、この腐れアマがどこまで人を見下すんだ！
てめえーは何様だっ！」

立木は怒りを込めて言い放つ。だが、芹那は。

「そんなの決まってるでしょ。私様よ！ この私の前ではアンタの様なブサイクで金の無い下等な男はこの私に踏み潰される為だけに存在する事をこの私に許されているのよ。
そんなことも知らずに生きて来たの？ それだけで立派な罪よ、犯罪よ。これはもう死刑決定ね！」

芹那の暴虐武人な態度に立木は取り乱す。

「な、な、な、なんて自分勝手な女なんだ！ こんな自分勝手なクソ女今まで見たことねえー！ 一体どんな育ち方をすればこんな風に育つんだ？」

その問いに芹那は答える。

「それだけ私が優れてるってことよ。なんたって私は美の女神にな

れる程に美しい、この世のものとは思えない程の美しい姿と容姿を持つ。えりすぐられた美のエリートなんだから！」

たしかに芹那は美しい女性だが、ここまでうぬぼられる事こそが彼女の最も特筆すべき所だと立木思い納得する。

「それじゃ、この世の中で一番美しいこの私がアンタにプレゼントを『あ・げ・る・わ。』」

私はルシファー2体でラヴァ・ゴーレム2体を攻撃」

芹那のパワーアップしたルシファー2体はラヴァ・ゴーレム2体に攻撃を仕掛けて互いに相殺して墓地に遅れる。

「カード1枚伏せてターンエンドよ。さあ、アンタのターンよ。このあとどうするか楽しみね。期待してるわ。ちなみに私が伏せたのは相手の攻撃時に発動するトラップ。『邪神の大災害』だから、きおっけてね！ フッフそれじゃ頑張っ私を、たのしませてね。あははは」

「く、くそー。ムカつくぜ。絶対に勝ってやるぜ！

覚悟しろよこの腐れアマー！」

はたして立木ここから逆転出来るのか？

芹那がそのままわがままを押し通すのか？
次回に続く！

第17話 灼熱のゴーレム（後書き）

次回予告『起死回生を狙ったラヴァ・ゴーレムを簡単には削除された立木はそれでもあきらめずに、ラヴァ・ゴーレムで最後の勝負に出る。果たしてその結果は。』次回遊戯王デュエリストクイーンズ
第18話 【精神の強さ】お楽しみに

第18話 精神の強さ（前書き）

皆様かなり更新が遅くなって誠にすいません。出来る限り定期的に更新をしていくつもりですが。私は昔から季節の変わり目と冬は体を崩しやすいのでこれから更新が遅れるかも知れませんが。どうか温かい目で見て貰えれば幸いです。（すいませんつまらない言い訳して）それと更新が遅れたもう1つの理由は今新しい遊戯王の小説を書いているからです。早ければ今週中にアップできると思いますので良ければそちらの方も宜しくお願い致します。（ちなみにその新しい小説は以前に此处で書いたクロスオーバーの物とは違います。またオリジナルです）

第18話 精神の強さ

「さあ、アンタのターンよ。今私の場はモンスターなしのから空き状態。いくらでも攻撃できる絶好のチャンスよ。まあ、最もその時は私の伏せているトラップ、『邪神の大災害』が発動するけどね。あはは」

「く、クソー。なめやがって。必ずぶつ殺してやる」

芹那と立木のデュエルは大詰めを向かえていた。

立木のライフは3650。それに対し芹那のライフは7000とかなりの差を芹那が付ける形でここまで来ている。しかし場の状況は芹那がモンスター無しながら空き状態で1枚リバーカードがあるだけである。それに対して立木の場には2体のモンスターが存在している。だが、立木は攻撃出来ないでいる。

それは立木自身が発動したトラップカード石炭から生まれた魔神の効果で今破壊された場合、6000のダメージを受けてしまう。

現在の立木のライフは3650。その為立木は攻撃時に発動して場のマジック、トラップを破壊する『邪神の大災害』の発動を、恐れて攻撃出来ないでいる。

「く、なめられてたまるかっ！俺のターン、ドローー！（例え奴が言うことが本当でも、ここは引くわけにはいかないぜー！）」

いくぞー。マジックカード灼熱の錬金術発動。」

【灼熱の錬金術 通常マジック オリジナル】

『自分のライフを半分にして発動する。』

自分の墓地からラヴァ・ゴーレムを1体特殊召喚する。この効果はライフを半分にする度に発動する。』

「俺はこの効果でライフを三回半分にして、ラヴァ・ゴーレムを3体特殊召喚してお前をダイレクトアタックするぜっ！」

立木のライフと引き換えに墓地より蘇生された、三体のラヴァ・ゴーレムはそのまま芹那に襲いかかる。

今の芹那の場はがら空きで、このまま攻撃力3000を二度喰らえば芹那のライフは0になる。だが、芹那は微動だにしない。

「フッフ、私のフェイクに恐れを為さないで攻撃力したことはホメテあげるわ。でも、断念ね。アレはフェイクじゃあつないのよ」

その言葉に立木は啞然とする。

「な!.....」

「フッフ、リバーズ発動。『邪神の大災害。』
ウッフッフ、私を信用しなかったアンタの負けよ! 私って外見が
美しいだけじゃなくて、人に対して誰よりも親切な清らかな心を持
っている、世の女性の鏡なんだから。それを見抜けなかった見る目
のないアンタが全部悪いのよ」

「くう、クソっー!」

芹那が発動したトラップカード邪神の大災害の効果により、フィー
ルド全体のマジック、トラップカードは暗黒の渦巻きに飲み込まれ
て。跡形もなく消え去った。

【邪神の大災害 通常トラップ 発売】

『相手が攻撃した時に発動する。場の全てのマジックとトラップを
破壊する。』

「さーあ、これでアンタは終わりよ。アンタが『石炭から生まれた
魔神』の効果で特殊召喚したラヴァ・ゴーレムの数は2体。

『石炭から生まれた魔神』の効果はこのカードが場を離れた時に、

そう言うと芹那は地面に横たわり震えている、クルナを、持ち歩いている携帯用の医療箱で治療して。出血している傷口を消毒して、傷を塞ぐと。タオルで全身に染み付いている血を丁寧に拭き取り、クルナの体を白く戻していく。

（ちなみに芹那が拭き取りに使ったタオルの数は12である）芹那は自身で公言した様に医者であり医療学に優れる、デュエリストでもある。

だが、彼女は正式な病院に勤める医師では無く。

主に経済的な理由で病院に行けない者や犯罪を犯した者や無実の罪で追われ医師に見てもらえない間者を、専門にしている。いわゆる裏世界の医者でその為、芹那は正式な医師免許を取り消されている。だが、なぜ、彼女は医師免許を取り消されてまで裏社会の医師になつたのが？

それは彼女の身内である妹の存在が深く関わっている。

芹那はその妹を救い出す為に、裏の世界に身を置き妹を救い出す為の手掛かりを探している。

恐らくは芹那の言う『ネスト』とはその為に必要な重要な要素の1つなのだろう。

治療を終えると芹那はクルナの持ち物を拝借して、クルナの身元を調べていった。

「えっと、まずはこの子の名前は、と」

芹那クルナのサイフから身分証明書を取り出してその内容を確認した。

「なになに、本名『クルナ・フォン・アルテス』
女性。二十歳。アルテス家次期当主……！！」

え、この子があの『アルテス家』の次期当主。そう言えば以前、アルテス家の次期当主の娘が家を飛び出したって。噂で聞いた事が合ったわね。

確かその娘は今は生みの親の姓を名のっているって聞いたわ。確か神無月とか言ってたわね。

まさかこんな所で『高級貴族の次期親玉』に出会うなんて、思ってもいなかったわ。

（でもこれは絶好のチャンスかも知れない。あの子を、『水真』【シーマ】ちゃんを救い出す為に神が私に与えた最後の希望。

もうこれを逃せば私と水真ちゃんに救いは無い）……何としても必ずこの最後の機会をつかんで、もう一度水真ちゃんと二人である頃を取り戻して見せるわ」

そう言うと芹那はクルナを連れてその場を後にした。大量の人の血と肉を残して。

そしてその頃、遊奈と美雪は苦悩の局地にいた。

「ウツフツフツフ。どうした平民のメス豚。私を楽しませるのもこれで終わりか？ お前なら或いは私の初めてのメスの愛眼用動物として飼ってやっても良いと思ったのだがな。

どうやらお前では私の皇帝には敵わない様だ。
本音を言えばもう少しあがいて私を楽しませてその価値を高めて見せる平民のメス豚」

今のセレーナの場合には玉座を欲しいままに波動の限りを尽くす皇帝ルドルフがその力を背景にただ一人生き残り、セレーナの場合に存在していた。

一方の遊奈もその場にはただ1体、自分自身と同化していたシヴァが存在しているだけだった。

しかしその姿は先程までの物とは明らかに違っていた。先程までの禍々しい化け物ではなく、その姿はとても美しく神々しい姿でその白き美しく体からは優しく温かい光を放ち。背中に生える白き翼は風を優しく受け止め軽やかな音色を立てる。

その美しく清らかな姿は正しく天使としか言いようがない。だが、その美しく筈の天使と化した遊奈の表情は暗く重苦しく見える。

そして、その目線の先には変わり果てた姿で地面に横たわる、美雪の姿があった。

「うるさい。今はお前の評価も楽しみもどうでも良い。（今は一刻

も早く美雪を、美雪を。私の為にその身を犠牲にして救ってくれた美雪を今度は私が一刻も早く、救い出さないと行けないんだ！だから）だから、お前のその命と体を寄越せ！（お前のその命と体で美雪を、死んでしまった美雪を生まれ帰らせる。

その為なら私は自分の全てを差し出す。例え美雪に救って貰ったこの命でさえ差し出す。それが罪を犯した私の……美雪を殺してしまった、この手で殺してしまった。私自身の罪と罰だから）」

これまでに一体何が合ったのかのか？ その真相は次回に続く

第18話 精神の強さ（後書き）

次回予告「闇に飲み込まれた遊奈は次第にその心を食われていき闇のカードを生み出すプラント化していく。そんな中セレーナが召喚した皇帝ルドルフはその圧倒的な力を使い闇と化した遊奈に襲いかかる。その仮定でセレーナは遊奈に興味を持ち自分の物に使用と考える。そんな中1人遊奈を見守りクルナを待つ美雪は次第に変わり果てる遊奈を見て有ることを決意する。果たしてその決意とは」

次回遊戯王デュエリストクイーンズ第19話「皇帝ルドルフの圧政」お楽しみに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0396h/>

遊戯王デュエリストクイーンズ

2010年10月10日05時59分発行